仕様記述言語

SPEC L-PERFECT（SLP） Version 1.0

取扱説明書

操作編

株式会社ジェーエフピー

Copyright (C) 2010 JFP, Inc.
All rights Reserved.

2010/09/15　version

目次

０．　インストール.....1
●インストール.....1
●アンインストール.....2
●動作環境.....2
１．　ソフトウェアの起動.....3
２．　SLP とは.....4
３．　SLP アプリケーションのウインドウ構成.....6
４．　メニュー機能一覧.....7
５．　単位機能の記述操作方法.....12
■コンテキストメニュー.....12
■単位機能の作成方法.....12
■構文の記述方法（単位機能ウインドウ　Function 欄）.....12
■入力テーブルの利用（単位機能ウインドウ　Function 欄）.....14
■貼り付け操作の注意点.....16
６．　Function 欄の構文記述（編集操作）.....16
■構文の追加.....16
■構文の修正.....16
■構文の削除.....16
■構文の置換.....16
■構文を包む.....16
■入力位置の移動.....17
■マウスドラッグによる範囲選択.....17
■文字列のカット、コピー&ペースト、行貼り付け機能.....17
■アンドゥ.....19
７．　SLP 構文の構文規則.....20
■if 構文.....20
■Do 構文.....20
■Fn 構文.....20
■switch 構文.....21
■loop 構文.....21
■コメント文.....21
■改行文.....21
８．　階層順目次の編集.....22
■基本表示.....22
■階層順目次の単位機能の表示/非表示.....22
■階層順目次の属性表示.....22
■階層順目次への単位機能ボックスの編集.....23
■階層順目次の拡大縮小表示、削除 ID 操作、単位機能検索、ページ移動.....26
■階層順目次の単位機能ボックスの ID、機能名編集.....27
■階層順目次から単位機能へのウインドウ移動.....28
９．　ＩＤ順目次の編集.....29
■基本表示.....29
■ＩＤ順目次の単位機能の表示/非表示.....29
■ＩＤ順目次の属性表示.....29
１０．　検査機能.....30

■記述内容の確認 30
■当該単位機能検査・全体検査 30
■同一メンバー無矛盾設定 36
■語句検査－曖昧検査 40
■語句検査－類似検査 40
■検査機能のメッセージ一覧 41
１１．　プロセス機能 43
■差分開発 43
■単位機能結合 44
■デシジョンテーブル作成 45
■テスト仕様作成 45
■トレーサビリティ 45
■機能属性一覧 46
■Team Foundation Server 連携 47
１２．　我思う機能 47
■マーク機能 47
■マーク内容 48
■マーク行表示 48
１３．　各ダイアログの詳細説明 49
■ダイアログ名　：版の管理ダイアログ 49
■ダイアログ名　：版の履歴入力ダイアログ 50
■ダイアログ名　：版の履歴表示ダイアログ 51
■ダイアログ名　：印刷設定（ＩＤ順目次）ダイアログ 52
■ダイアログ名　：印刷設定（階層順目次）ダイアログ 52
■ダイアログ名　：印刷設定（単位機能）ダイアログ 54
■ダイアログ名　：印刷設定-タイトルダイアログ 56
■ダイアログ名　：印刷設定（検査・検索等結果）ダイアログ 57
■ダイアログ名　：印刷設定（メモ）ダイアログ 58
■ダイアログ名　：印刷設定-余白、他ダイアログ 59
■ダイアログ名　：機能内容検索 64
■ダイアログ名　：ジャンプダイアログ 64
■ダイアログ名　：タイトルダイアログ 65
■ダイアログ名　：メンバー名・状態名登録ダイアログ 66
■ダイアログ名　：単位機能結合ダイアログ 69
■ダイアログ名　：デシジョンテーブル作成 70
■ダイアログ名　：同一メンバー無矛盾設定 70
■ダイアログ名　：意味関係設定 71
■ダイアログ名　：記述内容の確認ダイアログ 72
■ダイアログ名　：文字検索ダイアログ 74
■ダイアログ名　：検索基準設定ダイアログ 74
■ダイアログ名　：機能内容フォント設定ダイアログ 75
■ダイアログ名　：Function 欄フォント設定ダイアログ 75
■ダイアログ名　：環境設定（フォント）ダイアログ 77
■ダイアログ名　：環境設定（目次）ダイアログ 78
■ダイアログ名　：環境設定（単位機能ヘッダー）ダイアログ 80
■ダイアログ名　：環境設定（単位機能 Function 欄）ダイアログ 82
■ダイアログ名　：環境設定（デシジョンテーブル作成）ダイアログ 85
■ダイアログ名　：環境設定（同一メンバー無矛盾）ダイアログ 86
■ダイアログ名　：環境設定（意味関係）ダイアログ 87
■ダイアログ名　：環境設定（版の管理）ダイアログ 88

■ダイアログ名　：環境設定（我思う）ダイアログ.....89
■ダイアログ名　：環境設定（曖昧語辞書）ダイアログ.....91
■ダイアログ名　：環境設定（トレーサビリティ）ダイアログ.....92
■ダイアログ名　：環境設定（テスト仕様作成）ダイアログ.....93
■ダイアログ名　：環境設定（工程設定）ダイアログ.....94
■ダイアログ名　：機能入力ダイアログ.....95
■ダイアログ名　：削除 ID リストダイアログ.....95
■ダイアログ名　：単位機能検索 ID ダイアログ.....96
■ダイアログ名　：単位機能検索 機能名ダイアログ.....96
■ダイアログ名　：行マーク内容の編集ダイアログ.....97
１４．　サポート.....98

０．インストール

●インストール

インストーラ（SLP-x.xx.xxxx-installer.msi）を実行して、ガイドに沿ってハードディスクにインストールを行って下さい。
備考：x.xx.xxxx には SLP のバージョン番号が入ります。

インストールの準備が終了すると、ダイアログが表示されますので、ダイアログの指示にしたがってインストールを行います。
（インストールを中止する場合には、キャンセルボタンをクリックして、インストールを中止して下さい。）

最初に、使用許諾契約が表示されます。
これは、SLP の使用許諾契約書ですので、記載されている内容を注意深くお読み下さい。
契約の残りの部分を読むには、[Page Down]キーを押下してスクロールさせて下さい。

製品使用許諾契約の全ての条項に同意する場合には、同意するボタンをクリックします。同意しない場合には、同意しないボタンをクリックして、SLP のセットアップを中止します。

インストールを続けますので、次へボタンをクリックします。

次に、SLP をインストールする場所を選択します。
SLP をインストールするにはハードディスク上に 150M バイト以上の空き容量が必要ですので、十分な空き容量のあるドライブを選択し、インストール先のフォルダを選択して下さい。インストール先のドライブ、フォルダの選択が終了したら、次へボタンをクリックして下さい。
インストールが開始されます。

インストールを中断する場合には、キャンセルボタンをクリックしてインストール作業を終了します。

●アンインストール

お使いの PC から SLP を削除する際は、直接ハードディスクから削除しないで、必ずアンインストーラを使って削除して下さい。

アンインストーラを起動するには、Windows のコントロールパネルを開き、*アプリケーションの追加と削除*で SLP を選んで、変更／削除ボタンを押して下さい。
ファイルの削除の確認ダイアログが表示されますので、削除する場合には、はい、削除しない場合には、いいえボタンを押して下さい。
はいボタンをクリックすると、ファイルの削除が開始され、SLP は、ハードディスクから削除されます。

●動作環境

OS	日本語 Microsoft Windows XP(SP2 以降) / Vista / 7	
CPU	1GHz 以上	
メモリ	Windows XP	512MB 以上（推奨 1GB 以上）
	Windows Vista / 7	1GB 以上 （推奨 2GB 以上）
ハードディスク	150MB 以上の空き容量	
ディスプレイ	解像度：1024×768 以上 High Color (65536 色) 以上推奨	

１．ソフトウェアの起動

インストールで作成されたデスクトップ上のショートカット、もしくは、[スタート]－[プログラム（Ｐ）]－[SPEC L-PERFECT]を起動します。

起動すると、スプラッシュイメージを表示してから、SLP ソフトウェアが開始します。

２．SLP とは

SLP は、ソフトウェアの要求仕様を記述するためのソフトウェア・ツールです。ソフトウェア開発で、仕様自体に矛盾や未定義事項があれば、システムの正しい動作を保証できない問題に着眼しました。

特徴は、以下になります。
・簡単な文法で誰もが容易に、かつ矛盾がなく論理的に正しく厳密に機能を記述できます。
・正確を期すために、文書全体に渡る記述された用語のチェク、構文・冗長・矛盾の検査を行うことができます。
・ソフトウェア開発プロセスに求めらる差分開発･トレーサビリティ･機能属性･デシジョンテーブル作成・テスト仕様作成等に対応しています。

SLP では、要求仕様の機能を記述した文書を、*SLP 文書*と呼びます。

SLP 文書は、下記で構成されます。

■タイトル		文書名の名称（ファイル名のデフォルトになります）
■単位機能	●ID	単位機能の ID 番号
	●機能名	単位機能の機能名称
	●機能内容	単位機能の機能説明（補足） オブジェクトのリンクと埋め込み(OLE)に対応しています。
	●機能属性	単位機能の属性
	●原要求項目	単位機能に対応する要求仕様項目
	●当工数	単位機能毎に管理する工数
	●Function	単位機能の機能詳細（SLP 構文により記述します）
■登録メンバー名・状態名		登録メンバー名と登録状態名
■動作環境設定		SLP 文書の動作環境設定

Function（単位機能の機能詳細）は、次の SLP 構文で構成されています。
SLP で用いる構文とその構文規則を定めることにより、SLP の文法とします。用いる構文は SLP 構文と呼びます。構文規則は、SLP 構文規則と呼びます。

●if 構文
●Do 構文
●Fn 構文
●switch 構文
●loop 構文
●コメント文
●改行文

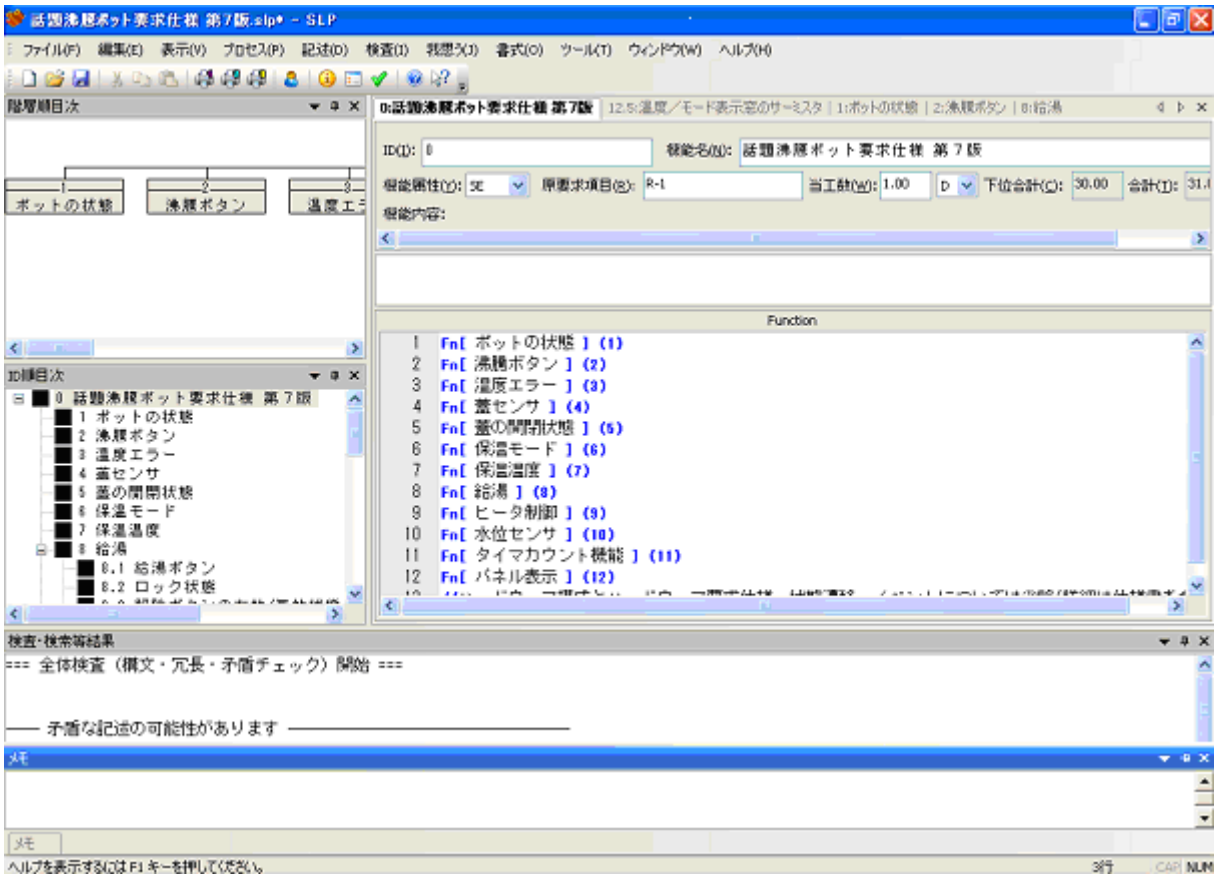
単位機能はその記述過程で次の状態を経ます。

●未組込み	親単位機能の Function から引用されていない状態の単位機能
●既組込み	親単位機能の Function から引用されている状態の単位機能
●未記述	機能名が記述されていない状態の単位機能
●既記述	機能名が記述されている状態の単位機能

最上位の単位機能は、*起点単位機能*と呼びます。

３．SLP アプリケーションのウインドウ構成

SLP はアプリケーションとして下記のウインドウ（View）から構成されます。



■ID 順目次　　単位機能が、ID 順に表示され、単位機能の目次として利用できます。単位機能の編集ができます。

■階層順目次　　単位機能が階層順に表示され、単位機能の目次として利用できます。単位機能の編集ができます。

■単位機能

●ID 欄　　単位機能の ID 番号を記述します。
●機能名欄　　単位機能の機能名称を記述します。
●機能内容欄　　単位機能の機能説明（補足）します。
文字数制限があり、1024 文字までしか記述できません。それ以上長い文を記述する場合は、メモウインドウに記述してください。
オブジェクトのリンクと埋め込み(OLE)に対応しています。
●機能属性欄　　単位機能の属性を記述します。
●原要求項目欄　　単位機能に対応する要求仕様項目を記述します。
●当工数欄　　単位機能毎に管理する工数を記述します。
●Function 欄　　単位機能の機能詳細を、SLP 構文により記述します。
●Input 欄　　F unction 欄の if 構文、switch 構文の<メンバー名>{状態名}

を自動表示します。

●Output 欄　　Function 欄の Do 構文の〈メンバー名〉{状態名}を自動表示します。

■検査・検索等結果　　検査・検索等の結果を表示します

■メモ　　メモ等の用途に利用できます。

単位機能は、
単位機能　Function 欄では Fn 構文に対応しています
階層順目次欄では、単位機能ボックスに対応しています
辞書順目次欄では、各行に対応しています。

4．メニュー機能一覧

メニュー階層	メニュー階層2	メニュー階層3	メニュー階層4	概要	ショートカットキー	→ダイアログ名
ファイル	新規作成	−	−	SLP文書を新規に作成します。	Ctrl + N	−
	開く	−	−	既存のSLP文書を開きます。	Ctrl + O	−
	閉じる	−	−	SLP文書の現在の状態を、保存せずに閉じます。	Alt + F + C	−
	上書き保存	−	−	SLP文書の現在の状態を、同じファイル名で上書き保存します。	Alt + S	−
	名前を付けて保存	−	−	SLP文書の現在の状態を、別のファイル名で保存します。	Alt + F + A	−
	インポート	環境設定インポート−	−	指定したSLP文書から、動作環境の設定値をインポートします。	Alt + F + I + E	−
		メンバー名・状態名インポート	−	指定したSLP文書から、登録されたメンバー名・状態名をインポートします。	Alt + F + I +M	−
	版の管理	−	−	SLP文書の現在の状態を、別の版として保存します。 1SLP文書で10個の版まで保存できます。	Alt + F + L	版の管理
	プリンタ設定	−	−	印刷時のプリンタに関して設定します。 プリンタ名、印刷用紙、印刷方向を設定できます。	Alt + F + R	プリンタの設定
	印刷設定	−	−	印刷時のページに関して設定します。 ID順目次印刷、階層順目次印刷、単位機能印刷、タイトル印刷、検査・検索等結果印刷、メモ印刷、余白、他を設定できます。	Alt + F + T	印刷設定
	印刷プレビュー	ID順目次印刷プレビュー	−	ID順目次の印刷プレビューを表示します。	Alt + F + V + L	−
		階層順目次印刷プレビュー	−	階層順目次の印刷プレビューを表示します。	Alt + F + V + H	−
		単位機能印刷プレビュー	−	単位機能の印刷プレビューを表示します。	Alt + F + V + T	−
		タイトル印刷プレビュー	−	タイトルの印刷プレビューを表示します	Alt + F + V + I	−
		検査・検索等結果印刷プレビュー	−	検査・検索等結果ウインドウの印刷プレビューを表示します	Alt + F + V + O	−
		メモ印刷プレビュー	−	メモウインドウの印刷プレビューを表示します	Alt + F + V + M	−
	印刷	ID順目次印刷	−	ID順目次を印刷します。 IDが長い場合は途中が省略されます。IDと機能名が1行に収まらない場合は、2行表示になり、2行でも収まらない場合は省略されます。	Alt + F + P + L	−
		階層順目次印刷	−	階層順目次を印刷します。 IDが長い場合は、省略されます。 機能名が長い場合も、省略されます。	Alt + F + P + H	−
		単位機能印刷	−	単位機能を印刷します。	Alt + F + P + T	−
		タイトル印刷	−	タイトルを印刷します。	Alt + F + P + I	−

		検査・検索等結果印刷	－	検査・検索等結果ウインドウの内容を印刷します。	Alt + F + P + O	－
		メモ印刷	－	メモウインドウの内容を印刷します。	Alt + F +P + M	－
	アプリケーションの終了	－	－	SLPを終了します。 SLP文書が未保存状態の場合は、保存の確認を行います。	Alt + X	－
編集	元に戻す	－	－	直前に行った編集操作をキャンセルし元に戻します。 単位機能内の編集動作に対する操作が対象となります。ただしIDの変更は元に戻せません。	Ctrl + Z	－
	切り取り	－	－	現在選択しているデータを削除して、クリップボードに保存します。 データをクリップボードに切り取ると、それまでクリップボードに保存されていたデータは、新たに切り取った内容に置換されます。 データが選択されていないときは、この操作は使用できません。	Ctrl + X	－
	コピー	－	－	現在選択しているデータをクリップボードに保存します。 データをクリップボードにコピーすると、それまでクリップボードに保存されていたデータは、新たにコピーした内容に置換されます。 データが選択されていないときは、この操作は使用できません。	Ctrl + C	－
	貼り付け	－	－	クリップボードのデータをカーソル位置に挿入します。 クリップボードに何も保存されていないときは、このコマンドは使用できません。	Ctrl + V	－
	削除	－	－	現在選択しているデータを削除します。 データが選択されていないときは、この操作は使用できません。	Ctrl + D	－
	すべて選択	－	－	編集箇所のすべてを選択します。	Ctrl + A	－
	検索	－	－	現在の単位機能Function欄の記述内で、指定したテキストを検索します。検索し最初に発見した項目にカーソルを移動します。	Ctrl + F	検索
	置換	－	－	現在の単位機能Function欄の記述内で、指定したテキストを検索し置換します。	Ctrl + H	置換
	全検索	－	－	すべての単位機能Function欄の記述内で、指定したテキストを検索します。検索し最初に発見した項目にカーソルを移動します。	Ctrl + Shiift + F	全検索
	全置換	－	－	すべての単位機能Function欄の記述内で、指定したテキストを検索し置換します。	Alt + I	全置換
	機能内容検索	－	－	すべての単位機能の機能内容欄で、指定した文字列が含まれる単位機能を、検査・検索等結果ウインドウに表示します。		機能内容検索
	ジャンプ	－	－	現在記述中の単位機能の、Function欄内の指定行にジャンプします。	Ctrl + G	ジャンプ
	オブジェクトの作成と貼り付け			単位機能の機能内容欄にオブジェクトを作成、貼り付け(挿入)します。	Altl + E + N	オブジェクトの挿入
	リンクの設定			オブジェクトに対応するファイルのリンクを設定します。	Altl + E + K	リンクの設定
	オブジェクトのプロパティ			オブジェクトのプロパティを設定及び表示します。	Altl + E + R	オブジェクトのプロパティ
表示	ツールバーとドッキングウィンドウ	標準	－	ツールバーの表示/非表示を切り替えます。	Alt + T	－
		階層順目次	－	階層順目次ドッキングウィンドウの表示/非表示を切り替えます。	Alt + T	－
		ID順目次	－	ID順目次ドッキングウィンドウの表示/非表示を切り替えます。	Alt + T	－
		検査・検索等結果	－	検査・検索等結果ドッキングウィンドウの表示/非表示を切り替えます。	Alt + T	－
		メモ		メモドッキングウィンドウの表示/非表示を切り替えます。	Alt + T	
		カスタマイズ	－	ツールバーボタン、メニュー、およびショートカットキーの割り当てを独自に設定します。	Alt + T	－

	ステータスバー	－	－	ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。	Alt + S	－
	アプリケーションの外観	－	－	アプリケーションの外観スタイルを変更します。	Alt + A	－
プロセス	差分開発	ベースモデルを開く	－	差分開発用として、ベースモデルを開きます。	Alt + P + D +O	－
		差分表示	当該単位機能	ベースモデルとの当該単位機能の差分を表示します。	Alt + P + D + V +C	－
			すべての単位機能	ベースモデルとのすべての単位機能の差分を表示します。	Alt + P + D + V+ A	
		差分開発を解除する	－	現在のSLP文書を差分開発用から解除します。	Alt + P + D +E	－
	単位機能結合	－	－	単位機能を結合します。	Alt + P + U	単位機能結合
	デシジョンテーブル作成	－	－	デシジョンテーブルを作成します。	Alt + P + E	デシジョンテーブル作成
	テスト仕様作成	－	－	テスト仕様を作成します。	Alt + P + M	－
	トレーサビリティ	原要求項目一覧表示	－	原要求項目を一覧表示します。	Alt + P + T+ S	－
		トレーサビリティ・マトリックスエクスポート	－	トレーサビリティ・マトリックスをエクスポートします。	Alt + P + T+ E	－
		トレーサビリティ・マトリックスインポート	－	トレーサビリティ・マトリックスをインポートポートします。	Alt + P + T+ I	－
		工程別・マトリックスエクスポート	－	工程別・マトリックスをエクスポートします。	Alt + P + T + P	－
		原要求項目別・マトリックスエクスポート	－	原要求項目別・マトリックスをエクスポートします。	Alt + P + T + R	－
		単位機能項目別・マトリックスエクスポート	－	単位機能項目別・マトリックスをエクスポートします。	Alt + P + T + T	－
	機能属性一覧	機能属性一覧表示	－	機能属性一覧を表示します。	Alt + P + A + S	－
		機能属性一覧エクスポート	－	機能属性一覧をエクスポートします。	Alt + P + A + E	－
		機能属性一覧インポート	－	機能属性一覧をインポートします。	Alt + P + A + I	－
	Team Foundation Server 連携	Team Foundation Server との接続		Team Foundation Server と接続して、ワークアイテムとリンクします。	Alt + P + A + S	
記述	タイトル	－	－	SLP文書のタイトルを設定します。	Alt + D + D	タイトル
	ID順目次	－	－	ID順目次のウィンドウを表示します。 既に表示されている時は、ID順目次ウィンドウに入力カーソルが移動します。	Alt + D + L	－
	階層順目次	－	－	階層順目次のウィンドウを表示します。 既に表示されている時は、階層順目次ウィンドウに入力カーソルが移動します。	Alt + D + H	－
	メンバー名・状態名登録	－	－	メンバー名、状態名を登録します。 メンバー名、状態名は、単位機能Function欄のif構文、Do構文、switch構文で使用します。	Alt + D + M	メンバー名・状態名登録
	未登録メンバー名登録	－	－	未登録メンバー名と対応する状態名を登録します。	Alt + D + A	未登録メンバー名登録
	未登録メンバー名補足	－	－	当該単位機能の未登録メンバー名の名称を、指定接頭郷を付加することにより補足します。	Alt + D + U	未登録メンバー名補足
検査	記述内容の確認	－	－	SLP記述内容を確認します。(全単位機能内)	Alt + I + K	記述内容の確認
	当該単位機能検査	全項目検査	－	SLP記述の構文規則、冗長性、矛盾を検査します。(現在表示中の単位機能内)	Alt + I + T	－
	全体検査	構文検査	－	SLP記述の構文規則を検査します。(全単位機能内)	Alt + I + Z + S	－
		冗長検査	－	SLP記述の冗長性を検査します。(全単位機能内)	Alt + I + Z + J	－
		矛盾検査	－	SLP記述の矛盾を検査します。(全単位機能内)	Alt + I + Z + M	－

		全項目検査	－	SLP記述の構文規則、冗長性、矛盾を検査します。(全単位機能内)	Alt + I + Z + Z	－
	同一メンバー無矛盾設定追加	－	－	同一メンバー名での無矛盾の関係を追加します。	Alt + I + A	同一メンバー無矛盾設定
	意味関係追加	－	－	意味関係を追加します。	Alt + I + P	意味関係設定
	語句検査	曖昧後検索	－	曖昧後辞書で登録されている曖昧語が含まれているメンバー名・状態名を検索します。(全単位機能内) 検索結果の一覧は検査・検索等結果ウインドウに表示されます。	Alt + I + W + A	－
		類似語検索	－	類似しているメンバー名・状態名を検索します。(全単位機能内) 検索結果の一覧は検査・検索等結果ウインドウに表示されます。 類似の基準は、*検索基準設定*で設定してください。	Alt + I + W + G	－
		類似語検索基準設定	－	*類似語検索*で、類似と判断する基準を設定します。	Alt + I + W + S	検索基準設定
我思う	考え中	－	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
	迷ってる	－	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
	もっと調べよ	－	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
	意見を聞け	－	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
	ひとまず保留	－	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
	定義し直せ	－	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
	レビューせよ	－	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
	グループ1	属性8	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
		属性9	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
		属性10	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
		属性11	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
		属性12	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
		属性13	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
		属性14	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
		属性15	－	メニューの属性のマーク行の一覧を表示します。		－
書式	機能内容フォント	－	－	単位機能の機能内容欄のフォントを設定します。	Alt + O + K	機能内容フォント設定
	Function欄フォント	－	－	単位機能のFunction欄のフォントを設定します。	Alt + O + S	Function欄フォント設定
ツール	環境設定	フォント	－	*フォント*を設定します。		フォント設定
		目次	－	*目次*の動作環境(フォントなど)を設定します。		目次環境設定
		単位機能ヘッダー部	－	単位機能のヘッダー部の動作環境を設定します。		単位機能ヘッダー部設定
		単位機能Function欄	－	単位機能のFunction欄の動作環境を設定します。		単位機能Function欄設定
		デシジョンテーブル作成	－	デシジョンテーブルの作成の動作環境を設定します。		デシジョンテーブル設定
		同一メンバー無矛盾関係	－	同一メンバー無矛盾関係の動作環境を設定します。		同メンバー状態関係設定
		意味関係	－	意味関係の動作環境を設定します。		単位意味関係設定
		版の管理	－	版の管理機能の動作環境を設定します。		版の管理設定
		我思う	－	我思う機能の動作環境を設定します。		我思う設定
		曖昧後辞書	－	曖昧後の辞書登録をします。		曖昧後辞書設定
		トレーサビリティ	－	トレーサビリティ機能の動作環境を設定します。		トレーサビリティ設定
		テスト仕様作成	－	テスト仕様作成の動作環境を設定します。		テスト仕様設定
		工程設定		開発工程を設定します。		工程設定

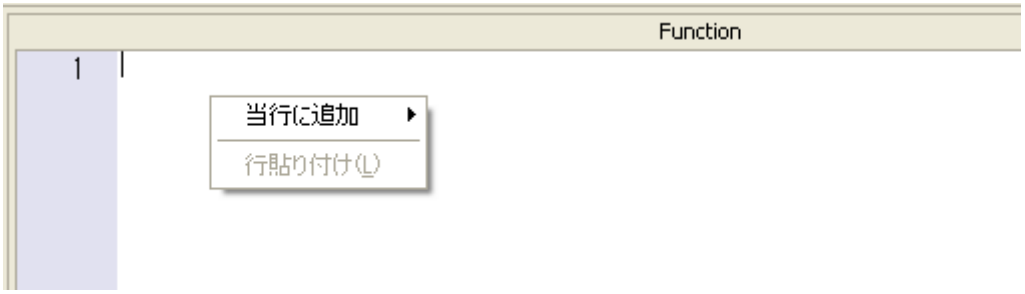
※ ダイアログとは、対話形式でユーザーに何らかの入力を促すために表示されるウインドウのことで、他のウインドウよりも手前に表示されます。

５．単位機能の記述操作方法

単位機能を記述する操作方法を説明します。

■コンテキストメニュー

Function 欄で、マウスの右クリックでポップアップメニューであるコンテキスニューが表示され、そこから編集操作を選択することができます。
なお、その時の状況により、表示されるコンテキストメニューの内容は変わります。
※Shift+F10 でも表示できます。



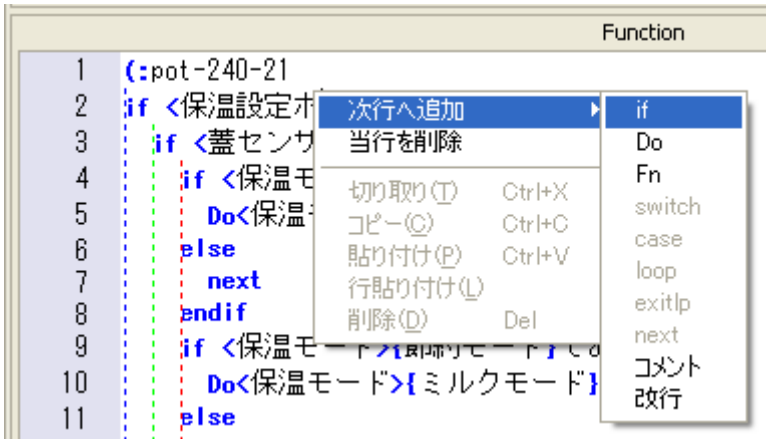
■単位機能の作成方法

単位機能を作成するには、次の方法があります。

●単位機能の Function 欄に、Fn 構文で、単位機能として存在していない機能名を入力することにより、その機能名の単位機能を作成します。

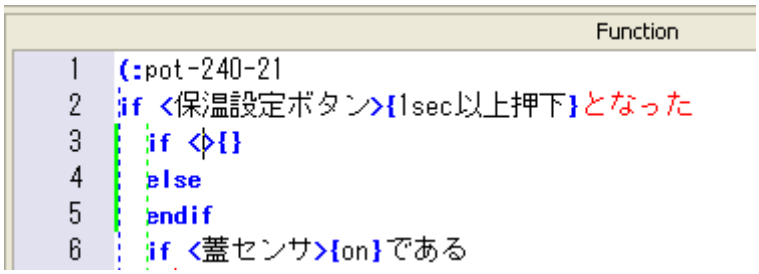
■構文の記述方法（単位機能ウインドウ　Function欄）

●単位機能ウインドウの Function 欄内の、構文を追加したい位置で右クリックによりコンテキストメニューを表示し、構文の種類を選択します。



●選択すると構文が追加され、*構文記号*（if や Fn など）、*変項記号*（< >や[ ]）が自動的

に表示されます。
構文記号は、構文の種類によっては複数行になります。



●構文の*変項領域*（入力領域）に対して記述や修正をします。

記述はキーボードからのキー入力、または入力テーブルから入力済みのデータを選択することにより行います。

なお、*変項領域*は、記述は後でも構いません。
※ただし、Fn 構文の*変項領域*である機能名は、追加直後に記述する必要があります。

変項領域の数は構文の種類によって変わります。
※以降の構文説明では、変項領域の種類を下記で表記します。

xxxx	機能名
mmmm	メンバー名
ssss	状態名

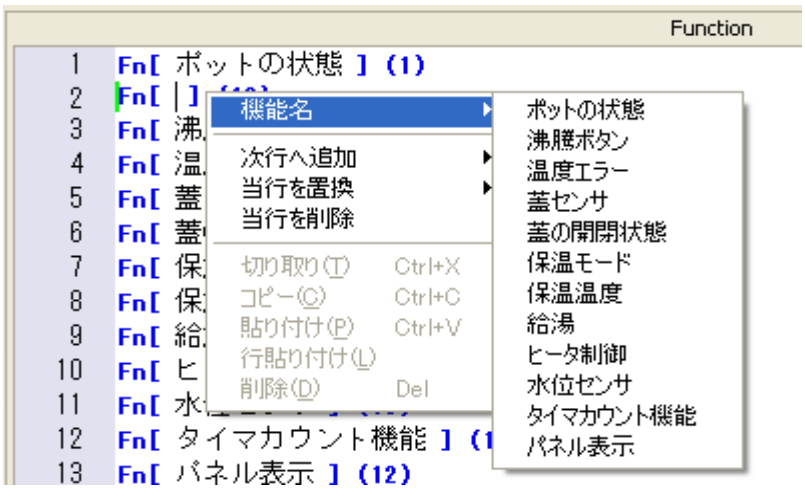
SLP 構文の記述の詳細については、７．SLP 構文の構文規則を参照してください。

■入力テーブルの利用（単位機能ウインドウ　Function欄）

　下記の入力テーブル（リストからの選択機能）を用いて、キー入力の手間を省力化することができます。

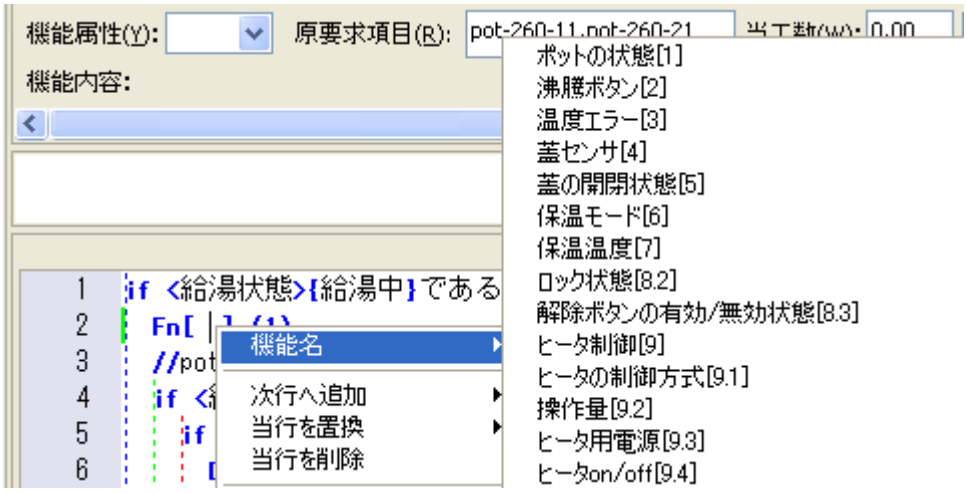
●機能名テーブル

機能名を入力する変項領域では、右クリックによるコンテキストメニューの*機能名テーブル*から、機能名を選択することができます。
機能名テーブルには、該当単位機能の子単位機能の機能名が表示されます。

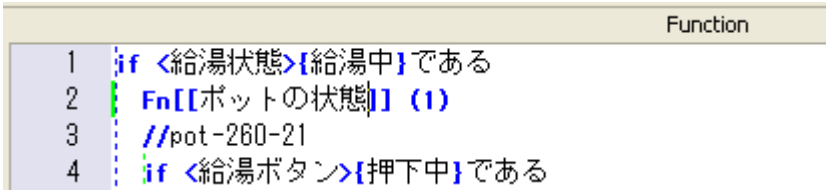


●再利用テーブル

　機能名を入力する変項領域では、[Shift]キー＋右クリックで、コンテキストメニューに再利用することができる機能名のリストである*再利用テーブル*を表示させて、そこから選択することができます。
再利用テーブルには、機能名が定義済みの単位機能（の機能名）が表示されます。また、現在入力中である単位機能の、直系祖先である単位機能はリストには表示されません。



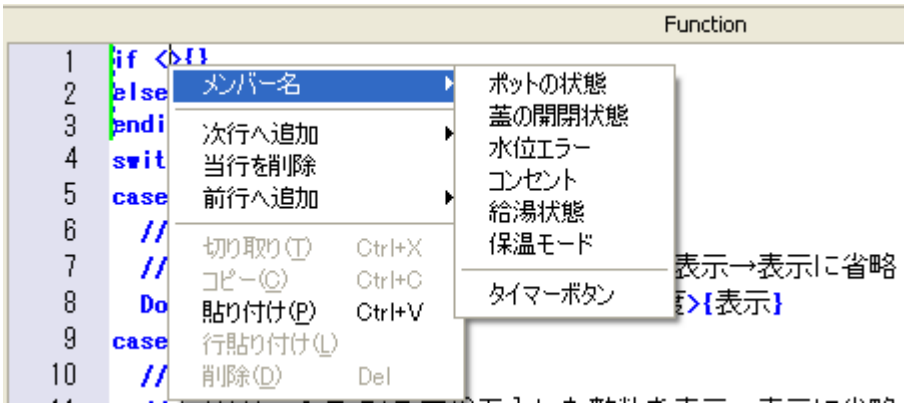
再利用した場合、機能名は二重の大括弧で囲まれて表記されます。
（Fn [[xxxx]]　(n)）



再利用の機能名を編集した場合、再利用状態は解除になります。

●メンバー名テーブル

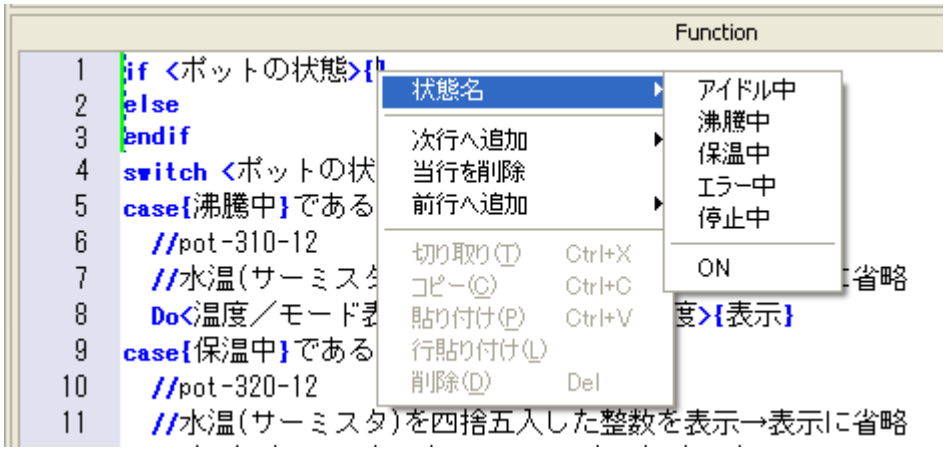
メンバー名を入力する変項領域では、コンテキストメニューの*メンバー名テーブル*から、登録済みや入力済み最新 30 個までのメンバー名を選択することができます。



登録は*メンバー名・状態名登録ダイアログ*で行い、*登録メンバー名*と呼び、それ以外は、*未登録メンバー名*と呼びます。

●状態名テーブル

状態名を入力する変項領域では、コンテキストメニューの*状態名テーブル*から、登録済みや入力済み状態名を選択することができます。



登録は*メンバー名・状態名登録ダイアログ*で行い、*登録状態名*と呼び、それ以外

は、*未登録状態名*と呼びます。

■貼り付け操作の注意点

貼り付け操作では、入力領域によって以下の動作上の違いがあります。

・Function 欄：
　貼り付けデータ内に改行コード、又は括弧が存在した場合、貼り付けられるデータはその前のデータまでが対象となります。

・ID、機能名、機能記号名、原要求項目、当工数欄：
　貼り付けデータ内に改行コードが存在した場合、貼り付けられるデータはその前のデータまでが対象となります。
貼り付けた先の入力項目でデータとして NG の文字列だった場合は、操作は無視されます。（ただし、現在位置が移動された場合にチェックされます）

６．Function 欄の構文記述（編集操作）

Function 欄の構文を記述する操作方法を説明します。

■構文の追加

追加する行位置に入力位置を移動し、そこでコンテキストメニューを表示させ、追加する構文を選択します。
現在の入力位置や状態によって、前行に追加、当行に追加、または次行へ追加を選択することができます。

■構文の修正

修正する構文に入力位置を移動し、そこで*機能名*や*メンバー名*、*状態名*など修正対象を選択し修正します。

■構文の削除

削除する行位置に入力位置を移動し、そこでコンテキストメニューを表示させ、当行を削除を選択します。
削除できない行では、当行を削除メニューは無効です。
（例えば、if 構文を削除する場合、else 行では削除できません。if 行で削除してください）

■構文の置換

置換元の構文に入力位置を移動し、そこでコンテキストメニューを表示させ、当行を置換から置換後の構文を選択します。

■構文を包む

選択した構文を、新たな if 構文で囲むことにより、if 構文の中に包みます。
（loop 構文内に包むことも可能です）

選択した行に対し、コンテキストメニューを表示させ、挿入方法を下記から選択します。

●if else 内に包む：if 構文の if と else の間に包みます。
●else endif 内に包む：if 構文の else と endif の間に包みます。
●loop 内に包む：loop 構文の loop と endlp の間に包みます。

選択範囲に挿入される行の全てを含まない場合でも、全て選択された場合と同様に包みます。
選択範囲内の行が、選択された構文に挿入不可の場合は、メニューが選択できません。

■入力位置の移動

マウスポインタによる移動の他に、下記の方法で入力位置（キャレット）を移動することができます。
どこでも行の挿入を行えるようにするため、変項領域の無い行へも移動します。

●[TAB]キー：
　次の入力可能位置、又は入力位置の移動可能位置に移動します。
●[Shift] + [TAB]キー：
　一つ前の入力可能位置、又は入力位置の移動可能位置に移動します。
●↑キー：前の行の入力可能位置に移動します。
●↓キー：後ろの行の入力可能位置に移動します。
●→キー：
　現在の入力可能領域内で右側に文字がある場合は、1 文字後ろに移動します。
●←キー：
　現在の入力可能領域内で左側に文字がある場合は、１文字前に移動します。
●[PageUp]キー：１０行前に移動します。
●[PageDown]キー：１０行後ろに移動します。
●[Home]キー：現在の行の、先頭の入力可能領域の左端に移動します。
●[End]キー：現在の行の、最後の入力可能領域の末尾に移動します。

■マウスドラッグによる範囲選択

●１行内の一部を選択した場合：
　選択範囲内（の先頭の）変項領域に入力位置（キャレット）を移動します。

●１行以上の複数行を選択した場合：
　構文を包む動作になります。

■文字列のカット、コピー&ペースト、行貼り付け機能

●切り取り（カット）
　変項領域の文字列を選択している状態でコンテキストメニューを表示させ、　切り取りを選択します。
　（[Ctrl]+ [X]キー）（メニュー[編集]-[切り取り]）
文字列が切り取られ、クリップボードに保存されます。

※クリップボードとは、コピー操作やカット操作を行なったデータが一時的に保存される領域です。

行を選択している場合は、切り取りは不可としますので、構文の削除を実行してください。

●コピー

変更領域の文字列を選択している状態でコンテキストメニューを表示させ、コピーを選択します。

（[Ctrl]+ [C]キー）（メニュー[編集]-[コピー]）

文字列がコピーされ、クリップボードに保存されます。

クリップボードに保存される情報はテキストデータのみとし、フォント情報はコピーされません。

選択領域が 1 行以上である場合、行データをコピーします。行データは選択された行が含まれる構文全てを選択領域とします。例えば else の行だけ選択されたとしてもコピーバッファにコピーされる行は if の行から endif の行までをコピーします。

行データコピーの場合、クリップボードに保存される情報はテキストデータと、Function 欄の行データの両方となりますが、Function 欄以外に貼り付ける場合はテキストデータのみが貼り付け可能です。

●貼り付け（ペースト）

貼り付けたい変項領域に入力位置を移動し、コンテキストメニューを表示させ、貼り付けを選択します。

（[Ctrl]+ [V]キー）（メニュー[編集]-[貼り付け]）

クリップボードに保存されているテキストデータが現在の入力位置に挿入されます。

現在の入力位置が変項領域でなければ操作は無視されます。

変項領域で範囲選択されていた場合は、選択データと置き換えられます。

クリップボードから貼り付けされる情報はテキストデータのみとし、フォント情報はコピーされません。

行データコピーの場合でも貼り付けを選択した場合は貼り付けられる情報はテキストデータのみとなります。

●行貼り付け

行データコピーを行った後で、貼り付け可能な位置の前の行にテキスト入力カーソルがある場合は、行貼り付けを行うことができます。

クリップボードに保存されている SLP の行データが現在の行の次行に挿入されます。

行データがクリップボードにある場合でもその内容が現在位置では貼り付けできない場合、行貼り付けメニューは選択不可になります。

Fn 構文を貼り付ける場合、その内容が該当行では貼り付け不可であるときは、Fn 構文の行はコメント行に置き換えられます。コメント内に Fn 構文と機能名が記述されますので、必要であれば Fn 構文を追加して再利用データを作成する等をしてください。

行貼り付けを行った場合、if 構文内部への貼り付け等貼り付け位置によって行の

先頭位置が適切な位置に変更されます。

●削除

変項領域の文字列を選択している状態でコンテキストメニューを表示させ、 削除を選択します。

（[DEL]キー）（メニュー[編集]-[削除]）

文字列が切り取られ、クリップボードには保存されません。

■アンドゥ

直前に行った Function 欄内での編集操作をキャンセルし元に戻します。

（[Ctrl]+ [Z]キー）（メニュー[編集]-[元に戻す]）

もう一度アンドゥを行うとアンドゥ操作する前の状態に戻ります（リドゥ）

以下のものに関しては、アンドゥ操作はできません（アンドゥメニューが選択できない状態になります)。

・Fn 構文の追加
・Fn 構文の削除
・Fn 構文からの置換
・Fn 構文への置換
・Fn 構文の機能名変更

7．SLP 構文の構文規則

Function 欄へ記述する、SLP 構文の構文規則を説明します。

■if構文

構文規則	If < mmmm >{ ssss }
	
	else
	
	endif
		if～else 間、及び else～endif 間に、初期状態で変項領域には何もありませんので、記述する機能に応じて追加してください。
		
		if 構文内には、*next 構文*(次の処理に移行)を記述することができます。
		
		(ただし if 構文内に他の構文が既に有る場合は、記述できません)

変項領域①	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、*メンバー名テーブル*から選択することもできます。 Iutput 欄に表示されます。
変項領域② 省略可能	助詞	>{の間に、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域③	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、*状態名テーブル*から選択することもできます。 Iutput 欄に表示されます。
変項領域④ 省略可能	助動詞	}の後ろに、状態が遷移するかしないかを助動詞を選んで記述することができます。

■Do構文

構文規則	Do< mmmm >{ ssss }	
変項領域①	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、*メンバー名テーブル*から選択することもできます。 Output 欄に表示されます。
変項領域② 省略可能	助詞	>{の間に、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域③	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、*状態名テーブル*から選択することもできます。 Output 欄に表示されます。
変項領域④ 省略可能	助動詞	}の後ろに、助動詞、又はコメントを記述することができます。

■Fn構文

構文規則	Fn [xxxx]　(n)	
変項領域①	機能名	機能名を記述します。未入力状態の場合は、*機能名テーブル*及び*再利用テーブル*から選択することもできます。 ただし入力しただけでは、その引用される単位機能は*未組込み*のままです。 この変項領域をクリック、ダブルクリック、または他の変項領域への移動により入力を確定させ、*既組込み*に移行します。 　なお、ダブルクリックの場合は、既組込みに確定した*単位機能ウインドウ*に切り替わります。 入力した機能名が、単位機能として存在していない場合は、その機能名の単位機能が自動的に新規に作成されます。 機能名を未記入のまま、他の項目に移動することはできません。
自動表示	N	単位機能内 Fn 番号(1…)

■switch構文

構文規則	**switch < mmmm >** **case{ ssss }** **case{ ssss }** **case{ ssss }** **elsw** **endsw**	各 case と elsw には、初期状態で構文は何もありませんので、必要に応じて追加記述してください。 switch 構文の case 内には、*next 構文*(次の処理に移行)を記述することができます。 (ただし case 内に他の構文が既に有る場合は、記述できません)
変項領域①	メンバー名	メンバー名を記述します。未入力状態の場合は、*メンバー名テーブル*から選択することもできます。 Iutput 欄に表示されます。
変項領域② 変項領域③ 変項領域④	状態名	状態名を記述します。未入力状態の場合は、*状態名テーブル*から選択することもできます。 Iutput 欄に表示されます。 *case* は追加することがでまきす。また多い場合は削除してください。(*case* は最低限2個必要です) 追加する行位置に入力位置を移動し、そこでコンテキストメニューを表示させ、現在の入力位置によって前行に追加または次行へ追加を選択し、*case* を選択します。
変項領域⑤ 省略可能	助詞	>の後ろに、助詞(てにをは)を自由に記述して、構文を明確にします。
変項領域⑥ 省略可能	助動詞	*Case*{ }の後ろに、状態が遷移するかしないかを助動詞を選んで記述することができます。

■loop構文

構文規則	**loop** **endlp**	
変項領域	なし	loop～endlp 間に、コンテキストメニューから下記の構文を選択し追加することができます。 exitlp：loop を抜けて endlp の次へ exitlp、next を記述しても論理的に意味が無い場所では、選択することができません。

■コメント文

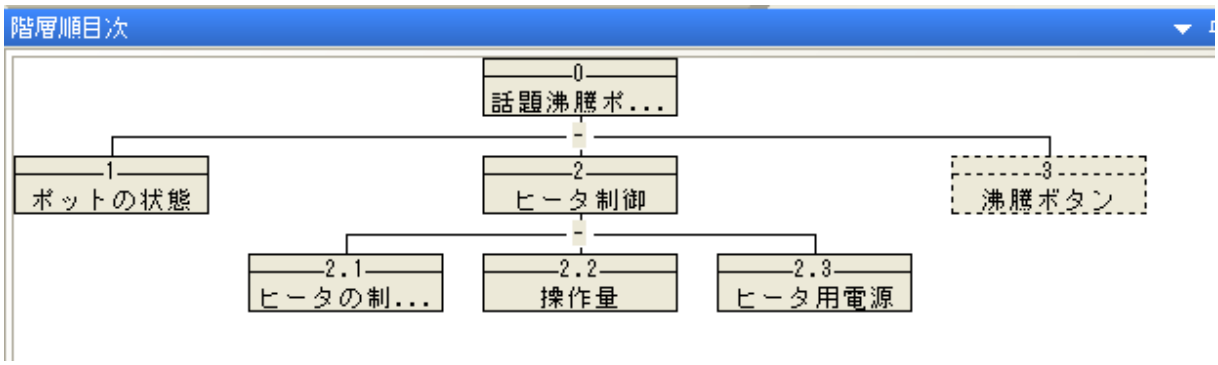
構文規則	(:	
変項領域①		(:の後ろに、機能の説明を加えて、構文を明確にします。

■改行文

構文規則		1個の改行が追加されます。構文を見やすくするために適当な位置に改行を入れます。

８．階層順目次の編集

*階層順目次*は、全ての単位機能の階層構造をグラフィック Tree 形式で表示し、単位機能の編集を行うことができます。
機能分割された単位機能を階層順に配置して，それを目次として利用できます。



■基本表示

１つの単位機能は四角形で描画された*単位機能ボックス*で表現され、単位機能ボックス内には ID と機能名を表示します。
（単位機能ボックス内に全てを表示できない場合は一部を省略します。）
上から下が親子関係、左から右が兄弟関係を意味します。
各単位機能間の親子兄弟関係を示すよう線で結んで表示します。

スクロールバーで上下左右にウインドウをスクロールします。

■階層順目次の単位機能の表示/非表示

単位機能に子が存在する場合は、親と子の間にトグルボタンを設け、トグルボタンをクリックする事で子単位機能以下の表示・非表示を切り替えます。
トグルボタンは、その子以下を表示している場合は"-"、子を隠している場合は"+"で表現されます。

■階層順目次の属性表示

再利用している単位機能の機能名は二重の大括弧で囲まれて表記されます。（ [[xxxx]] ）
枠線で単位機能の下記の状態を示します。
- ●実線：既組込み状態
- ●破線：未組込み状態

枠線の色で単位機能の下記の状態を示します。
環境設定ダイアログ（目次）で、各状態の枠線の色を指定できます。
- ●既記述状態
- ●未記述状態
- ●再利用状態
- ●再利用元状態

■階層順目次への単位機能ボックスの編集

　単位機能ボックスへのコンテキストメニューから下記の操作を選択することにより、その単位機能ボックスに対する編集を行います。

※追加により単位機能ボックスの数が上限値を超える場合は、追加することができません。

※追加された単位機能は、全て未組込み・未記述状態です。

●子単位機能の追加：
　単位機能ボックスに子を作成します。
　既に子がある場合は、末弟として作成します。

●弟単位機能の追加：
　単位機能ボックスに弟単位機能を作成します。
　自分の次の弟単位機能が追加されます。
　つまり、既に弟単位機能がある場合は、その弟単位機能との間に新しい弟単位機能を挿入します。
　ただし既に弟単位機能があり、それが*既組込み*の場合は追加できません。
　起点単位機能に弟単位機能を追加する事はできません。

●兄単位機能の追加：
　単位機能ボックスに兄単位機能を作成します。
　*既組込み*の単位機能ボックスの場合は、兄単位機能を追加できません。
　起点単位機能に兄単位機能を追加する事はできません。

●削除：
　単位機能ボックス(=単位機能)を削除します。子孫がある場合はその子孫も削除されます。
　再利用されている単位機能、または子孫に再利用されている単位機能がある場合は

削除できません。また、既組込み単位機能は直接削除する事はできません。未組込み単位機能に組み込まれている既組込み単位機能は、親の未組込み単位機能を削除する事で削除が可能です。
起点単位機能は削除できません。
削除された単位機能は、削除 ID リストに追加されます。

●機能名を元に戻す：

階層順目次の単位機能ボックスをダブルクリックして表示する機能入力ダイアログで機能名を変更した後、機能名を元に戻すが有効になります。
変更前の機能名に戻すことができます。

既組み込み状態または被再利用状態の場合は、単位機能の Function 欄、階層順目次、ID 順目次の機能名を、変更前の機能名に戻すことができます。

機能名を変更後、元の機能名と同じ機能名を持った単位機能を生成した場合、元の機能名に戻すことはできません。
機能名を元に戻すは無効になります。

機能名を変更後、単位機能を被再利用状態に場合、機能名を空文字に戻すことはできません。
機能名を元に戻すは無効になります。

機能名を変更後、単位機能を組込み状態にした場合、機能名を空文字に戻すことはできません。
機能名を元に戻すは無効になります。

機能名を元に戻すで、変更前の機能名に戻した場合、再度戻すことはできません。
機能名を元に戻すは無効になります。

●再利用コピー：

単位機能ボックスを再利用するためにコピーします。
*再利用コピー*を行った後に再利用貼り付け、再利用の子貼り付けが可能になります。
再利用している単位機能を、*再利用コピー*する事はできません。
起点単位機能を*再利用コピー*する事はできません。
機能名の設定されていない単位機能は*再利用コピー*することはできません。

●再利用貼り付け：

*再利用コピー*した単位機能を単位機能ボックスに貼り付けます。（上書き）
貼り付けられた単位機能ボックスの単位機能としての記述内容は消去され、子がある場合は削除されます。
なお、下記の条件の場合は貼り付けができません。

- *再利用コピー*した単位機能が、子孫や兄弟、直系の祖先の場合は、貼り付けできません。
- 兄弟に既に*再利用貼り付け*されている場合は、貼り付けできません。
- 再利用されている単位機能には、貼り付けできません。
- 既組込みの単位機能には、貼り付けできません。
- 子孫に既組込み、または再利用されている単位機能がある場合には、貼り付けできません。
- 再利用の循環が発生する場合には貼り付けできません。

貼り付けられた単位機能ボックス（再利用している単位機能）は、貼り付けた単位機能ボックス（再利用されている単位機能）を引用する状態になります。

●再利用の子貼り付け：

*再利用コピー*した単位機能を単位機能ボックスの子として貼り付けます。
既に子がある場合は、その子の末弟として作成します。
なお、下記の条件の場合は貼り付けができません。

・*再利用コピー*した単位機能が子や、直系の祖先の場合は、貼り付けできません。
・子に既に*再利用貼り付け*されている場合は、貼り付けできません。
・再利用の循環が発生する場合には貼り付けできません。

貼り付けられた単位機能ボックス（再利用している単位機能）は、貼り付けた単位機能ボックス（利用されている単位機能）を引用する状態になります。

●削除 ID リスト：

削除 ID リストダイアログを表示します。
削除 ID リストダイアログで、削除 ID 一覧を表示します。
削除 ID 一覧から、選択した ID を削除（完全に削除）できます。
削除 ID 一覧から、すべての ID を削除（完全に削除）できます。
呼び出し元単位機能が未組込み・未再利用の場合、選択した削除 ID を呼び出し元単位機能に貼り付ける事ができます。また、呼び出し元単位機能の新たな子として貼り付ける事ができます。但し、階層数、兄弟数の制限を超えない場合に限ります。また既組込み状態の削除 ID を直接貼り付ける事はできません。
削除 ID を選択しておく事ができます。削除 ID を選択すると、階層順目次、ID 順目次で選択削除 ID 貼り付け、選択削除 ID 子貼り付けが可能になります。但し、既組込み状態の単位機能だけを選択する事はできません。

●選択削除 ID 貼り付け

削除 ID リストで選択した削除 ID を貼り付ける事ができます。但し、階層数、兄弟数の制限を超えない場合に限ります。また、既組込み状態の削除 ID を貼り付ける事はできません。

●選択削除 ID 子貼り付け

削除 ID リストで選択した削除 ID を新たな子として貼り付ける事ができます。但し、階層数、兄弟数の制限を超えない場合に限ります。また、既組込み状態の削除 ID を貼り付ける事はできません。

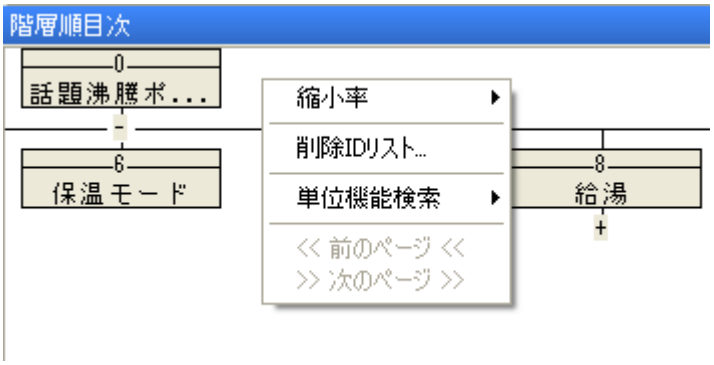
●　単位機能検索：

ID で検索で、指定する ID の単位機能を検索ができます。、
ID で検索で、*単位機能検索　ID ダイアログ*が表示されます。
*単位機能検索 ID ダイアログ*で、検索する単位機能の ID が入力できます。

機能名で検索で、指定する機能名の単位機能を検索ができます。
機能名の完全一致、部分一致での検索ができます。
機能名で検索で、*単位機能検索　機能名ダイアログ*が表示されます。
*単位機能検索　機能名ダイアログ*で、検索する機能名が入力できます。
*単位機能検索　機能名ダイアログ*で、完全一致、部分一致での検索が指定できます。

■階層順目次の拡大縮小表示、削除ID操作、単位機能検索、ページ移動

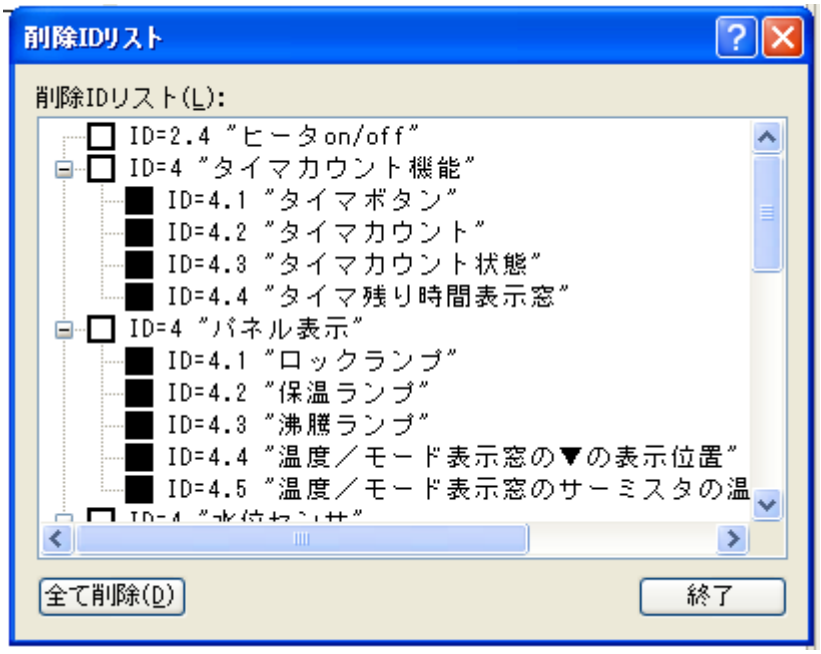
　階層順目次ウインドウ内の単位機能ボックス、トグルボタン以外の場所で右クリックすることによりコンテキストメニューが表示されます。



コンテキストメニューでは、下記の階層目次の操作を選択できます。

●縮小率：
　50～100%まで、10%単位で表示縮小率を選択することができます。

●削除 ID リスト：
　*削除 ID リストダイアログ*を表示します。

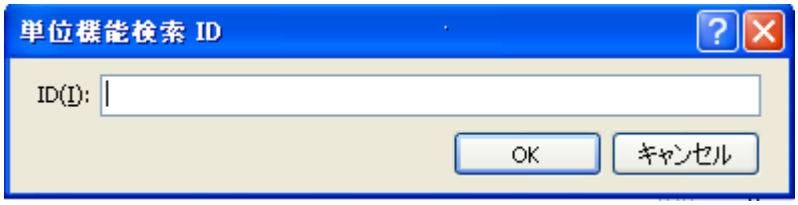


　*削除 ID リストダイアログ*で、削除 ID 一覧を表示します。
　削除 ID 一覧から、選択した ID を削除（完全に削除）できます。
　削除 ID 一覧から、すべての ID を削除（完全に削除）できます。

　選択した ID を呼び出し元単位機能に貼り付ける事ができます。
　但し、既組込み状態の単位機能を直接貼り付ける事はできません。

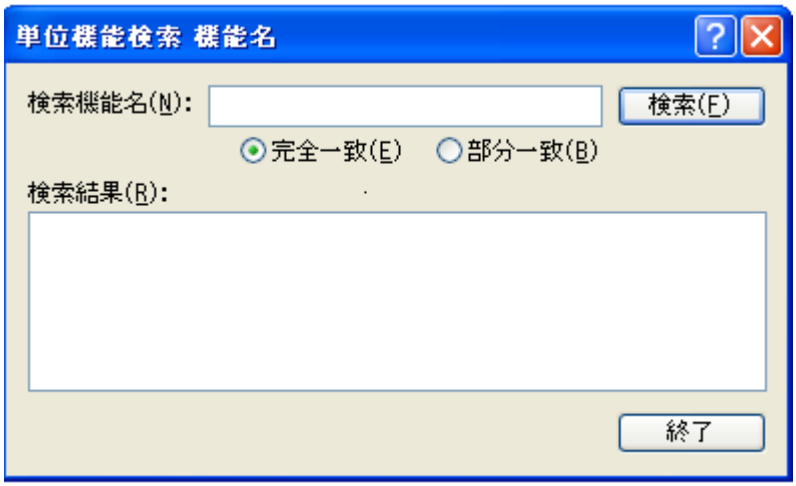
　選択した ID を呼び出し元単位機能の子に貼り付ける事ができます。
　但し、既組込み状態の単位機能を直接子貼り付けする事はできません。

● 単位機能検索：
ID で検索で、指定する ID の単位機能を検索ができます。、
ID で検索で、*単位機能検索　ID ダイアログ*が表示されます。



*単位機能検索 ID ダイアログ*で、検索する単位機能の ID が入力できます。

機能名で検索で、指定する機能名の単位機能を検索ができます。
機能名の完全一致、部分一致での検索ができます。
機能名で検索で、*単位機能検索　機能名ダイアログ*が表示されます。



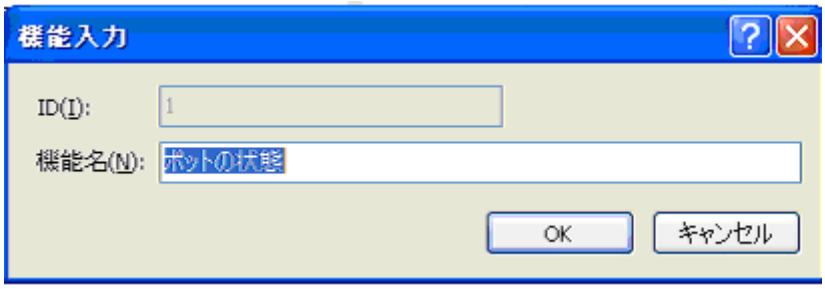
*単位機能検索　機能名ダイアログ*で、検索する機能名が入力できます。
*単位機能検索　機能名ダイアログ*で、完全一致、部分一致での検索が指定できます。

● 前のページ：
複数ページ表示をしている場合、前のページに移動できます。

● 次のページ：
複数ページ表示をしている場合、次のページに移動できます。

■階層順目次の単位機能ボックスのID、機能名編集

単位機能ボックスをダブルクリックすることにより、*機能入力ダイアログ*を表示します。



*機能入力ダイアログ*では、その単位機能の ID 及び機能名を変更する事ができます。

・[OK]ボタン：変更内容を反映して、ダイアログボックスを閉じます。
・[キャンセル]ボタン：変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

ID を変更すると自動的に、元の位置（ID）に*未組込み状態*のブランク単位機能を作成します。変更した ID と既存の単位機能との間に、空き ID ができるような変更をした場合は、その空きを埋めるように、ブランク単位機能が自動的に生成されます。

ID を変更する場合は、下記の制限があります。
●既存の ID に変更する事はできません。
● 子孫単位機能がある場合は、子孫の ID も変更されます。
●*既組込み状態*の単位機能は ID を変更できません。
●ID 変更により、その単位機能及び子の兄弟数・階層数の制限を超える場合は ID を変更できません。
● ID フォーマットに従わない ID には変更できません。
●再利用の循環が発生する ID には変更できません。
●再利用した単位機能の ID を、再利用元の単位機能の兄弟にする事はできません。

機能名を変更する場合は、下記の制限があります。
●既存の単位機能で使用されている機能名には変更できません(削除 ID リストにある単位機能名を含みます)。
●再利用されている単位機能の機能名は変更できません。
●*既組込み状態*の単位機能の機能名を空にする事はできません。

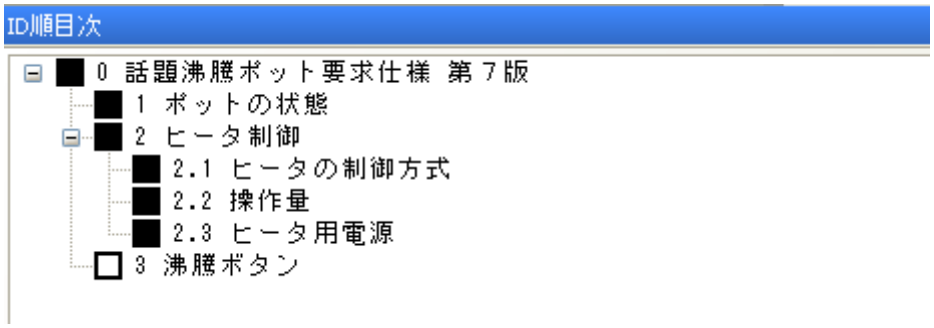
■階層順目次から単位機能へのウインドウ移動

単位機能ボックスをクリックすることにより、その単位機能ボックスに対応する単位機能ウインドウを記述中状態にします。（単位機能ウインドウが開かれていない場合は、開きます）

また、再利用単位機能ボックスをクリックすることにより、再利用元の単位機能ウインドウを記述中状態にします。（単位機能ウインドウが開かれていない場合は、開きます）

９．ＩＤ順目次の編集

*ＩＤ順目次*は、全ての単位機能の階層構造をテキスト Tree 形式で表示し、単位機能の編集を行うことができます。
機能分割された単位機能を ID 順に配置して，それを目次として利用できます。



なお、下記以外の操作方法は基本的に*階層順目次*と同様です。

■基本表示

全ての単位機能を、１行に１単位機能で ID 順に表示します。
各単位機能の情報として、状態を示すアイコン、ID、機能名を表示します。
上から下が兄弟関係、左から右が親子関係を意味します。
スクロールバーで上下左右にウインドウをスクロールします。

■ＩＤ順目次の単位機能の表示/非表示

単位機能に子が存在する場合は、左側にトグルボタンを設け、トグルボタンをクリックする事で子以下の表示・非表示を切り替えます。
トグルボタンは、その子以下を表示している場合は"-"、子を隠している場合は"+"で表現されます。

■ＩＤ順目次の属性表示

再利用している単位機能の機能名は二重の大括弧で囲まれて表記されます。（ [[xxxx]] ）
アイコンで単位機能の下記の状態を示します。

- ●塗りつぶされている四角（■）：既組込み状態
- ●塗りつぶされていない四角（□）：未組込み状態
- ●黒色：既記述状態
- ●青色：未記述状態

１０．　検査機能

検査機能は、記述の確認と論理的に不整合な記述を検出する機能です。

if 構文または switch 構文で条件を記述し、Do 構文でメンバー名の状態名を変化させています。
起点単位機能（最上位）から Do 構文に至る条件（if 構文または switch 構文）を順序に抽出します。
その抽出した条件を、条件経路(パス)と呼びます。
この条件経路を対象として、冗長・矛盾検査を行います。

■記述内容の確認
SLP 記述の内容を確認することができます。
（メニュー[検査]-[記述内容の確認]）

●Do・Fn の条件を確認する
すべての Do、または Fn の実行条件（if 構文、switch 構文、Do 構文）を表示します。
確認する構文は、Do または Fn を指定できます。
また、実行条件の表示範囲を指定することができます。

・記述箇所の単位機能内
Do 構文または Fn 構文の記述された単位機能内の実行条件のみ表示します。

・すべての単位機能
起点単位機能（最上位）から、Do 構文または Fn 構文の記述された単位機能までのすべての実行条件を表示します。

●当該単位機能のすべての Do・Fn の条件を確認する
現在表示中の単位機能におけるすべての Do 構文と Fn 構文の実行条件を実行順に表示します。実行条件と実行順序を確認することができます。

●メンバー名・状態名を確認する
すべての単位機能を対象として、指定したメンバー名、もしくは状態名を含む行を表示します。メンバー名と状態名の両方を指定すると、両方を含む行を表示します。
記述の誤記や統一性を確認することができます。

■当該単位機能検査・全体検査

SLP 記述の構文規則、論理の冗長と矛盾を検査します。
当該単位機能検査は、編集中の単位機能のみ検査します。
全体検査は、すべての単位機能を検査します。
検査項目として、構文検査、冗長検査、矛盾検査、全項目検査があります。

検査項目説明
●構文検査
記述内容が SLP の構文規則に従っているか検査します。
検査内容は以下になります。
・未組込みの単位機能
・機能名の未記述

・メンバー名、状態名の未記述
・再帰呼び出しになる記述
・Function 欄が未記載な機能名の記述
・if 構文、switch 構文内に、Do 構文、Fn 構文がない記述
・単位機能内に Do 構文、Fn 構文がない記述
・単位機能が存在しない機能名の記述

●冗長検査

記述内容が、論理的に冗長がないか検査します。
検査内容は以下になります。

・冗長なケース１：
あるメンバー名の状態が変化していないのに、if 構文、switch 構文でそのメンバー名に対して同じ状態名を記述している場合で、その if 構文、switch 構文がなくとも問題ない場合

【冗長なケース１の SLP 記述の例】

Function

```
1  (:-------------------------
2  (:冗長ケース１
3  (:-------------------------
4  Do<警告ランプ>{赤}
5  if <警告ランプ>{赤}
6    Do<電源>{遮断}
7  else
8    next
9  endif
```

【冗長検査の結果】

検査･検索等結果

```
=== 全体検査（冗長検査）開始 ===

―― 冗長な記述です ――
[ID:0 LINE:5]    if <警告ランプ>{赤}
[ID:0 LINE:4] を参照してください

  探索した経路数              000000003
  冗長検査の検出数            000000001

=== 全体検査（冗長検査）終了 ===
```

・冗長なケース２：
if 構文の条件が、真の時も偽の時も同じ Do 構文を記述している場合、if 構文の外に Do 構文を記述できる場合

【冗長なケース２の SLP 記述の例】

Function

```
1  (:-------------------------
2  (:冗長ケース２
3  (:-------------------------
4  if <室内温度>{２８℃以上}
5    Do<エアコン運転モード>{冷房}
6  else
7    Do<エアコン運転モード>{冷房}
8  endif
9  (:
```

【冗長検査の結果】

検査･検索等結果

```
=== 全体検査（冗長検査）開始 ===

―― 冗長な記述です ――
[ID:0 LINE:5]    Do<エアコン運転モード>{冷房}
[ID:0 LINE:7]    Do<エアコン運転モード>{冷房}
このDo構文は以下の条件が省略できます
[ID:0 LINE:4]    if <室内温度>{２８℃以上}
[ID:0 LINE:6]    else

  探索した経路数              000000003
  冗長検査の検出数            000000001

=== 全体検査（冗長検査）終了 ===
```

【冗長検査の結果】

・冗長なケース３：
同じ条件で同じ Do 構文を記述している場合

【冗長なケース３の SLP 記述の例】

Function

```
1  (:-------------------------
2  (:冗長ケース３
3  (:-------------------------
4  if <水温>{６０℃以上}
5    Do<加熱ヒーター>{ＯＦＦ}
6  else
7    Do<加熱ヒーター>{ＯＮ}
8  endif
9  if <水温>{６０℃以上}
10   Do<加熱ヒーター>{ＯＦＦ}
11 else
12   Do<加熱ヒーター>{ＯＮ}
13 endif
```

【冗長検査の結果】

検査・検索等結果

```
=== 全体検査（冗長検査）開始 ===

―― 冗長な記述です ――
[ID:0 LINE:5]    Do<加熱ヒーター>{ＯＦＦ}
[ID:0 LINE:10]    Do<加熱ヒーター>{ＯＦＦ}
2つのDo構文は実行条件が同じです

―― 冗長な記述です ――
[ID:0 LINE:7]    Do<加熱ヒーター>{ＯＮ}
[ID:0 LINE:12]    Do<加熱ヒーター>{ＯＮ}
2つのDo構文は実行条件が同じです

  探索した経路数              000000010
  冗長検査の検出数            000000002

=== 全体検査（冗長検査）終了 ===
```

●矛盾検査

記述内容が論理的に矛盾がないか検査します。

・矛盾なケース１：

あるメンバー名の状態が変化していないのに if 構文、switch 構文でそのメンバー名に対して異なる状態名を記述している場合

【矛盾なケース１の SLP 記述の例】

Function

```
1  (:-------------------------
2  (:矛盾ケース１
3  (:-------------------------
4  Do<警告ランプ>{赤}
5  if <警告ランプ>{青}
6    Do<電源>{遮断}
7  else
8    next
9  endif
10 (:
```

【矛盾検査の結果】

検査･検索等結果

```
=== 全体検査（矛盾検査）開始 ===

―― 矛盾の可能性があります ――
[ID:0 LINE:5]     if <警告ランプ>{青}
[ID:0 LINE:4] を参照してください

  探索した経路数              000000003
  矛盾検査の検出数            000000001
  意味関係の検出数            000000000

=== 全体検査（矛盾検査）終了 ===
```

・矛盾なケース２：
メンバー名が同じで状態名が異なる Do 構文において、条件経路がまったく同じである記述の場合

【矛盾なケース２の SLP 記述の例】

Function

```
1  (:-------------------------
2  (:矛盾ケース２
3  (:-------------------------
4  if <室内温度>{２８℃以上}
5    Do<エアコン運転モード>{冷房}
6  else
7    Do<エアコン運転モード>{送風}
8  endif
9  if <室内温度>{２８℃以上}
10   Do<エアコン運転モード>{除湿}
11 else
12   Do<エアコン運転モード>{停止}
13 endif
```

【矛盾検査の結果】

検査･検索等結果

```
=== 全体検査（矛盾検査）開始 ===

―― 矛盾しています ――
[ID:0 LINE:5]    Do<エアコン運転モード>{冷房}
[ID:0 LINE:10]    Do<エアコン運転モード>{除湿}

―― 矛盾しています ――
[ID:0 LINE:7]    Do<エアコン運転モード>{送風}
[ID:0 LINE:12]    Do<エアコン運転モード>{停止}

  探索した経路数              000000010
  矛盾検査の検出数            000000002
  意味関係の検出数            000000000

=== 全体検査（矛盾検査）終了 ===
```

●全項目検査
構文検査、冗長検査、矛盾検査を行います。

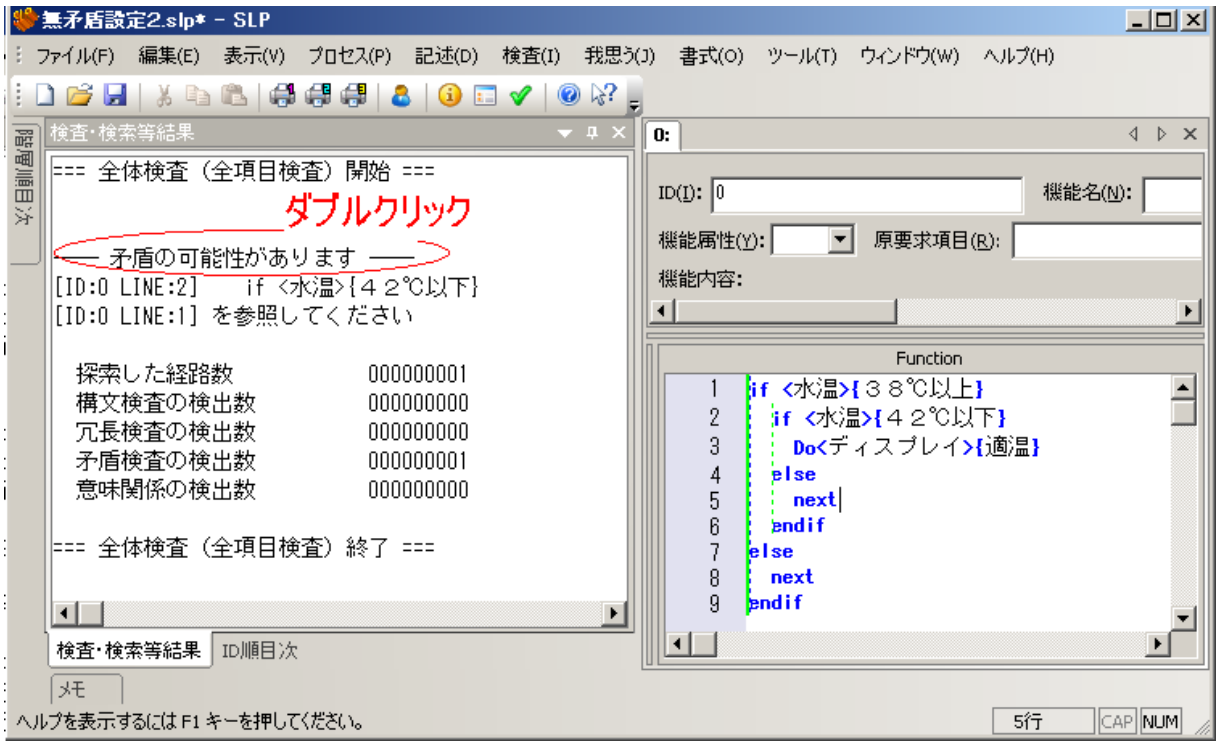
※当該単位機能検査では、構文検査、冗長検査、矛盾検査には対応していません。

■同一メンバー無矛盾設定

矛盾検査において、文字列の比較で矛盾判定しています。矛盾がない通常文を SLP で記述することで，矛盾と判定される場合があります．その場合に，パターンを登録することで，矛盾検査で無矛盾として判定します.

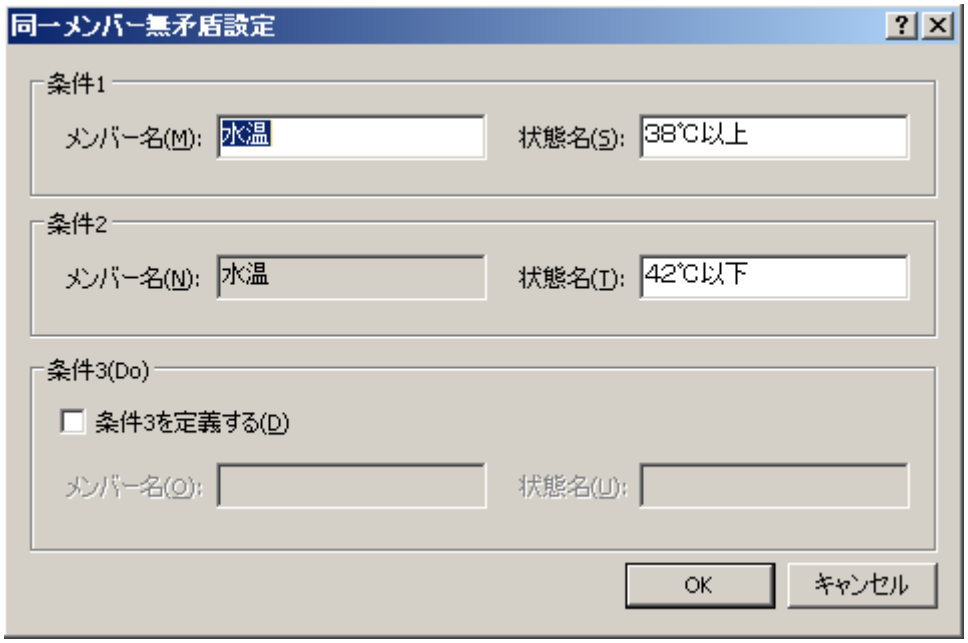
【同一メンバー無矛盾設定の例】

メンバー名“水温”に、条件として異なる状態名“３８℃以上”（条件１）と“４２℃以下”（条件２）としているため、矛盾として検査結果に表示されます。本来は、“水温”が“３８℃以上”かつ“４２℃以下”の条件で、矛盾ではないです。これは、矛盾検査において、文字列の比較で矛盾判定しているからです。このような場合、検査結果のメッセージをダブルクリックして、同一メンバー無矛盾設定を行い、矛盾があると判定されないようにできます。



パターンの登録方法

矛盾検査のメッセージをダブルクリックすると，同一メンバー無矛盾設定 ダイアログが条件1，条件２が入力された状態で開きます.そこで，OK ボタンを押下すればパターンが登録できます.詳細な登録方法は，同一メンバー無矛盾設定ダイアログの説明を参照してください.



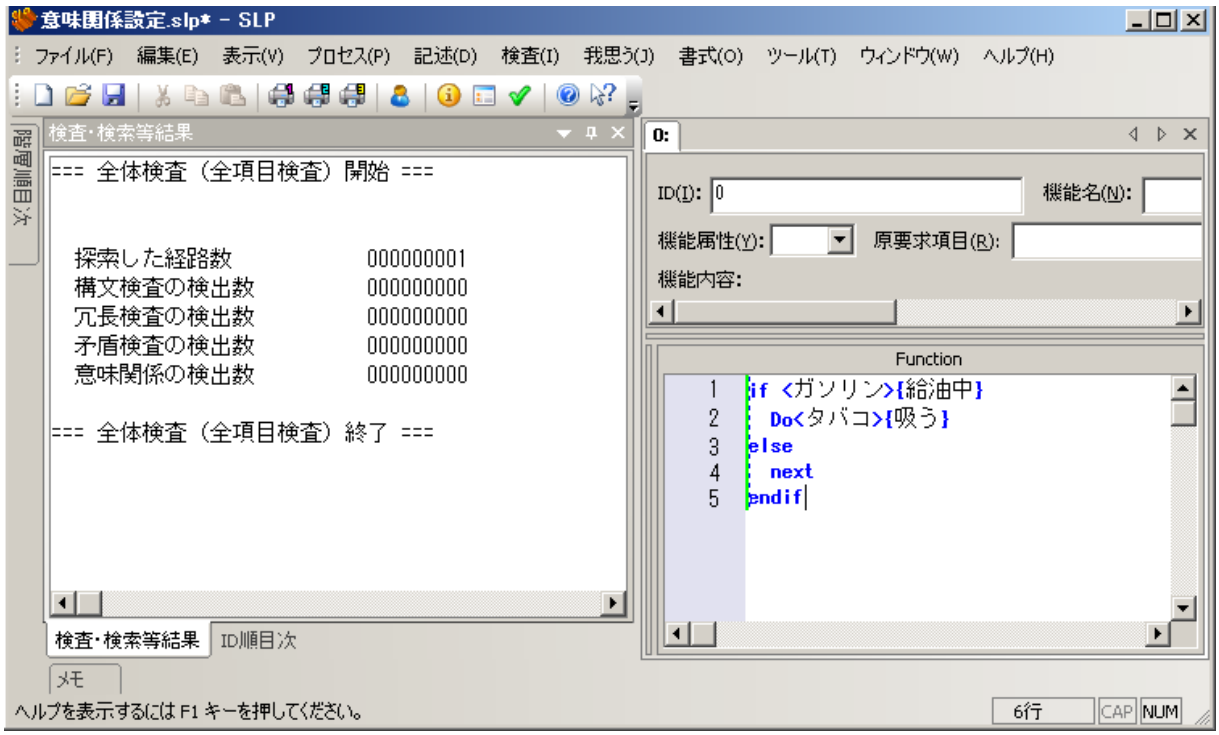
同一メンバー無矛盾設定することにより、設定されたパターンは冗長検査で、冗長があると判定されません。

■意味関係設定機能

ユーザーが任意の記述パターンに対して，矛盾検査で検出させることが出来ます。また，検出した場合、メッセージを任意に設定できます。

不整合な記述を検出するための意味関係設定機能
(メニュー[検査]-[意味関係追加])
意味関係設定ダイアログから任意のパターンを登録します。
登録の詳細は，意味関係設定ダイアログの説明を参照してください。

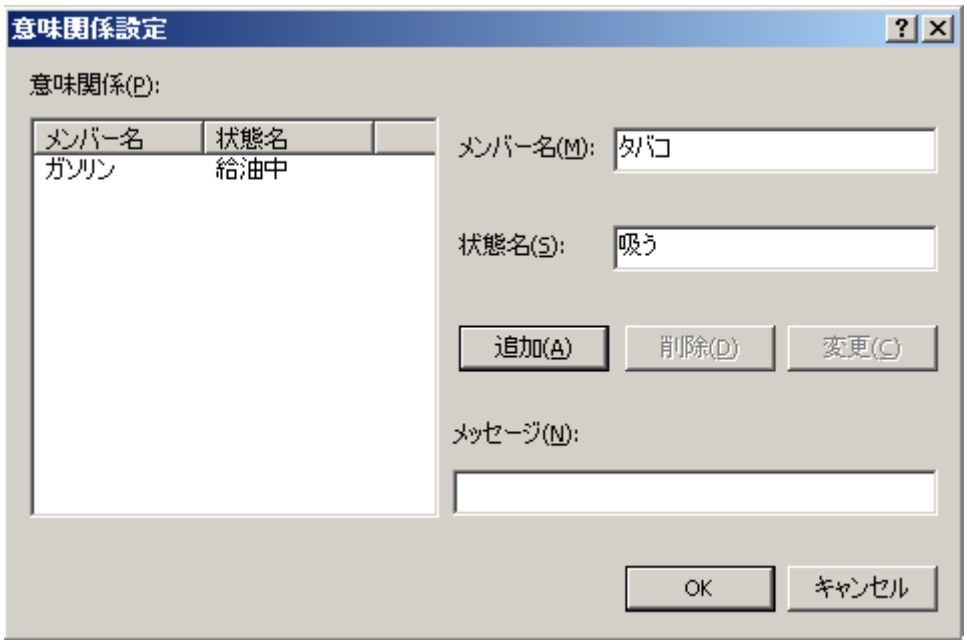
【同一メンバー無矛盾設定の例】
メンバー名“ガソリン”、状態名“給油中”の条件文（if 構文）に対して、Do 構文のメンバー名“タバコ”、状態名“吸う”とする、明らかに“ガソリンの給油中に、タバコを吸う”は、危険性のある行為で意味です。このような場合、意味関係設定ダイアログから、パターンを登録して、検査結果のメッセージを設定します。この例の場合、メッセージは“給油中の喫煙禁止”と設定することにします。



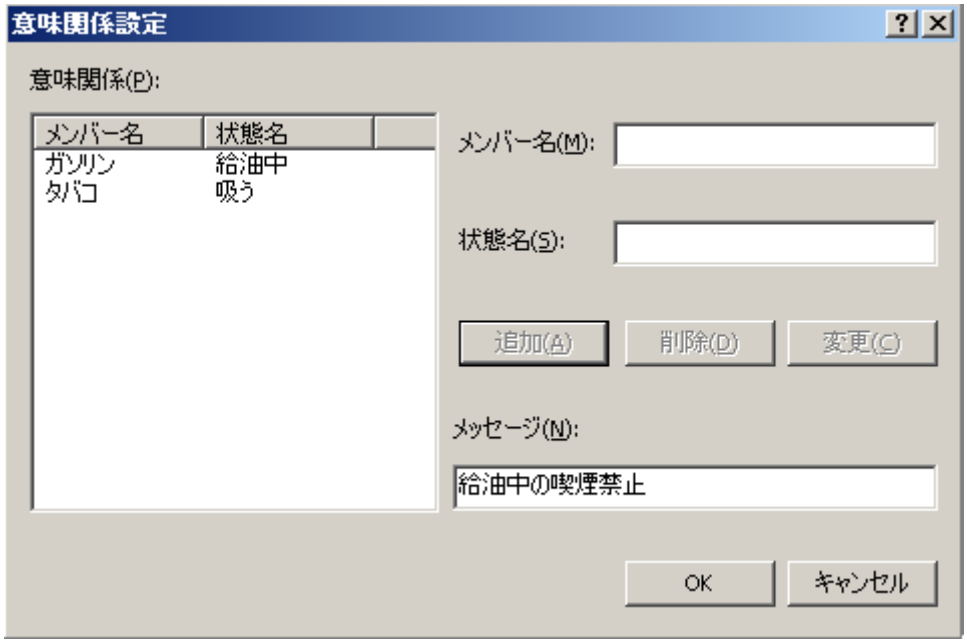
(メニュー[検査]-[意味関係追加])

意味関係設定ダイアログからのパターンを登録します。

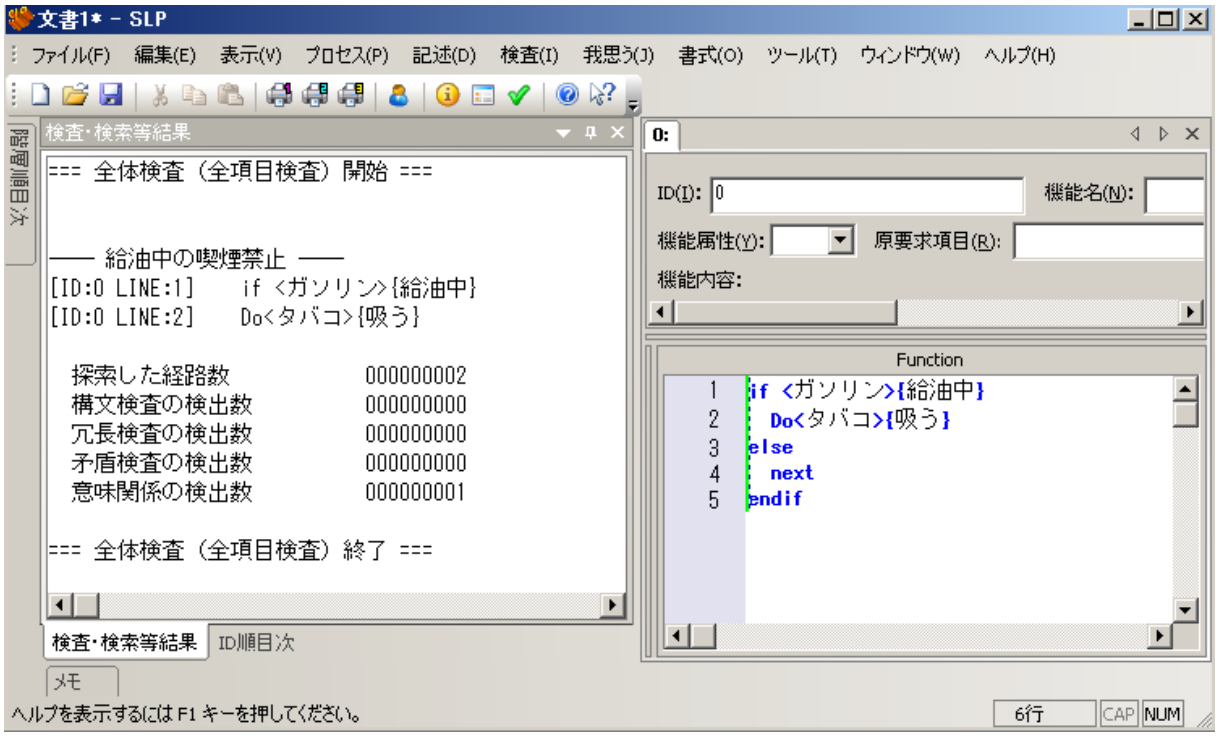
例では、メンバー名“ガソリン”、状態名“給油中”とメンバー名“ダバコ”、状態名“吸う”のパターンを追加します。



例では、メンバー名“ガソリン”、状態名“給油中”とメンバー名“ダバコ”、状態名“吸う”のパターンを、矛盾検査で検出した場合のメッセージを“給油中の禁煙禁止”と設定しています。



矛盾検査で、例で示す意味関係設定で設定されたパターンは、検出されるようになります。



■語句検査－曖昧検査

すべての単位機能を対象として、曖昧語辞書に登録されている文字列を含むメンバー名・状態名を検索します。
（メニュー[検査]-[語句検査]-[曖昧語検索]）

すべての単位機能の Function 欄のメンバー名､状態名に対して､すべての曖昧語を検索します。
検索結果は検査結果・検索等結果画面に出力されます。
曖昧語は環境設定の曖昧語辞書で登録できます。
曖昧語の登録に関しては、曖昧語辞書ダイアログを参照して下さい。

■語句検査－類似検査

すべての単位機能を対象として、類似しているメンバー名・状態名を検索します。
（メニュー[検査]-[語句検査]-[類似語検索]）

本来は一意のメンバーを、異なったメンバー名で記述していないか、つまり記述の誤記や統一性を確認することができます。

●類似の判断基準は文字列の一致率よって判断します。
文字列の先頭から調べて、全体の一致率が規定値以上なら類似と判断します。

●類似語が規定値以上になると検査を終了します。
未登録のメンバー名・状態名につては、使用されている ID と行番号も表示します。

●Function 欄に記述してあるメンバー名、状態名に関して比較します。
状態名に関しては、メンバー名が同じ場合のみ、比較します。
類似の基準は、*検索基準設定ダイアログ*で設定してください。

■検査機能のメッセージ一覧

検査項目	メッセージ	説明
記述内容の確認 ーDo･Fn の条件を確認する	メッセージが 10000 を超えましたの記述内容の確認を中断します	メッセージが 10000 を超える場合には中断します。
	未組込みの単位機能が存在するため、記述内容の確認を中断します	未組込みの単位機能が経路上に存在する場合、経路が起点単位機能までさかのぼれないため処理を続けることはできません。 未組込みの単位機能をなくしてから、再度実行して下さい。
	[ID:1 LINE:6]　Do<メンバー名>{状態名}	Do、または Fn の記述箇所です。このメッセージ以降が実行条件が表示されます。
記述内容の確認 ー当該単位機能内のすべての Do･Fn の条件を確認する	---------- ＊セパレータ	実行条件をセパレータで区切っています。セパレータで挟まれた箇所が実行条件になります。
記述内容の確認 ーメンバー名・状態名を確認する	[ID:1 LINE:6]　Do<メンバー名>{状態名}	指定メンバー名・状態名の記述箇所です。単位機能の IDとFnuction 欄の行番号で示しています。
構文検査	[ID:0 LINE:1]　当該単位機能:Function Name は未組込みです	当該単位機能が未組込みです。既組込みにして下さい。
	[ID:2 LINE:3]　Fn[　](1)　（機能名が記述されていません）	Fn 構文に機能名が記述されていません。機能名を記述してください。
	[ID:5 LINE:12]　Fn[　Function Name　](1)　（再帰呼び出しはできません）	Fn 構文を再帰的に記述することはできません。機能名を変更して下さい。
	[ID:2 LINE:35]　Fn[Function Name](1)　（本 Fn の Function 欄が記述されていません）	Fn 構文で記述された単位機能の Function 欄が記載されていません。単位機能の Function 欄を記載して下さい。
	[ID:12 LINE:3　if<>{}　（メンバー名または状態名が記述されていません）	メンバー名、または状態名が記述されていません。
	[ID:12 LINE:1]　if <メンバー名>{状態名}　（Do･Fn 構文が記述されていません）	if、switch 構文内に Do、Fn 構文が記述されていません。Do、または Fn 構文を記述して下さい。
	[ID:13 LINE:5]　else　（有効な記述がありません）	if-else 間、else-if 間、case 間、elsw-endsw 間に、、Do、Fn、next、exitlp 構文が記述されていせん。Do、Fn、next、exitlp 構文のいずれかを記述して下さい。
	[ID:3 LINE:1]　当該単位機能内に Do･Fn 構文が記述されていません	当該単位機能内に Do.、Fn 構文が記載されていません。Do、または Fn 構文を記述して下さい。
	[ID:3 LINE:1]　Fn[Function Name](2)　（単位機能が存在しません）	機能名に一致する単位機能が存在しません。機能名を変更して下さい。
冗長検査	―― 冗長な記述です ――	このメッセージ以降の記述が冗長です。
	2つの Do 構文は実行条件が同じです	2つの Do 構文は実行条件が同じなので、同じ構文内に記述することができます。
	この Do 構文は以下の条件が省略できます	この Do 構文は、このメッセージの次の条件を省略して記述することができます。

矛盾検査	―― 矛盾の可能性があります ――	このメッセージ以降の記述は、同一のメンバー名に対して、違う状態名をとるので、矛盾している可能性があります。記述を修正して下さい。 ※可能性とは、文字列の比較では矛盾だが、文としては矛盾していない場合です。その場合は、同一メンバー無矛盾設定に追加して下さい。詳細は同一メンバー無矛盾設定を参照して下さい。
	―― 矛盾しています ――	このメッセージ以降の記述は、同じ実行条件にもかかわらず、違う状態名をとるので、矛盾しています。記述を修正して下さい。
	―― 意味関係設定メッセージ ――	このメッセージ以降の記述は、意味関係設定に登録してある記述です。

１１．プロセス機能

SLP には、下記のプロセスの機能が有ります。

■差分開発

本ツールは、新規開発の要求仕様作成の工程に対して、主に利用します。しかし、ソフトウェア開発は、新規開発だけではなく、既存製品をベースにして開発する場合があります。既存製品から、今回の開発する変更分の差分を開発するので、差分開発と呼ばれています。または派生開発と呼びます。また、新規開発としても、段階的に開発を実施する場合、例えば基本機能を完成させて、それから拡張機能（基本機能からの差分の機能）を追加してしていく開発方式も、差分開発として捉えられることもできます。
SPL（ Software Product Line ）でも、最初のコア資産の開発を行い、それをベースモデルとして、次の製品を開発するので、差分開発とも言えます。最初のコア資産を開発するのに、派生する製品を考慮してコア資産として通常の新規開発より工数をかけて開発することになるのです。

差分開発は、ベースモデル（既存製品）を基に派生する製品を、ベースモデルとの差分（変更箇所・追加箇所・削除箇所）を明確にして開発するものです。

差分開発において、ベースモデルから変更する要求仕様の部分を明確にすることができます。ベースモデルから変更する要求仕様を、明確にすることにより、差分開発の設計に反映できます。

ベースモデル（既存製品）の SLP 文書に、今回開発する製品の要求を変更・追加・記述するこちにより、ベースモデルから変更する要求仕様の部分を、SLP 文書のベースモデルに対しての差分部分として抽出できます。SLP 文書の差分部分は、差分開発においての要求変更仕様書等の作成に利用できます。また、差分開発の SLP 文書に、論理的な検証（検査機能・デシジョンテーブル作成）もできます。

（メニュー[プロセス機能]-[差分開発]）

[プロセス機能]-[差分開発]-[ベースモデルを開く]
差分開発で、ベースモデルの SLP 文書ファイルを指定します。
開かれた SLP 文書は、差分開発用として設定されます。

[プロセス機能]-[差分開発]-[差分表示]-[当該単位機能]
現在表示中の単位機能を対象範囲にして、ベースモデルからの差分を表示します。

単位機能画面のヘッダー部は以下の項目が変更された場合に、差分表示されます。
・ID、機能名、原要求項目、当工数、機能内容

単位機能のFunction欄の表示方法は上の行がベースデータ、下の行が現在のデータとなり、次のように表示されます。
・変更された場合
　[ID:0 LINE:1] 変更 if〈メンバー名１〉{状態名}
　[ID:0 LINE:1] 変更 if〈メンバー名２〉{状態名}
・行追加された場合
　[ID:0 LINE:3] 記述なし

[ID:0 LINE:3] 追加　　Do<メンバー名>{状態名}

・行削除された場合

[ID:0 LINE:2] 削除　　Do<メンバー名>{状態名}

[ID:0 LINE:2] 記述なし

尚、当行置換で置換した場合は、行追加と行削除として表示されます。

[プロセス機能]-[差分開発]-[差分表示]-[すべての単位機能]

すべての単位機能を対象範囲にして、ベースモデルからの差分を表示します。

・単位機能が変更された場合

次のように表示されます。

機能名変更 ベース[機能名:123]

機能名変更 現在[機能名:XXXXXX(変更された単位機能名を表示します)]

[ID:1.1 LINE:12] 変更 if <メンバー名１>{状態名}

[ID:1.1 LINE:12] 変更 if <メンバー名２>{状態名}

・単位機能が追加された場合

次のように表示されます。

--ベースモデルに追加した単位機能一覧(現在のIDで表示)--

[ID:1.3] 機能名: XXXXXX(該当する単位機能名を表示します)

=== 差分表示終了 ===

・単位機能が削除された場合

--ベースモデルから削除された単位機能一覧(ベースモデルのIDで表示)--

[ID:1.2] 機能名:XXXXXX(削除された単位機能名を表示します)

--ベースモデルから存在する単位機能の差分一覧(現在のIDで表示)--

[ID:1] 機能名:ABCDEF に変更がありました。

[ID:1 LINE:2] 削除 Fn[XXXXXXX] (2)

[ID:1 LINE:2] 記述なし

■単位機能結合

結合元（コピー元）の SLP 文書の単位機能を、結合先（コピー先）の SLP 文書に、結合できます。単位機能結合と呼びます。

同一プロジェクト内で、各機能担当が別ファイルで SLP 文書の作成が行なわれた場合に、一つの SLP 文書に結合する機能として使用します。
SPL（Software Product Line ）では、SLP 文書の単位機能は、要求仕様のアセット（資産）とてして扱うことができます。アセット（資産）として、単位機能という部品を使用する場合いも、単位機能結合を使用します。

（メニュー[プロセス]-[単位機能結合]）
*ファイルを開くダイアログ*が表示されます。
*ファイルを開くダイアログ*では、結合元 SLP ファイルを指定します。

・[OK]ボタン：*単位機能結合ダイアログ*が表示されます。
・[キャンセル]ボタン：キャンセルされ、ダイアログ ボックスを閉じます。

*単位機能結合ダイアログ*では、結合先 ID、結合元 ID、結合する位置、結合方法が選択できま

す。

・[OK]ボタン：単位機能が結合されます。
・[キャンセル]ボタン：キャンセルされ、ダイアログ ボックスを閉じます。

■デシジョンテーブル作成

SLP 記述を、条件記述（if 構文、switch 構文）と結論記述(Do 構文)で分類し、各結論記述に関連している条件をそれぞれ抽出してデシジョンテーブルを作成します。論理的に最適化をして、冗長な条件文を全て消去してデシジョンテーブルを作成することもできます。

*環境設定ダイアログ（デシジョンテーブル）*で、以下のデシジョンテーブルの形式が指定できます。
・条件記述の向きが行で、結論記述の位置が先頭
・条件記述の向きが行で、結論記述の位置が末尾
・条件記述の向きが列で、結論記述の位置が先頭
・条件記述の向きが列で、結論記述の位置が末尾

（メニュー[プロセス]-[デシジョンテーブル作成]）
指定したファイル名でデシジョンテーブルが作成されます。
ファイル形式はＣＳＶ形式です
*デシジョンテーブル作成ダイアログ*が表示されます。
*デシジョンテーブル作成ダイアログ*では、デシジョンテーブル作成の対象範囲、冗長を省く、出力ファイル名が選択できます。

・[OK]ボタン：デシジョンテーブルが CSV 形式で作成されます。
・[キャンセル]ボタン：キャンセルされ、ダイアログ ボックスを閉じます。

■テスト仕様作成

SLP 文書に記述された機能を、テスト仕様として作成します。
各期待される動作(Do 構文)に関連する条件(if 構文、switch 構文)を抽出して、テスト仕様を出力します。
テスト仕様は、テストケースから構成されます。
テストケースは、試験番号、原要求項目、単位機能ＩＤ，単位機能名、試験手順（シナリオ）、期待される動作（結果）の項目があります。

（メニュー[プロセス]-[テスト仕様作成]）
*ファイルを開くダイアログ*が表示されます。
*ファイルを開くダイアログ*では、テスト仕様を出力するファイル名を指定します。
指定したファイル名で、テスト仕様が作成されます。
ファイル形式はＣＳＶ形式です

・[OK]ボタン：テスト仕様が CSV ファイル形式で作成されます。
・[キャンセル]ボタン：キャンセルされ、ダイアログ ボックスを閉じます。

■トレーサビリティ

トレーサビリティの実現に対応します。
原要求項目（要求仕様）と各開発工程（仕様書、変更履歴、テストや障害の記録、ソースコー

ド（バージョン)）を相互に関連付け、ある変更や欠陥がどの開発工程にどう影響しているかを追跡できます。

トレーサビリティ項目として下記から選択します。
（メニュー[プロセス]-[トレーサビリティ])

●原要求項目一覧表示
（メニュー[プロセス]-[トレーサビリティ]- [原要求項目一覧表示表示])

原要求項目と単位機能の対応の一覧を、検査・検索結果画面に出力します。

●トレーサビリティマトリックス インポート
（メニュー[プロセス]-[トレーサビリティ]- [トレーサビリティマトリックス インポート])

CVS 形式ファイルから原要求項目をインポートします。
インポートする CVS 形式ファイルは、トレーサビリティマトリックス エクスポートで出力されたファイルの形式を使用して下さい。
トレーサビリティマトリックスのフォーマットが一致しないと正しくインポートされません。
CVS ファイルに一致する単位機能 ID があるものだけ、原要求項目が変更されます。
環境設定のトレーサビリティで階層を指定すると、指定階層のみインポートされます。
インポートされた単位機能の原要求項目は、検査・検索等結果画面に出力されます。
原要求項目と単位機能の対応は一対一にして下さい。

●トレーサビリティマトリックス エクスポート
（メニュー[プロセス]-[トレーサビリティ]- [トレーサビリティマトリックス エクスポート])

原要求項目と単位機能の対応表を CVS 形式ファイルにエクスポートします。
エクスポートした CVS 形式ファイルを編集して、原要求項目をインポートすることができます。

●工程マトリックス エクスポート
（メニュー[プロセス]-[トレーサビリティ]- [工程マトリックス エクスポート])
原要求項目、単位機能、及び各工程との対応のマトリックスをエクスポートします。

●原要求項目別工程マトリックス エクスポート
（メニュー[プロセス]-[トレーサビリティ]- [原要求項目別工程マトリックス エクスポート])
原要求項目と各工程との対応のマトリックスをエクスポートします。

●単位機能別工程マトリックス エクスポート
（メニュー[プロセス]-[トレーサビリティ]- [単位機能別工程マトリックス エクスポート])
単位機能と各工程との対応のマトリックスをエクスポートします。

■機能属性一覧

機能属性一覧の内容を確認します。
機能属性一覧する項目として下記から選択します。
（メニュー[プロセス]-[機能属性一覧])

●機能属性一覧 表示
（メニュー[プロセス]-[機能属性一覧]-[機能属性一覧 表示])

機能属性と単位機能の対応を、検査・検索等結果画面に出力します。

●機能属性一覧 インポート
（メニュー[プロセス]- [機能属性一覧]-[機能属性一覧 インポート]）

CVS 形式ファイルから機能属性をインポートします。
インポートする CVS 形式ファイルは、機能属性一覧 エクスポートでエクスポートしたファイルを使用して下さい。
機能属性一覧のフォーマットが一致しないと正しくインポートされません。
CVS 形式のファイルに一致する単位機能 ID があるもは、機能属性が変更されます。
追加された機能属性と、インポートされた単位機能の機能属性は、検査・検索等結果画面に出力されます。機能属性と単位機能の対応は一対一にして下さい。
原要求項目と各工程との対応のマトリックスをエクスポートします。

●機能属性一覧 エクスポート
（メニュー[プロセス]-[機能属性一覧]- [機能属性一覧 エクスポート]）

機能属性と単位機能の対応表を CVS 形式ファイルにエクスポートします。
エクスポートした CVS 形式ファイルを編集して、機能属性をインポートすることができます。

■Team Foundation Server 連携

Microsoft Visual Studio Team Fundation Server 2010 と連携します。
（メニュー[プロセス]-[Team Fundation Server 連携]）

Team Fundation Server と接続します。
（メニュー[プロセス]-[Team Fundation Server 連携]- [Team Fundation Server との接続]）

Team Fundation Server のワークイテム（作業項目）に、SLP 文書がリンクできます。

１２．　我思う機能

SLP には、下記の我思う機能が有ります。

■マーク機能
単位機能の Function 欄の各行に、属性をマークすることができます。
Funnction 欄の行番号・行マーク表示部分を、マウスの右クリックでポップアップメニューであるコンテキストメニューが表示され、マークする属性を選択することができます。
属性をマークすることで、特定の対象とすることができます。
属性は、環境設定ダイアログ（我思う）で変更できます。
属性のマークのアイコン形状は、*環境設定ダイアログ（我思う）*で選択できます。
属性のマークのアイコン色は、*環境設定ダイアログ（我思う）*で選択できます。
属性は、*環境設定ダイアログ（我思う）*でグループ分け（最大４グループ）できます。

属性のデフォルトは、以下です。
・考え中
・迷ってる
・もっと調べよ
・意見を聞け

・ひとまず保留
・定義し直せ
・レビューせよ
・属性８
・属性９
・属性１０
・属性１１
・属性１２
・属性１３
・属性１４
・属性１５

■マーク内容

属性をマークした行に、マーク内容（情報）を付加することができます。
Funnction 欄のマークのアイコンを、マウスの右クリックでポップアップメニューであるコンテキストメニューが表示され、マーク内容の編集操作を選択することができます。
なお、*環境設定ダイアログ（我思う）*の設定より、表示されるコンテキストメニューの内容は変わります。
編集操作を選択すると、*マーク内容の編集ダイアログ*が表示します。
*マーク内容の編集ダイアログ*では、以下が編集できます。

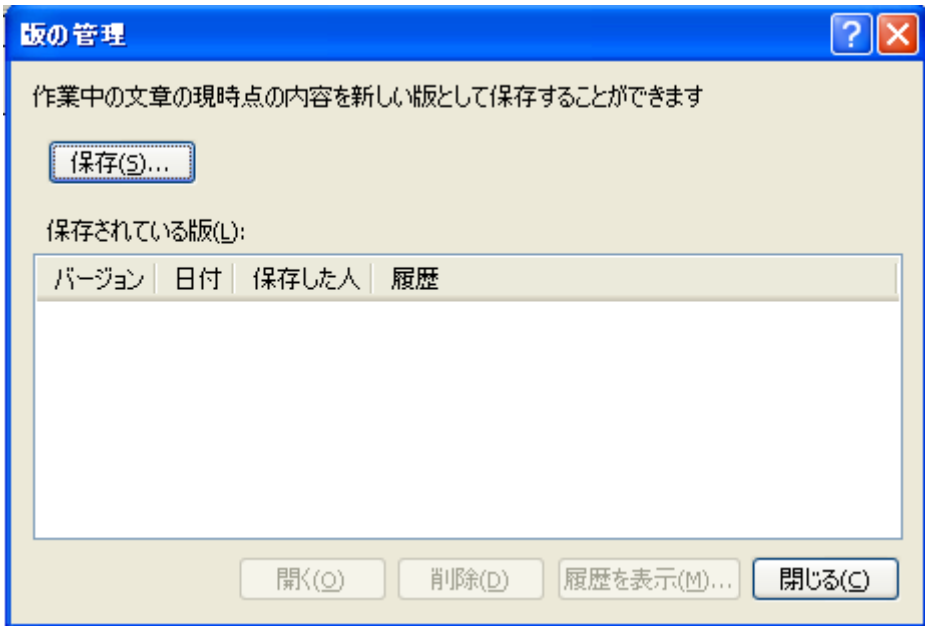
・メモ
　各行に対して、必要な情報を入力できます。
・URL 登録
　各行に URL を、最大 3 件登録できます。
　URL の内容表示ができます。

■マーク行表示

（メニュー[我思う]-[属性]）または（メニュー[我思う]-[グループ名]-[属性]）
指定属性がマークされている単位機能の ID、単位機能の Function 欄の行番号、*マーク内容の編集ダイアログ*で設定したメモの内容が検査・検索等結果ウインドウに表示します。

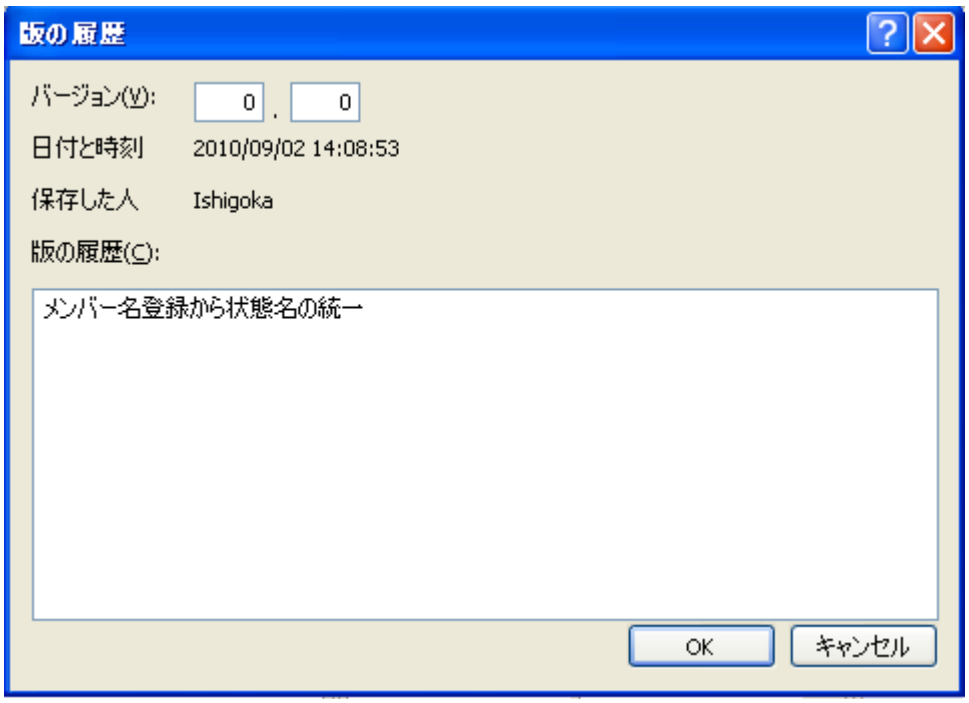
１３．　各ダイアログの詳細説明

■ダイアログ名　：版の管理ダイアログ
■メニュー　　：　[ファイル]-[版の管理]
■機能概要　　：　SLP 文書の現在の状態を、別の版として保存します。
　　１SLP 文書で１０個の版まで保存できます。
■各項目説明：



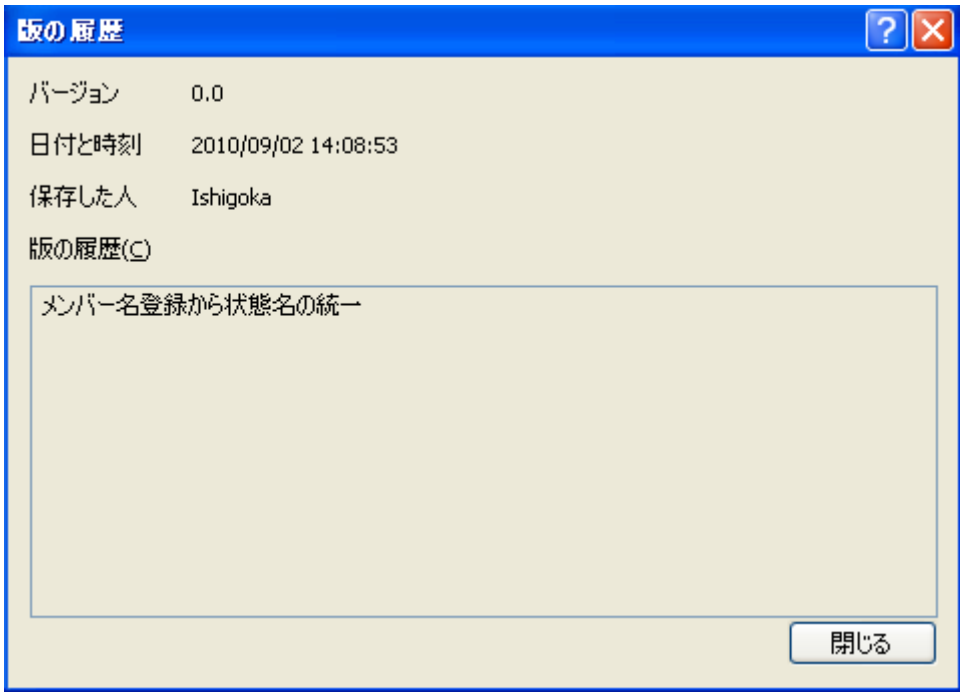
●　保存ボタン
SLP 文書の現在の状態を、別の版として保存します。
[保存] ボタンを押下すると、版の履歴入力ダイアログを表示します。
版の履歴入力ダイアログで、版に関する履歴を入力して、他の版と区別します。
●保存されている版
現在の SLP 文書で保存されている版の一覧をリスト表示します。
表示する版の内容は、バージョン、保存日時、保存担当者、および履歴です。
●開くボタン
保存されている版リストで選択した版を開きます。
この機能で開いた版を別 SLP 文書として保存する場合は、メニュー[ファイル] - [名前を付けて保存] を選択して、別のファイル名で保存します。
●削除ボタン
保存されている版リストで選択した版を削除します。
削除されるのはこの版のみで、SLP 文書自体は削除されません。
●履歴を表示ボタン
保存されている版リストで選択した版の履歴のすべてを表示します。(版の履歴表示ダイアログを開きます)
●閉じるボタン
ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：版の履歴入力ダイアログ
■メニュー　　：[ファイル]-[版の管理]-[保存]
■機能概要　　：版に関する履歴を入力します。
各項目説明：



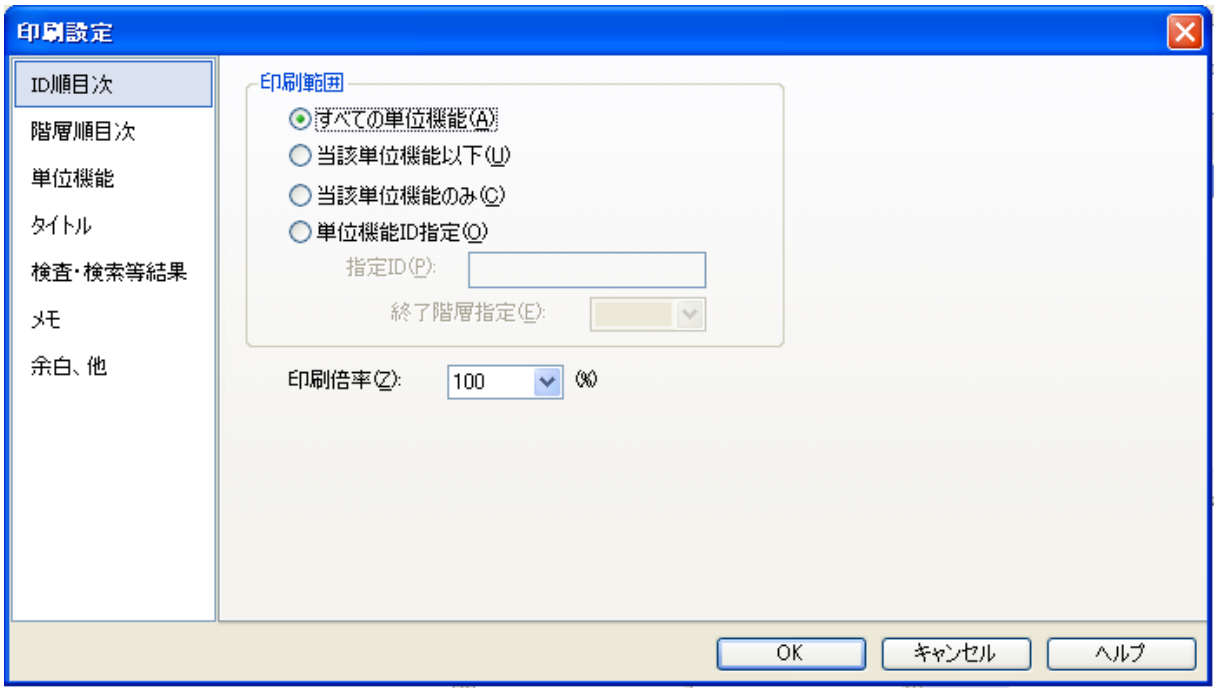
●バージョン入力ボックス
　メジャーバージョン番号とマイナーバージョン番号を入力します。
　保存後には、バージョンを変更することはできません。
●日付と時刻
　保存する版の保存日時を表示します。
●保存した人
　保存する版の保存担当者を表示します。
●版の履歴入力ボックス
　保存する版への履歴を入力します。
　保存後には、履歴を変更することはできません。
●OK ボタン
　設定内容で版を保存し、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　版を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：版の履歴表示ダイアログ
■メニュー　　：[ファイル]-[版の管理]-[履歴を表示]
■機能概要　　：保存されている版リストで選択した版の履歴をすべて表示します。
■各項目説明：



●バージョン
　保存されている版リストで選択した版のバージョンを表示します。
●日付と時刻
　保存されている版リストで選択した版の保存日時を表示します。
●保存した人
　保存されている版リストで選択した版の保存担当者を表示します。
●版の履歴
　保存されている版リストで選択した版の履歴をすべて表示します。
　履歴を変更することはできません。
●閉じるボタン
　ダイアログボックスを閉じます。

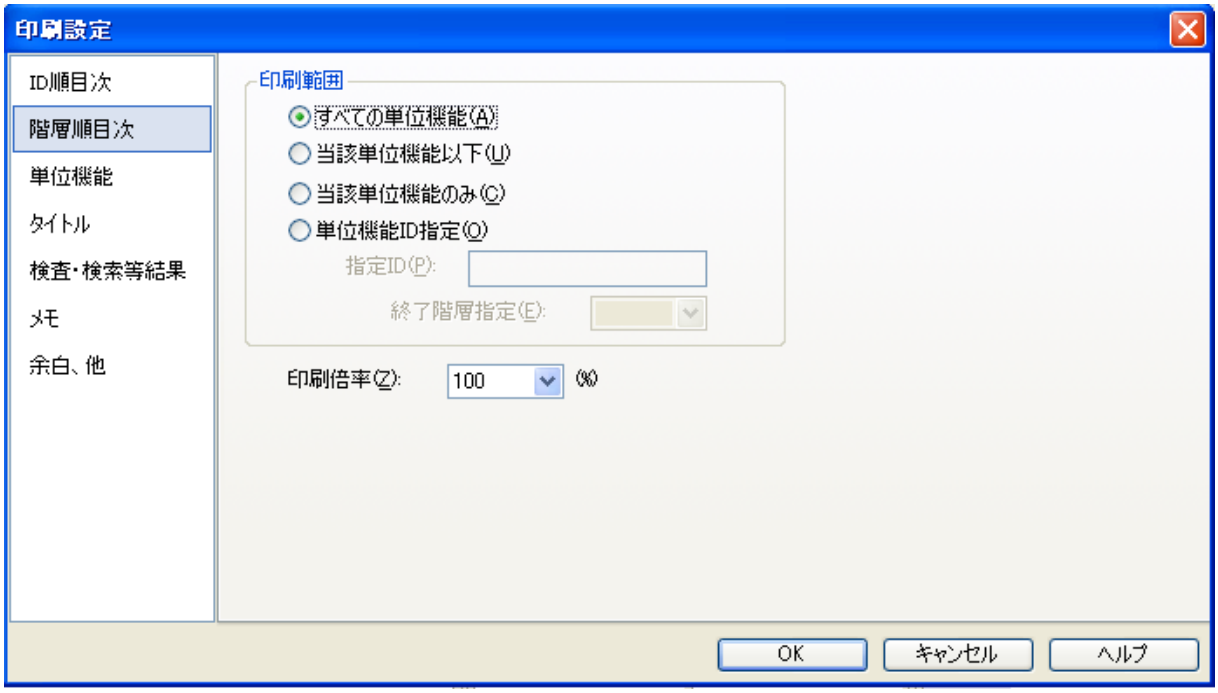
■ダイアログ名　：印刷設定（ＩＤ順目次）ダイアログ
■メニュー　　：[ファイル]-[印刷設定] -[ＩＤ順目次]
■機能概要　　：ＩＤ順目次の印刷設定を設定します。
■各項目説明：



●印刷範囲
ＩＤ順目次で印刷する範囲を指定します。
・選択１：すべての単位機能指定
　すべての単位機能を印刷します。
・選択２：当該単位機能以下
　印刷を選択時に表示している単位機能以下すべての単位機能を印刷します。
・選択３：当該単位機能のみ
　印刷を選択時に表示している単位機能のみを印刷します。
・選択４：単位機能 ID 指定
　指定 ID 以下のすべての単位機能を印刷します。
　指定 ID 入力欄
　　印刷を開始する単位機能の ID が指定します。
　終了階層指定入力欄
　　印刷を終了する単位機能の階層を指定します。
　指定 ID より上位の階層を指定すると、指定 ID の単位機能のみ印刷します。

●印刷倍率
ＩＤ順目次印刷の印刷倍率を設定します。（概算値）印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。

■ダイアログ名　：印刷設定（階層順目次）ダイアログ
■メニュー　　：[ファイル]-[印刷設定] -[階層順目次]
■機能概要　　：階層順目次の印刷設定を設定します。
■各項目説明：



●階層順目次・印刷範囲

・選択１：すべての単位機能指定
　すべての単位機能を印刷します。

・選択２：当該単位機能以下
　印刷を選択時に表示している単位機能以下のすべての単位機能を印刷します。

・選択３：当該単位機能のみ
　印刷を選択時に表示している単位機能のみを印刷します。

・選択４：単位機能 ID 指定
　指定 ID 以下のすべての単位機能を印刷します。
　指定 ID 入力欄
　　印刷を開始する単位機能の ID が指定します。
　終了階層指定入力欄
　　印刷を終了する単位機能の階層を指定します。
　　指定 ID より上位の階層を指定すると、指定 ID の単位機能のみ印刷します。

●階層順目次・印刷倍率

階層順目次印刷の印刷倍率を設定します。（概算値）印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。

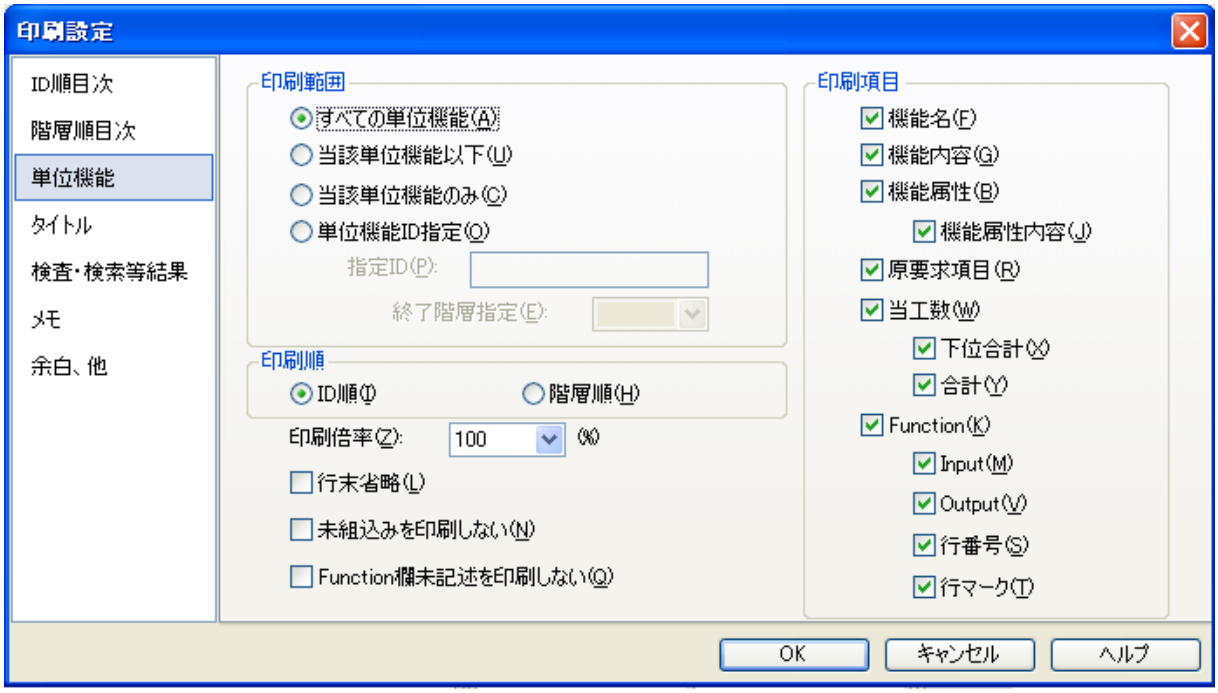
●OK ボタン

変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●キャンセルボタン

変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：印刷設定（単位機能）ダイアログ
■メニュー　　：[ファイル]-[印刷設定]-[単位機能]
■機能概要　　：単位機能の印刷設定を設定します。
■各項目説明：



●印刷範囲
単位機能で印刷する範囲を指定します。
・選択１：すべての単位機能指定
　すべての単位機能を印刷します。
・選択２：当該単位機能以下
　印刷を選択時に表示している単位機能以下すべての単位機能を印刷します。
・選択３：当該単位機能のみ
　印刷を選択時に表示している単位機能のみを印刷します。
・選択４：単位機能 ID 指定
　指定 ID 以下のすべての単位機能を印刷します。
　指定 ID 入力欄
　　印刷を開始する単位機能の ID が指定します。
　終了階層指定入力欄
　　印刷を終了する単位機能の階層を指定します。
　　指定 ID より上位の階層を指定すると、指定 ID の単位機能のみ印刷します。

●印刷倍率
　単位機能印刷の印刷倍率を設定します。（概算値）
　印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。

●行末省略
　単位機能で、画面上で１行の行が印刷することで１行に収まらない場合、収まらない箇所を省略します。
　行を省略しない場合は、改行します。

●未組込みを印刷しない
　未組込みの単位機能も印刷しません。

選択しなければ、未組込み単位機能を印刷します。

●Function 欄未記述を印刷しない

Fuction 欄が未記述の単位機能も印刷しません。

選択しなければ、未記述の単位機能を印刷します。

●印刷項目

単位機能で印刷する項目を指定します。

・選択１：機能名

単位機能の機能名を印刷します。

・選択２：機能内容

単位機能の機能内容を印刷します。

・選択３：機能属性

単位機能の機能属性を印刷します。

選択４-1：機能属性内容

単位機能の機能属性内容を印刷します。

・選択４：原要求項目

単位機能の原要求項目を印刷します。

・選択５：当工数

単位機能の原要求項目を印刷します。

選択１：下位合計

単位機能の下位合計を印刷します。

選択２：合計

単位機能の合計を印刷します。

・選択６：Function

選択１：Input

Input 欄を印刷します。

選択２：Output

Output 欄を印刷します。

選択３：行番号

Function 欄の行番号を印刷します。

選択４：行マーク

Function 欄の行マークを印刷します。

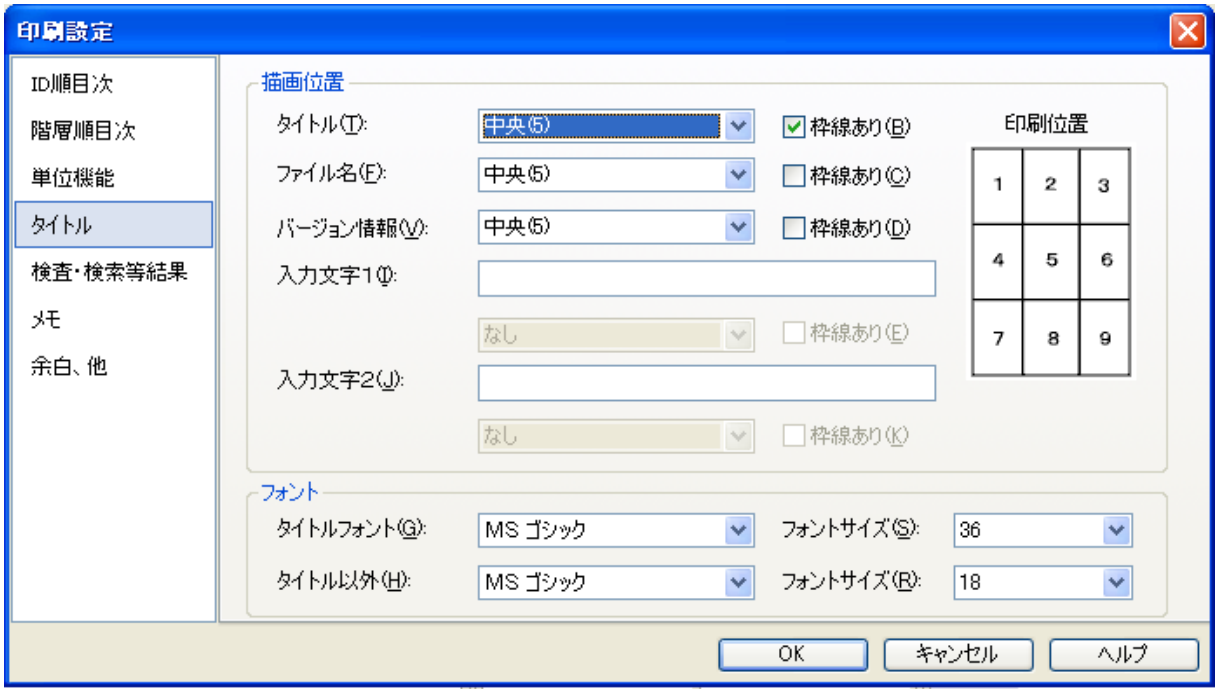
●OK ボタン

変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●キャンセルボタン

変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：印刷設定-タイトルダイアログ
■メニュー　　：[ファイル]-[印刷設定]-[タイトル]
■機能概要　　：タイトルの印刷設定をします。
■　各項目説明：



●描画位置・タイトル
　タイトルを印刷する位置を指定します。
・選択１：枠線あり
　タイトルを枠線で囲み印刷します。
●描画位置・ファイル名
　ファイル名を印刷する位置を指定します。
・選択１：枠線あり
　ファイル名を枠線で囲み印刷します。
●描画位置・バージョン情報
　バージョン情報を印刷する位置を指定します。
・選択１：枠線あり
　バージョン情報を枠線で囲み印刷します。
●描画位置・入力文字１
　印刷する文字列を入力文字１として入力します。
　入力文字１を印刷する位置を選択します。
・選択１：枠線あり
　入力文字１を枠線で囲み印刷します。
●描画位置・入力文字２
　印刷する文字列を入力文字２として入力します。
　入力文字２を印刷する位置を選択します。
・選択１：枠線あり
　入力文字２を枠線で囲み印刷します。
●フォント・タイトフォント
　タイトルの印刷のフォントを設定します。
・ファントサイズ

タイトルの印刷のフォントサイズを設定します。

●フォント・タイト以外

タイトル以外の印刷のフォントを設定します。

・ファントサイズ

タイトル以外の印刷のフォントサイズを設定します。

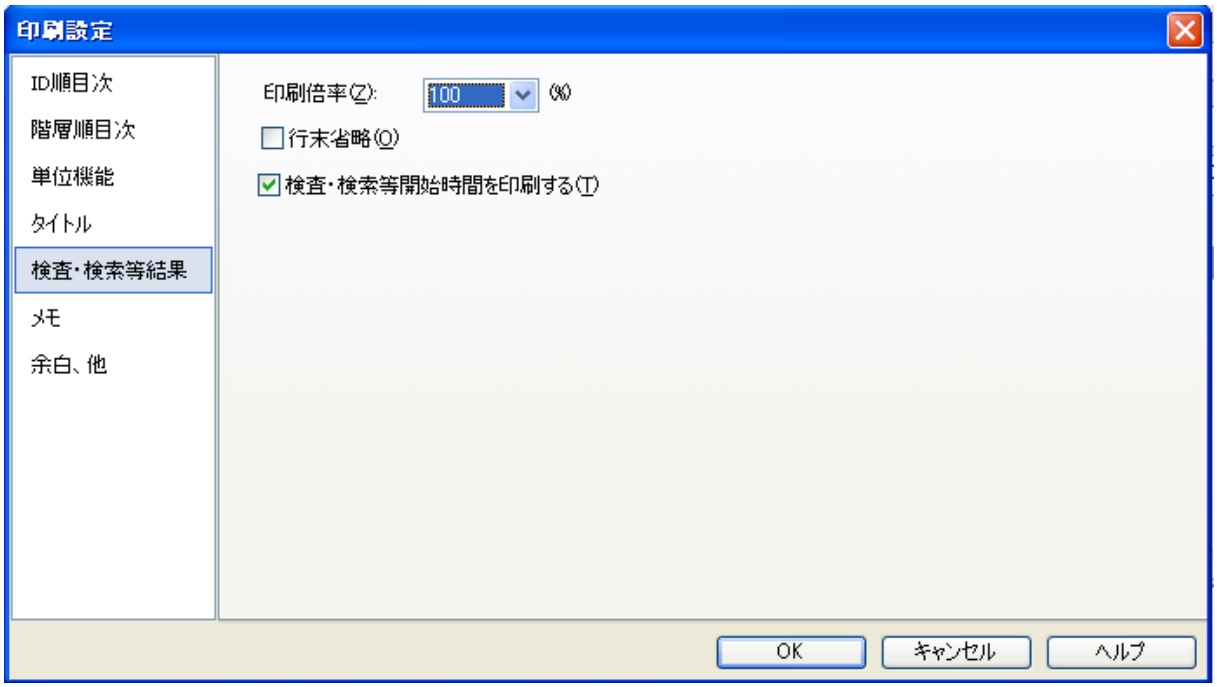
●OK ボタン

変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●キャンセルボタン

変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：印刷設定（検査・検索等結果）ダイアログ
■メニュー　　：[ファイル]-[印刷設定] -[検査・検索等結果]
■機能概要　　：検査・検索等結果の印刷設定を設定します。
■各項目説明：



●印刷倍率

検査･検索等結果画面印刷の印刷倍率を設定します。(概算値)印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。

●行末省略

画面上で１行の行が印刷することで１行に収まらない場合、収まらない箇所を省略します。

行を省略しない場合は、改行します。

●検査・検索等を開始した時間を印刷する

印刷時に検査・検索等結果画面に出力を開始した時間を印刷します。

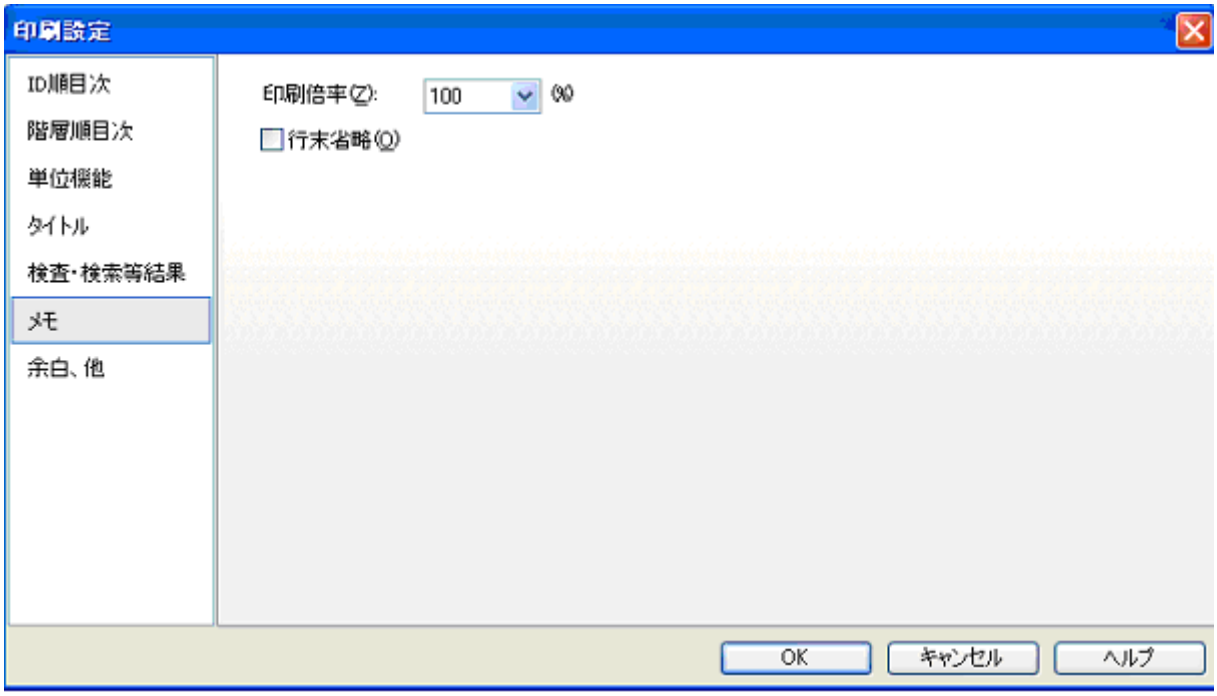
●OK ボタン

変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●キャンセルボタン

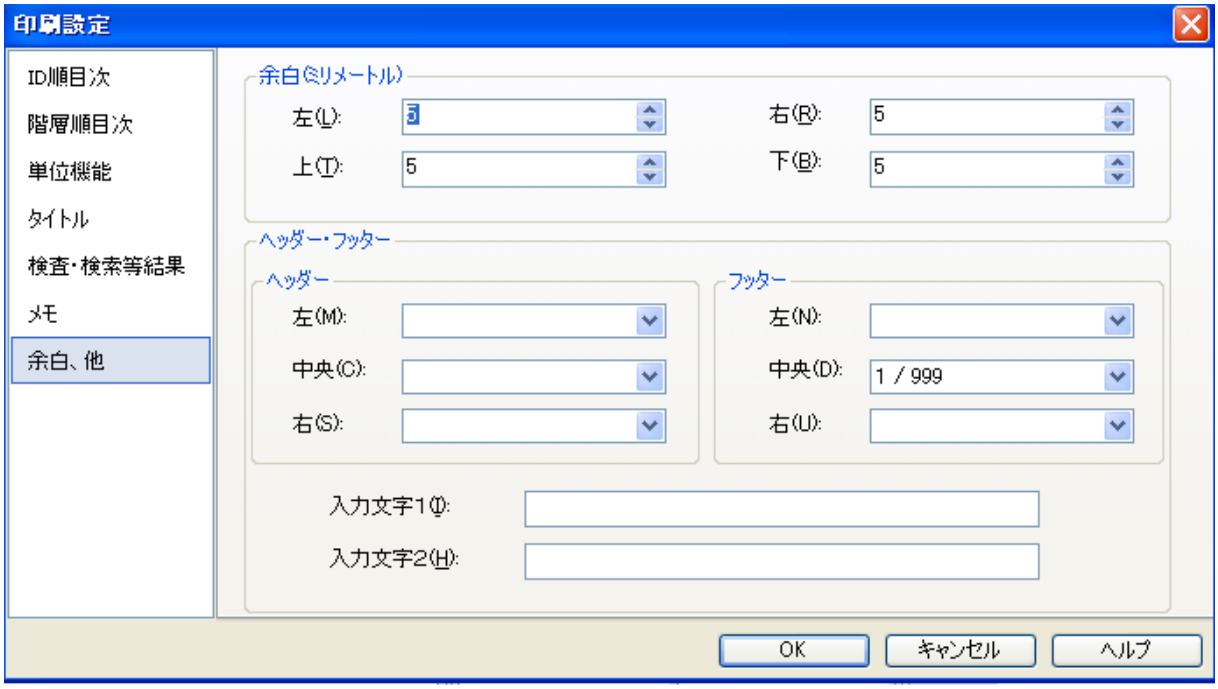
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：印刷設定（メモ）ダイアログ
■メニュー　　：[ファイル]-[印刷設定] -[メモ]
■機能概要　　：メモ画面の印刷設定を設定します。
■各項目説明：



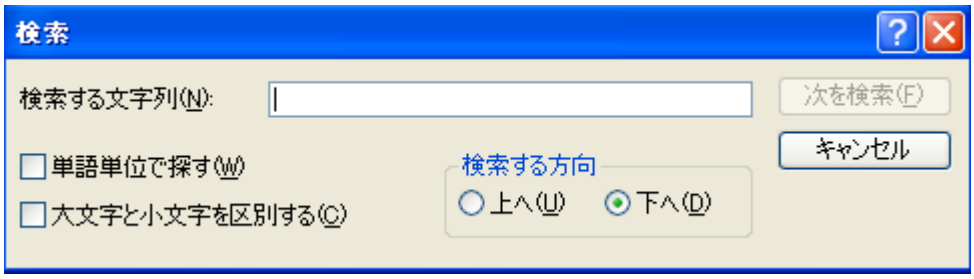
●印刷倍率
メモ画面印刷の印刷倍率を設定します。（概算値）印刷倍率は目安であり、厳密な拡大縮小の倍率ではありません。
●行末省略
１行が印刷することで１行に収まらない場合、収まらない箇所を省略します。
行を省略しない場合は、改行します。
●OK ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：印刷設定-余白、他ダイアログ
■メニュー　　：[ファイル]-[印刷設定]-[余白、他]
■機能概要　　：余白、ヘッダー及びフッターの印刷設定をします。
　　タイトル印刷には適応されません。
■各項目説明：



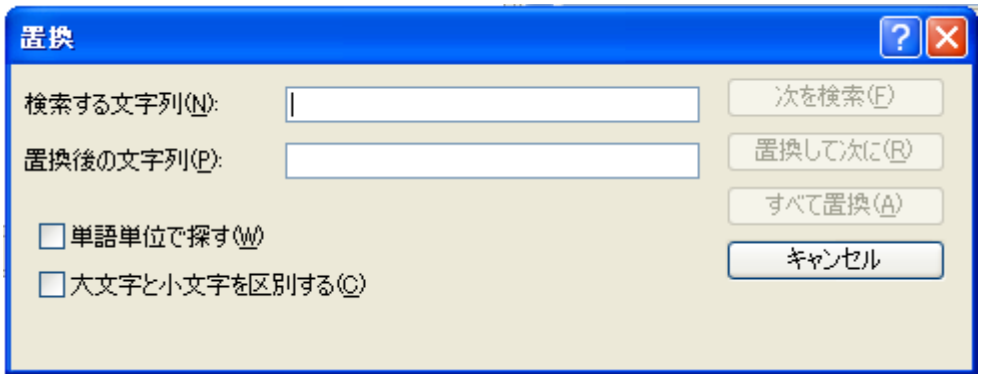
●余白
　左/右/上/下の余白をミリメートル単位で指定します。
　0-50 まで指定できます。
　上/下は余白の他に、常にヘッダー・フッター分が確保されます。
●ヘッダー印刷項目選択
　ヘッダーの左/中/右の印刷する項目を指定します。
●フッター印刷項目選択
　フッターの左/中/右の印刷する項目を指定します。
●入力文字１
　印刷項目として入力文字１を選択した場合に、印刷する文字列を入力します。
●入力文字２
　印刷項目として入力文字２を選択した場合に、印刷する文字列を入力します。
●OK ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：検索ダイアログ
■メニュー　　：[編集]-[全検索]
■機能概要　　：現在作業中の SLP 文書に、指定したファイルの SLP 文書の単位機能を結合します。
■各項目説明：



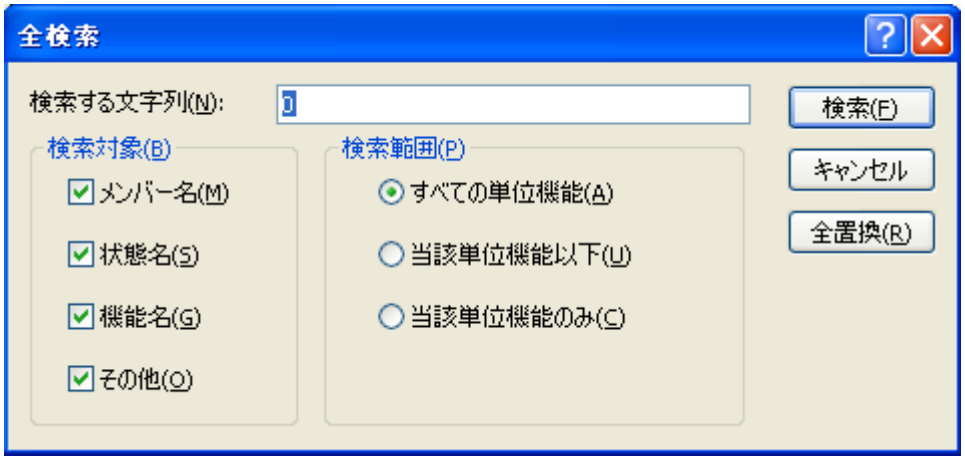
●検索する文字列
　結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●単語単位で探す
　結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●大文字と小文字を区別する
　結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●検索する方法
　検索の対象を指定します。
・選択１：上へ
　　指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の単位機能を置換して結合します。
　　結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
・選択２：下へ
　　指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の末弟の子単位機能として結合します。
　　結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
●次を検索ボタン
　ファイル結合を実行せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：置換ダイアログ
■メニュー　　：[編集]-[全検索]
■機能概要　　：現在作業中の SLP 文書に、指定したファイルの SLP 文書の単位機能を結合します。
■各項目説明：



●検索する文字列
　結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●置換後の文字列
　結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●単語単位で探す
　結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●大文字と小文字を区別する
　結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●次を検索ボタン
　ファイル結合を実行せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
●置換して次に
　ファイル結合を実行せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
●すべて置換
　ファイル結合を実行せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：全検索ダイアログ
■メニュー　　：[編集]-[全検索]
■機能概要　　：現在作業中の SLP 文書に、指定したファイルの SLP 文書の単位機能を結合します。
■各項目説明：



●検索する文字列
結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●検索対象
検索の対象を指定します。
・選択１：メンバー名
指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の単位機能を置換して結合します。
結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
・選択２：状態名
指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の末弟の子単位機能として結合します。
結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
・選択３：機能名
指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の単位機能を置換して結合します。
結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
・選択４：その他
指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の末弟の子単位機能として結合します。
結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
●検索範囲
検索する範囲を指定します。
・選択１：すべての単位機能機
結合元の単位機能の機能属性項目を、結合先の単位機能の機能属性に反映します。
・選択２：当該単位機能以下
結合元の単位機能の原要求項目を、結合先の単位機能の原要求項目に反映します。
・選択３：当該単位機能のみ
結合元の単位機能の当工数項目を、結合先の単位機能の当工数項目に反映し

ます。

●検索ボタン
ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
ファイル結合を実行せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
●全検索ボタン
ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：全置換ダイアログ
■メニュー　：[編集]-[全置換]
■機能概要　：現在作業中の SLP 文書に、指定したファイルの SLP 文書の単位機能を結合します。
■各項目説明：

●検索する文字列
結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●置換後の文字列
結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●検索対象
結合する位置を指定します。
・選択１：メンバー名
指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の単位機能を置換して結合します。
結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
・選択２：状態名
指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の末弟の子単位機能として結合します。
結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
●検索範囲
結合先の現在作業中の SLP 文書に、選択項目の情報を反映するか指定します。
検索する範囲を指定します。
・選択１：すべての単位機能機
結合元の単位機能の機能属性項目を、結合先の単位機能の機能属性に反映します。
・選択２：当該単位機能以下
結合元の単位機能の原要求項目を、結合先の単位機能の原要求項目に反映し

ます。

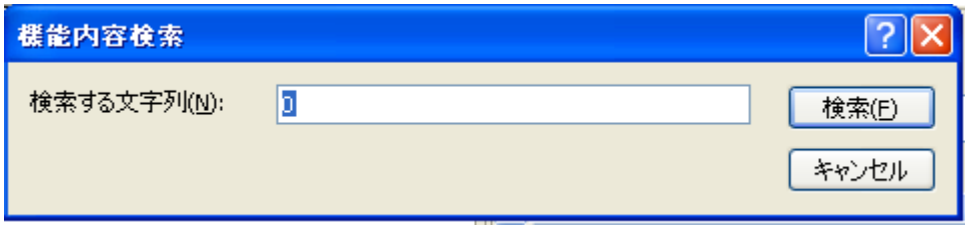
・選択３：当該単位機能のみ
結合元の単位機能の当工数項目を、結合先の単位機能の当工数項目に反映します。

●置換ボタン
ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。

●キャンセルボタン
ファイル結合を実行せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

●全置換ボタン
ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：機能内容検索
■メニュー　：[編集]-[機能内容検索]
■機能概要　：すべて単位機能の機能内容欄で、指定した文字列が含まれる単位機能を検索します。
■各項目説明：

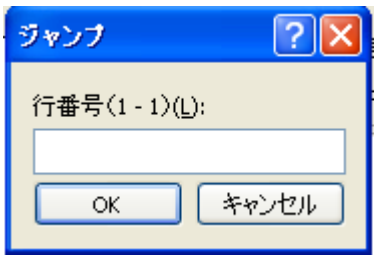


●検索する文字列
機能内容欄で、検索する文字列を指定します。

●検索ボタン
ダイアログボックスを閉じ、すべて単位機能の機能内容欄で、指定した文字列が含まれる単位機能を検索し、検査・検索等ウインドウに表示します。

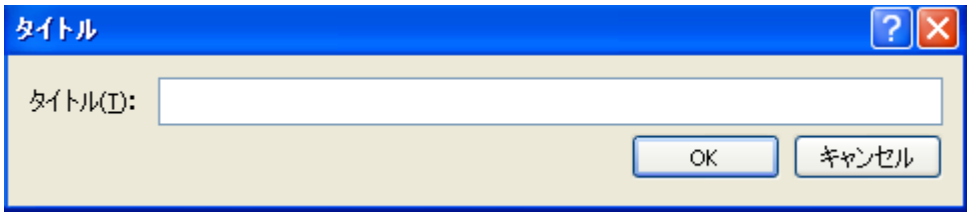
●キャンセルボタン
ダイアログボックスを閉じ、検索は実行しません。

■ダイアログ名　：ジャンプダイアログ
■メニュー　：[編集]-[ジャンプ]
■機能概要　：現在記述中の単位機能の、Function 欄内の指定行にジャンプします。
■各項目説明：



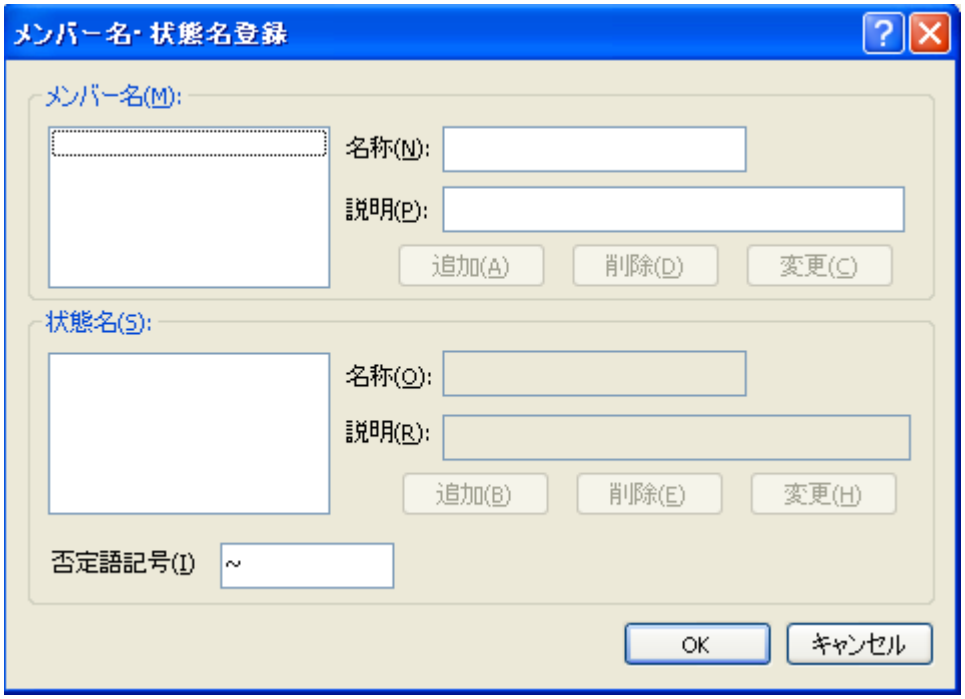
●行番号
ジャンプ可能な行番号を表示します。
ジャンプ可能な範囲より小さい行番号を入力した場合、先頭行にジャンプします。
ジャンプ可能な範囲より大きい行番号を入力した場合は、最終行にジャンプします。
●行番号
ジャンプ先の行番号を入力します。
●OK ボタン
ダイアログボックスを閉じ、ジャンプを実行します。
●キャンセルボタン
ダイアログボックスを閉じ、ジャンプは実行しません。

■ダイアログ名　：タイトルダイアログ
■メニュー　：[記述]-[タイトル]
■機能概要　：SLP 文書のタイトルを設定します。
■各項目説明：



●タイトル
SLP 文書のタイトルを記入します。
設定したタイトルは印刷時に使用されます。
●OK ボタン
変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：メンバー名・状態名登録ダイアログ
■メニュー　　：[記述]-[メンバー名・状態名登録]
■機能概要　　：メンバー名、状態名を登録します。
　　メンバー名、状態名は、単位機能 Function 欄の if 構文、Do 構文、switch 構文で使用します。
■各項目説明：



●メンバー名
　if 構文、Do 構文、switch 構文で使用するメンバー名を定義します。
　　ここで定義したメンバー名は、各構文のメンバー名を入力する際に右クリックメニューで選択することができます。
●メンバー名リスト
　メンバー名リスト：登録済みのメンバー名の一覧を表示します。一覧から選択することにより、メンバー名を変更したり削除することができます。
●メンバー名入力ボックス
　登録するメンバー名を入力します。
●メンバー名説明入力ボックス
　登録するメンバー名の説明文を入力します。
　ここで入力した説明文は、Function 欄内のメンバー名の上にマウスカーソルを移動するとポップアップ表示されます。
●メンバー名追加ボタン
　入力したメンバー名を追加登録します。
●メンバー名削除ボタン
　メンバー名リストで選択したメンバー名の登録を削除します。
●メンバー名変更ボタン
　メンバー名リストで選択したメンバー名を、修正したメンバー名に変更します。（上書き）
●状態名
　if 構文、Do 構文、switch 構文で使用する状態名を定義します。

ここで定義した状態名は、Function 欄で各構文の状態名を入力する際に、右クリックメニューで選択することができます。
状態名はメンバー名リストで選択しているメンバー名に対して登録します。
右クリックメニューで表示する状態名は、入力されているメンバー名に対して登録状態名を表示します。

●状態名リスト
状態名リスト:登録済みの状態名の一覧を表示します。一覧から選択することにより、状態名を変更・削除することができます。
状態名はメンバー名リストで選択しているメンバー名に対して登録します。

●状態名入力ボックス
登録する状態名を入力します。

●状態名説明入力ボックス
登録する状態名の説明文を入力します。
ここで入力した説明文は、Function 欄内の状態名の上にマウスカーソルを移動するとポップアップ表示されます。

●状態名追加ボタン
入力した状態名を追加登録します。

●状態名削除ボタン
状態名リストで選択した状態名の登録を削除します。

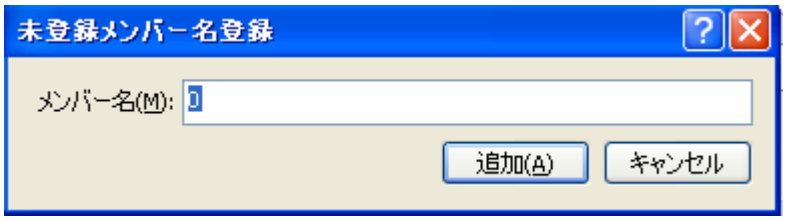
●状態名変更ボタン
状態名リストで選択した状態名を、修正した状態名に変更します。（上書き）

●否定語記号
否定語記号を入力します。
ある状態名に対して反対の意味を持つものを否定語とします。
登録する状態名の中で、先頭に登録された否定語記号が使われていて、否定語記号のつかない状態名を登録している場合に否定語として登録します。
状態名には否定語も登録できます。特定の状態名と同じ語句の状態名で先頭に否定語記号がつくものを同時に状態名に登録すると、否定後記号をもつ状態名は否定語となります。

●OK ボタン
変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。

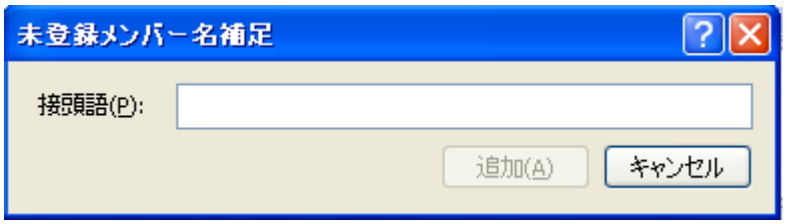
●キャンセルボタン
変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：未登録メンバー名登録ダイアログ
■メニュー　　：[記述]-[未登録メンバー名登録]
■機能概要　　：未登録メンバー名とその対応する状態名を登録します。
■各項目説明：



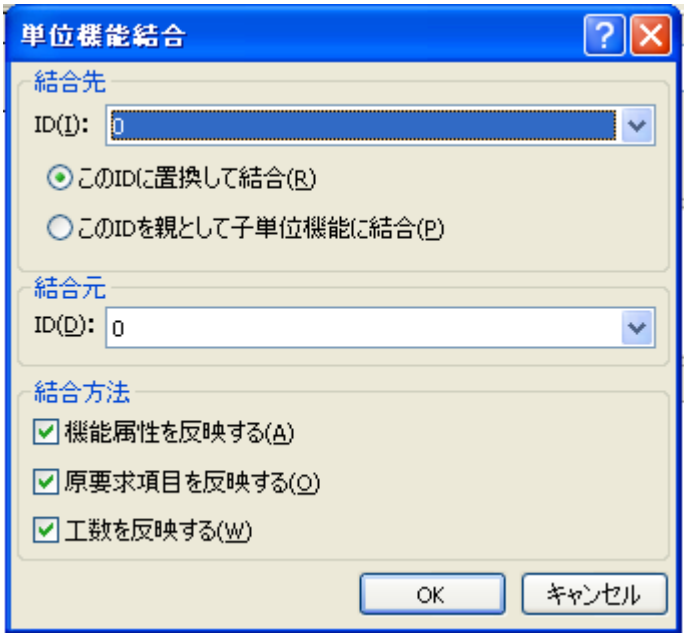
●メンバー名入力ボックス
結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●追加ボタン
ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：未登録メンバー名補足ダイアログ
■メニュー　　：[記述]-[未登録メンバー名補足]
■機能概要　　：メンバー名、状態名を登録します。
メンバー名、状態名は、単位機能 Function 欄の if 構文、Do 構文、switch 構文で使用します。
■各項目説明：



●接頭語入力ボックス
結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●追加ボタン
ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　　：単位機能結合ダイアログ
■メニュー　　：[プロセス]-[単位機能結合]
■機能概要　　：現在作業中の SLP 文書に、指定したファイルの SLP 文書の単位機能を結合します。
■各項目説明：

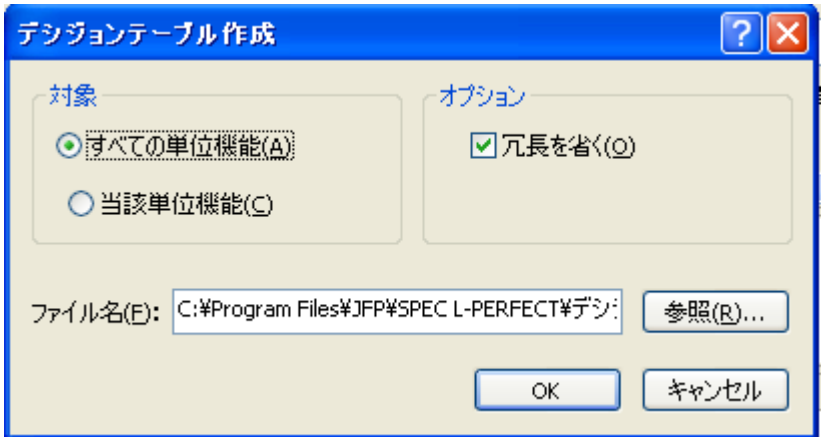


●結合先・ID
結合先の現在作業中の SLP 文書の単位機能 ID を指定します。
●結合する位置
結合する位置を指定します。
・選択１：この ID に置換して結合
指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の単位機能を置換して結合します。
結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
・選択２：この ID を親として子単位機能に結合
指定ファイルの SLP 文書の単位機能と、その下位階層の全ての単位機能を、指定した結合先 ID の末弟の子単位機能として結合します。
結合の結果は、現在の作業中の SLP 文書に反映します。
●結合元・ID
指定ファイルの SLP 文書の結合元の単位機能 ID を指定します。

●結合方法
結合先の現在作業中の SLP 文書に、選択項目の情報を反映するか指定します。
・選択１：機能属性を反映する
結合元の単位機能の機能属性項目を、結合先の単位機能の機能属性に反映します。
・選択２：原要求項目を反映する
結合元の単位機能の原要求項目を、結合先の単位機能の原要求項目に反映します。
・選択３：当工数を反映する
結合元の単位機能の当工数項目を、結合先の単位機能の当工数項目に反映します。

●OK ボタン
　ファイル結合を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　ファイル結合を実行せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：デシジョンテーブル作成
■メニュー　　：[プロセス]-[デシジョンテーブル作成]
■機能概要　　：デシジョンテーブル作成の動作環境を設定します。
■各項目説明：



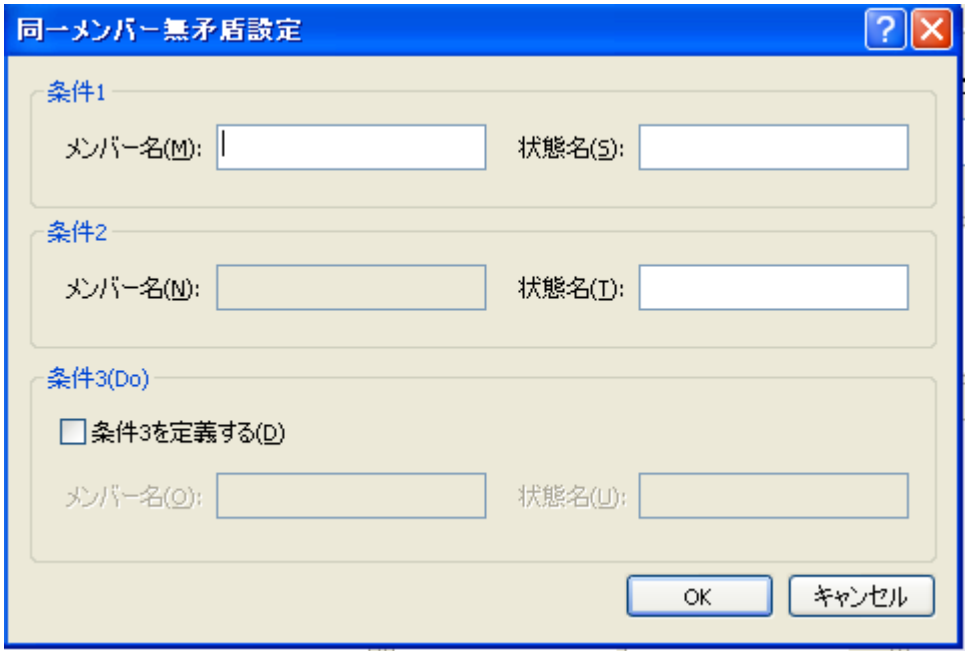
対象：デシジョンテーブルを作成する対象範囲を指定します。
●すべての単位機能
　組み込まれている全階層を対象とします。
●当該単位機能
　Function 欄に表示されている単位機能だけを対象とします。

オプション：論理的に冗長な部分は省略されます。
●冗長を省く
　論理的に冗長な部分は省略されます。

ファイル名入力ボックス：デシジョンテーブルを出力するファイル名を指定します。

●OK ボタン
　設定内容に従い、デシジョンテーブルを作成して、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　デシジョンテーブルを作成せずに、ダイアログ ボックスを閉じます

■ダイアログ名　：同一メンバー無矛盾設定
■メニュー　　：[検査]-[同一メンバー無矛盾設定 追加]
■機能概要　　：検査結果で矛盾の誤判定に対して、同一メンバー無矛盾（誤判定のパターン）を登録します。
　　登録により、誤判定が解消されます。
■各項目説明：



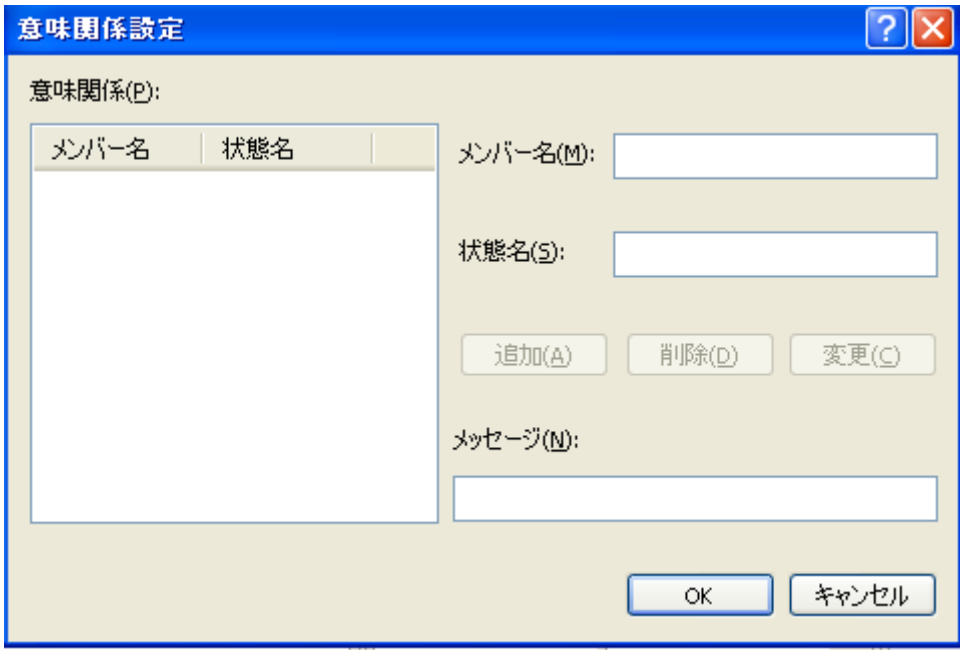
矛盾判定の基準となる条件文を指定します。
●条件１　メンバー名入力ボックス
　条件文(if 構文、switch 構文)のメンバー名を指定します。
●条件１　状態名入力ボックス
　条件文(if 構文、switch 構文)の状態名を指定します。

矛盾誤判定される条件文を指定します。
●条件２　メンバー名
　条件１のメンバー名が自動で設定されます。
●条件２　状態名入力ボックス
　条件文(if 構文、switch 構文)の状態名を指定します。

条件２が Do 構文に依存して矛盾ではなくなる場合に、入力します。
●Do 定義使用
　Do 欄を有効にする場合には、選択します。
●Do　メンバー名入力ボックス
　Do 構文のメンバー名を指定します。
●Do　状態名入力ボックス
　Do 構文の状態名を指定します。

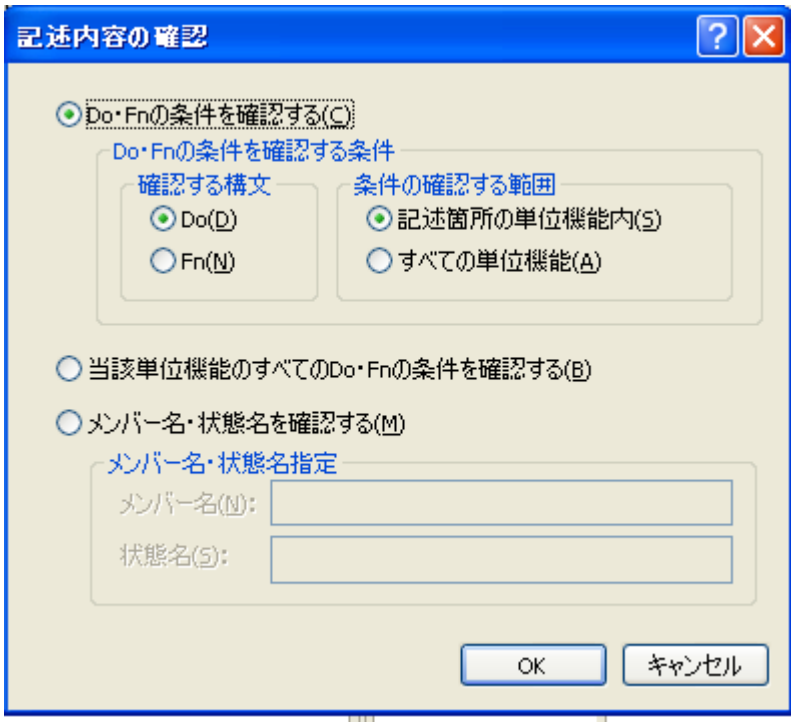
●OK ボタン
　変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：意味関係設定
■メニュー　　：[検査]-[意味関係 追加]
■機能概要　　：論理的に矛盾判定が不能なケース(メンバー名同士が異なる条件文)に対して、不整合な記述の条件を登録します。
　　登録により、不整合な記述を検出ができます。
■各項目説明：



●意味関係
　意味関係（メンバー名、状態名の対の集まり）を表示します。
●メンバー名入力ボックス
　不整合な記述の条件文のメンバー名を入力します。
●状態名入力ボックス
　不整合な記述の条件文の状態名を入力します。
●追加ボタン
　入力されたメンバー名と状態名の対を意味関係に追加します。
●削除ボタン
　登録済のメンバー名と状態名の対を意味関係を削除します。
　意味関係一覧から選択したメンバー名と状態名の対が、意味関係から削除されます。
●変更ボタン
　登録済のメンバー名と状態名の対を変更します。
　意味関係のメンバー名と状態名の対を変更します。
●出力メッセージ入力ボックス
　登録した意味関係（メンバー名、状態名の対の集まり）を、検出時に表示するメッセージを記述します。
●OK ボタン
　変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　　：記述内容の確認ダイアログ
■メニュー　　：[検査]-[記述内容の確認]
■機能概要　　：SLP 記述内容を確認します。
■各項目説明：



●Do・Ｆｎの条件を確認する

指定された確認する構文と条件の確認する範囲に従い、条件を表示します。

確認する構文
・選択１：　Do
　　Do 構文の条件を確認します。
・選択２：　Fn
　　Fn 構文の条件を確認します。

条件の確認する範囲
・選択１：　記述箇所の単位機能内
　　Do・Fn の記述された単位機能内に限定した条件を表示します。
　　条件は単位機能内だけですので、上位階層の単位機能の条件は含まれません。
・選択２：　単位機能すべて
　　全階層の単位機能すべてを対象とした Do・Fn の条件を表示します。
　　起点単位機能から当該 Fn までの条件を全て表示します。親階層の条件も含まれます。

●当該単位機能内でのすべての Do・Fn の条件を確認する
現在記述中の単位機能の、全ての Do 構文と Ｆｎ構文の条件を表示します。
Do 構文と Fn 構文の実行条件、実行順序を確認することができます。
●メンバー名・状態名を確認する
入力されたメンバー名、もしくは状態名の一部が含まれる SLP 記述の一覧を表示します。
メンバー名と状態名の両方を入力すると、メンバー名と状態名がともに入力済みの行

が対象となります。
記述の統一性を確認することができます。

●OK ボタン
指定した処理を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。

●キャンセルボタン
何もせずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：文字検索ダイアログ
■メニュー　　：[検査]-[語句検査]-[文字検索]
■機能概要　　：文字検索をします。
■各項目説明：

●検索する文字列入力ボックス
検索する文字を入力します。

●検索対象
検索する対象を指定します。

・選択１：メンバー名
　メンバー名を検索する対象とします。
・選択２：状態名
　単位機能を検索する対象とします。
・選択３：機能名
　機能名を検索する対象とします。
・選択４：その他
　メンバー名、状態名、及び機能名以外を検索する対象とします。

●検索範囲
検索する範囲を指定します。

・選択１：すべての単位機能
　すべての単位機能を検索します。
・選択２：当該単位機能以下
　表示中のる単位機能以下を検索します。
・選択３：当該単位機能のみ
　表示中の単位機能を検索します。

●検索ボタン
ダイアログを閉じて、文字列検索を行います。

●キャンセルボタン
ダイアログを閉じて、文字列検索を行いません。

■ダイアログ名　：検索基準設定ダイアログ
■メニュー　　：[検査]-[語句検査]-[検索基準設定]
■機能概要　　：*類似語検索*で、類似と判断する基準を設定します。
■各項目説明：

●一致率：類似とする一致率を設定します。
設定の一致率より高い場合、類似と判断します。

●メンバー名
*類似語検索*の対象として、メンバー名を設定します。

●状態名
*類似語検索*の対象として、状態名を設定します。

●メンバー名・状態名
*類似語検索*の対象として、メンバー名と状態名の両方を設定します。

●文字数
*類似語検索*の文字数を設定します。

文字数が設定値より多い場合、*類似語検索*の対象になります。（文字数が設定値より小さいと対象外）

●最大表示数

*類似語検索*の結果、類似と判断された文字列を表示する最大数を設定します。
検索の結果が設定の個数を超えた場合、検索を終了します。

■ダイアログ名　：機能内容フォント設定ダイアログ
■メニュー　　：[書式]-[機能内容フォント]
■機能概要　　：単位機能の機能内容欄のフォントを設定します。
■各項目説明：

●フォント
使用するフォントを設定します。
●サイズ
文字サイズを設定します。
●スタイル太字
文字のスタイルを設定します。チェックすると文字が太字になります。チェックを外すと標準の太さになります。
●スタイル斜体
文字のスタイルを設定します。チェックすると文字が斜体になります。チェックを外すと標準体になります。
●スタイル下線
文字のスタイルを設定します。チェックすると文字に下線が付きます。チェックを外すと下線は付きません。
●文字色
文字色を設定します。
●色見本
選択中の色を表示します。
●フォント見本
選択中のフォントで文字を表示します。
●OK ボタン
変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：Function欄フォント設定ダイアログ
■メニュー　　：[書式]-[Function 欄フォント]
■機能概要　　：単位機能の Function 欄のフォントを設定します。
Function 欄の変項領域を選択している場合は、その文字のフォントを変更します。
選択していない場合は、次の記述から適用されます。
■各項目説明：

●フォント
使用するフォントを設定します。
●サイズ
文字サイズを設定します。
●スタイル太字
文字のスタイルを設定します。チェックすると文字が太字になります。チェックを外すと標準の太さになります。
●スタイル斜体

文字のスタイルを設定します。チェックすると文字が斜体になります。チェックを外すと標準体になります。

●スタイル下線
文字のスタイルを設定します。チェックすると文字に下線が付きます。チェックを外すと下線は付きません。

●文字色
文字色を設定します。

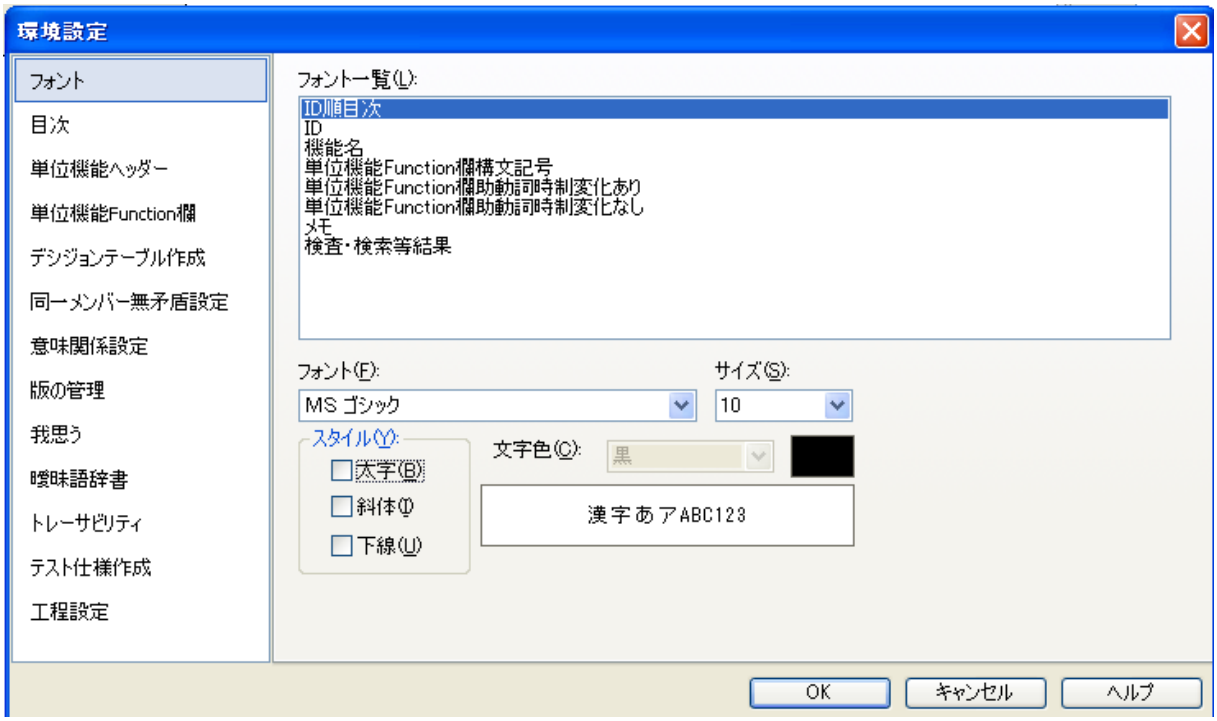
●色見本
選択中の色を表示します。

●フォント見本
選択中のフォントで文字を表示します。

●OK ボタン
変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。

●キャンセルボタン
変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　　：環境設定（フォント）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[フォント]
■機能概要　　：フォントの動作環境を設定します。
■各項目説明：



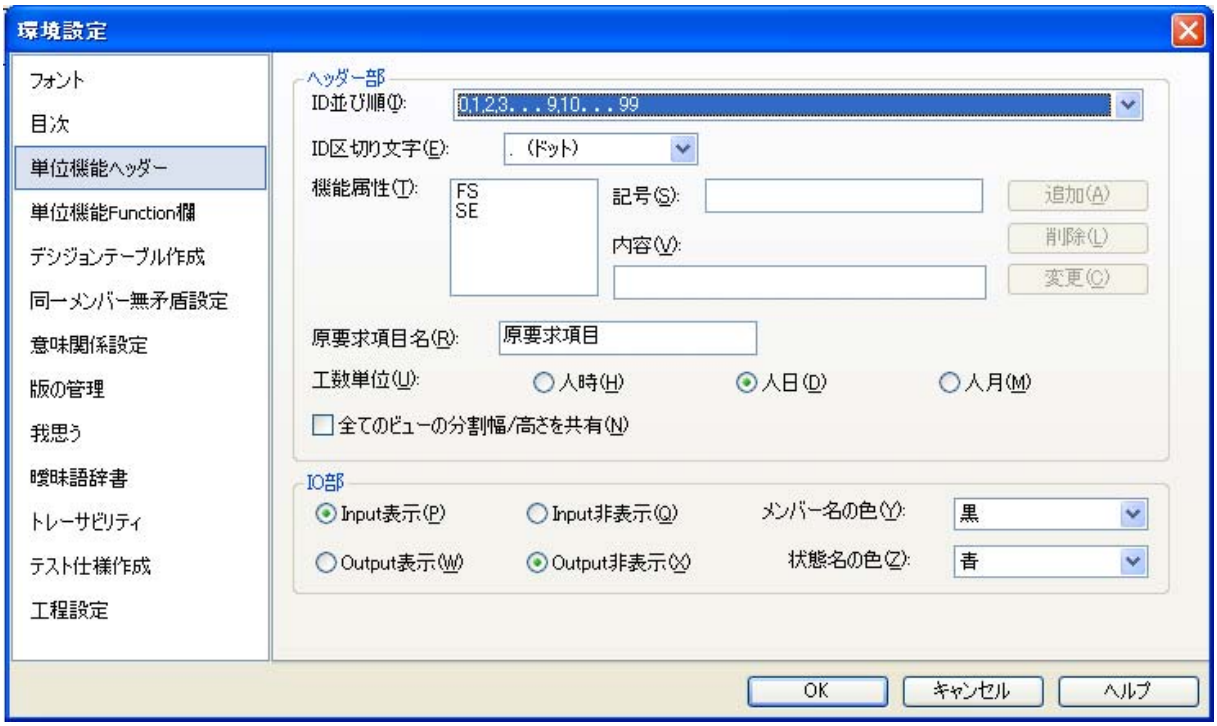
●フォント一覧
設定するフォントを指定します。
●フォント
各機能で使用するフォントを変更します。単位機能 Function 欄構文記号はフォント選択できません。単位機能 Function 欄助動詞に関しては[書式]-[Function 欄フォント]で選択となりますので、ここでは設定できません。
●サイズ
各機能で使用する文字のフォントサイズを変更します。
●スタイル
各機能で使用する文字のフォントスタイルを変更します。単位機能 Function 欄構文記号等、変更不可のものは選択できません。
●文字色
各機能で使用する文字色を変更します。ＩＤ順目次、ID 等文字色変更不可のものは選択できません。

■ダイアログ名　：環境設定（目次）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[目次]
■機能概要　　：*目次*の動作環境を設定します。
■各項目説明：

●ＩＤ順目次・再利用元 ID を表示する
　ＩＤ順目次で、再利用元の単位機能の ID を表示する場合に選択します。
●階層順目次・ID 配置
　階層順目次で、単位機能ボックスの ID の配置を指定します。
・選択１：左
　　ID を単位機能ボックス内の左に配置にして表示します。
・選択２：中央
　　ID を単位機能ボックス内の中央に配置にして表示します。
・選択３：右
　　ID を単位機能ボックス内の右に配置にして表示します。
●階層順目次・機能名配置
　階層順目次で、単位機能ボックスの単位機能名の配置を指定します。
・選択１：左
　　単位機能名を単位機能ボックス内の左に配置にして表示します。
・選択２：中央
　　単位機能名を単位機能ボックス内の中央に配置にして表示します。
・選択３：右
　　単位機能名を単位機能ボックス内の右に配置にして表示します。
●階層順目次・ボックスサイズ　縦
　階層順目次で、表示される単位機能ボックスの縦サイズを指定します。
●階層順目次・ボックスサイズ　横
　階層順目次で、表示される単位機能ボックスの横サイズを指定します。
●階層順目次・ボックス間隔　縦
　階層順目次で、表示される単位機能ボックス間の縦方向間隔を指定します。

●階層順目次・ボックス間隔　横
　階層順目次で、表示される単位機能ボックス間の横方向間隔を指定します。
●階層順目次・色　既記述
　階層順目次で、既記述の単位機能ボックスの色を指定します。
●階層順目次・色　未記述
　階層順目次で、未記述の単位機能ボックスの色を指定します。
●階層順目次・色　再利用単位機能
　階層順目次で、再利用の単位機能ボックスの色を指定します。
●階層順目次・色　再利用元単位機能の参照
　階層順目次で、再利用元の単位機能ボックスの色を指定します。
　使用する文字のフォントサイズを変更します。
●OK ボタン
　変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（単位機能ヘッダー）ダイアログ
■メニュー　：[ツール]-[環境設定]-[単位機能ヘッダー]
■機能概要　：単位機能のヘッダー部の動作環境を設定します。
■　各項目説明：



ヘッダー部：単位機能ヘッダー部の表示に関して設定します。

●ID 並び順
単位機能の ID に使える文字種類を指定します。

●ID 区切り記号
単位機能の ID の区切り記号をを指定します。

機能属性：機能属性を定義します。

●機能属性リスト
定義済みの機能属性の一覧を表示します。
一覧から選択すると、その機能属性の現在の*記号*と*内容*を表示します。

●記号
機能属性の記号を入力します。
記号として使用できる文字は、半角数字＋半角大文字アルファベットのみで 2 文字固定です。

●内容
機能属性の内容（意味や説明など）を入力します。
64 文字まで入力できます。

●追加ボタン
編集中の機能属性を追加定義します。
最大 16 個まで、定義できます。

●変更ボタン
*機能属性リスト*から選択した機能属性を、*記号*、*内容*で修正した定義に変更します。（上書き）

●削除ボタン

*機能属性リスト*から選択した機能属性の定義を削除します。
機能属性を選択するとボタンが有効になります。

●原要求項目入力ボックス
単位機能に対応して基になる要求仕様の項目の名称を変更します。
デフォルトは、原要求項目です。

工数単位　：単位機能の工数（当工数、下位合計、合計）の単位を指定します。
※工数単位を変更しても、記入済みの工数の再計算などは行いませんので注意してください。

●人時
工数単位を人時に設定します
●人日
工数単位を人日に設定します。
●人月
工数単位を人月に設定します。

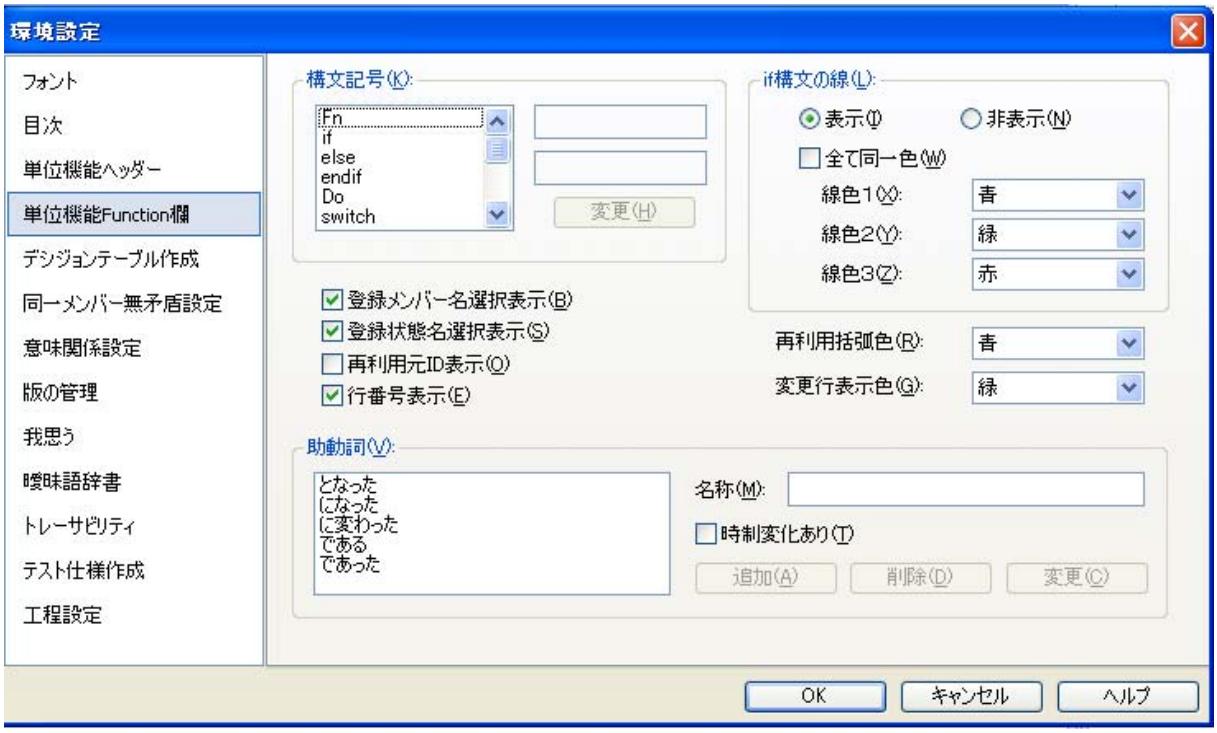
●全てのビューの分割幅／高さを共有
単位機能毎に対応する毎の全てのビューの分割幅／高さを共有する場合に指定します。
指定した場合に、単位機能毎の全てのビューの分割幅／高さは同じになります。

IO 部：Input 欄、Outpu t 欄の表示に関して設定します。

●Input 表示
Input 欄を表示します。
●Input 非表示
Input 欄を非表示にします。
●Output 表示
Output 欄を表示します。
●Output 非表示
Output 欄を非表示にします。
●メンバー名の文字の色
Input 欄、Output 欄で表示されるメンバー名の文字の色を設定します。
●状態名の文字の色
Input 欄、Output 欄で表示される状態名の文字の色を設定します。

●OK ボタン
変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（単位機能Function欄）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[単位機能 Function 欄]
■機能概要　　：単位機能の Function 欄の動作環境を設定します。
■各項目説明：



構文記号：構文記号を変更します。
　　構文記号リストから変更したい構文を選択し、入力領域に新しい構文記号を入力します。変更ボタンを押下することにより構文を変更します。

●構文記号リスト
構文の一覧を表示します。
一覧から選択すると、その構文の構文記号を変更することができます。

●構文記号表示ボックス
構文リストで選択された構文の、デフォルトの文字を表示します。

●構文記号入力ボックス
構文リストで選択された構文記号の、現在設定されている文字を表示します。
ここに変更する文字を入力します。

●変更ボタン
*構文記号リスト*から選択した構文を、*構文記号入力ボックス*で設定した文字に変更します。

●登録メンバー名選択表示
チェックするとコンテキストメニューで登録メンバー名を選択可能になります。

●登録状態名選択表示
チェックするとコンテキストメニューで登録状態名を選択可能になります。登録メンバー名選択表示がチェックされていないと選択できません（状態名は表示されません）。

●再利用オリジナル ID 表示
チェックすると Fn 構文における再利用のオリジナル ID を表示します。

●行番号表示
チェックすると行番号を表示します。

if 構文の線：if 構文の先頭行から終了行までのレベル線に関して設定します。

●表示ボタン
if 構文のレベル線を描画します。

●非表示ボタン
if 構文のレベル線を描画しません。

●全て同一色
if 構文のレベル線を、全レベルで同一色にするかどうかを指定します。
チェックすると、if 構文のレベル線を全て同じ色で描画します。
チェックを外すと if 構文の階層の深さによってレベル線色を区別します。
全て同一色にした場合、線色１で描画します。

●線色１
if 構文の深さによって１、２、３の順でレベル線色を変えて描画します。
４番目以降は再度設定順の３色で繰り返して描画します。

●線色２
if 構文の深さによって１、２、３の順でレベル線色を変えて描画します。
４番目以降は再度設定順の３色で繰り返して描画します。

●線色３
if 構文の深さによって１、２、３の順でレベル線色を変えて描画します。
４番目以降は再度設定順の３色で繰り返して描画します。

●再利用括弧色
Fn 構文における再利用括弧（""[　]""で表記）の色を設定します。
構文の色と変えることにより、Fn 構文の本来の""[""、""]""と区別することができます。

●変更行表示色
Fn 構文における変更行の印の色を設定します。

助動詞：if 構文の助動詞を定義します。

●助動詞リスト
登録済みの助動詞の一覧を表示します。
一覧から選択することにより、変更や削除することができます。

●名称
助動詞の文字列を入力、修正します。

●時制変化あり
チェックした助動詞は、Function 欄で*時制変化ありのフォント*で区別して表示します。

●追加ボタン
入力した助動詞を追加登録します。

●削除ボタン
*助動詞リスト*から選択した助動詞の登録を削除します。

●変更ボタン
*助動詞リスト*から選択した助動詞を、入力した助動詞に変更します。（上書き）

●標準フォント
*時制変化あり*ではない助動詞のフォントを設定します。

●文字色
*時制変化あり*ではない助動詞のフォント色を設定します。

●文字サイズ
*時制変化あり*ではない助動詞のフォント大きさを設定します。

●時制変化ありフォント
*時制変化あり*の助動詞のフォントを設定します。

●文字色

*時制変化あり*の助動詞のフォント色を設定します。

●文字サイズ

*時制変化あり*の助動詞のフォント大きさを設定します。

●OK ボタン

変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。

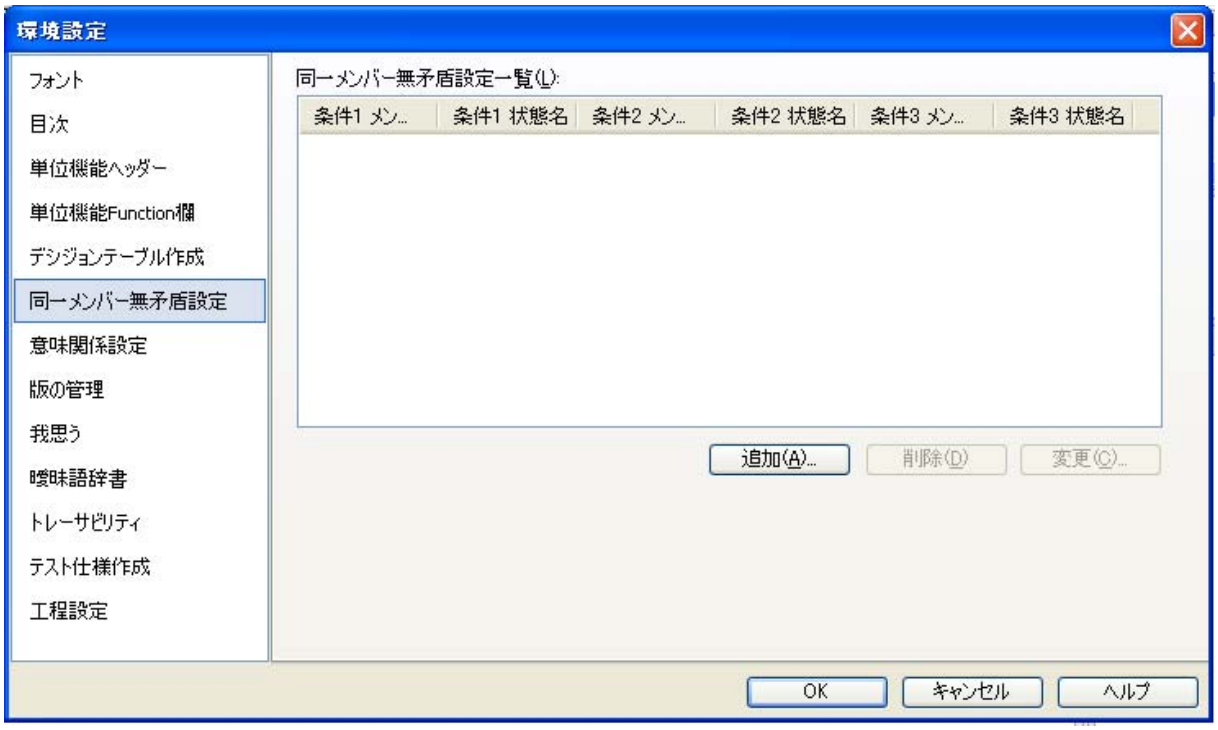
●キャンセルボタン

変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（デシジョンテーブル作成）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[デシジョンテーブル作成]
■機能概要　　：デシジョンテーブル作成の動作環境を設定します。
■　各項目説明：

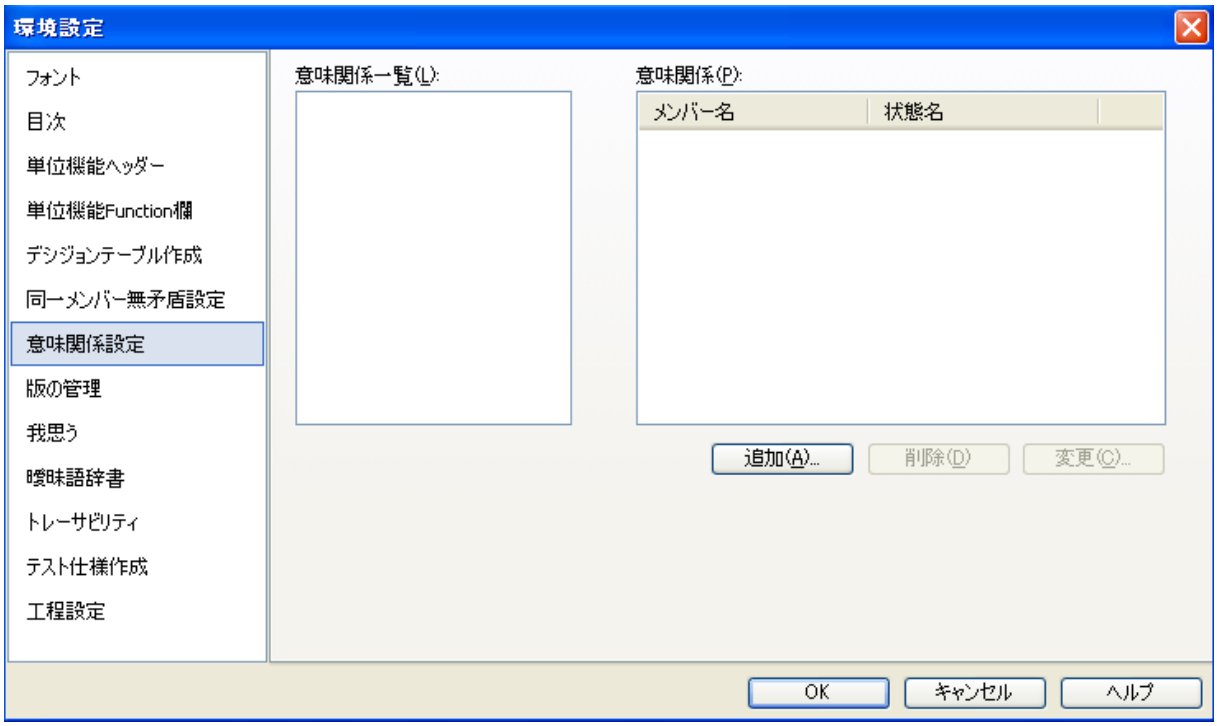
●条件メンバー名一覧の向き
条件文(if 構文、switch 構文)のメンバー名を表示する方向を指定します。
・選択１：行
　　行方向に表示します。
・選択２：列
　　列方向に表示します。
●処理メンバー名の位置
決定文(Do 構文)の表示位置を指定します。
・選択１：先頭
　　条件メンバー名一覧の向きで行を選択の場合、先頭行に表示します。
　　条件メンバー名一覧の向きで列を選択の場合、先頭列に表示します。
・選択２：末尾
　　条件メンバー名一覧の向きで行を選択の場合、最終行に表示します。
　　条件メンバー名一覧の向きで列を選択の場合、最終列に表示します。
●OK ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（同一メンバー無矛盾）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[同一メンバー無矛盾設定]
■機能概要　　：同一メンバー無矛盾設定を登録、編集、削除します。
■各項目説明：



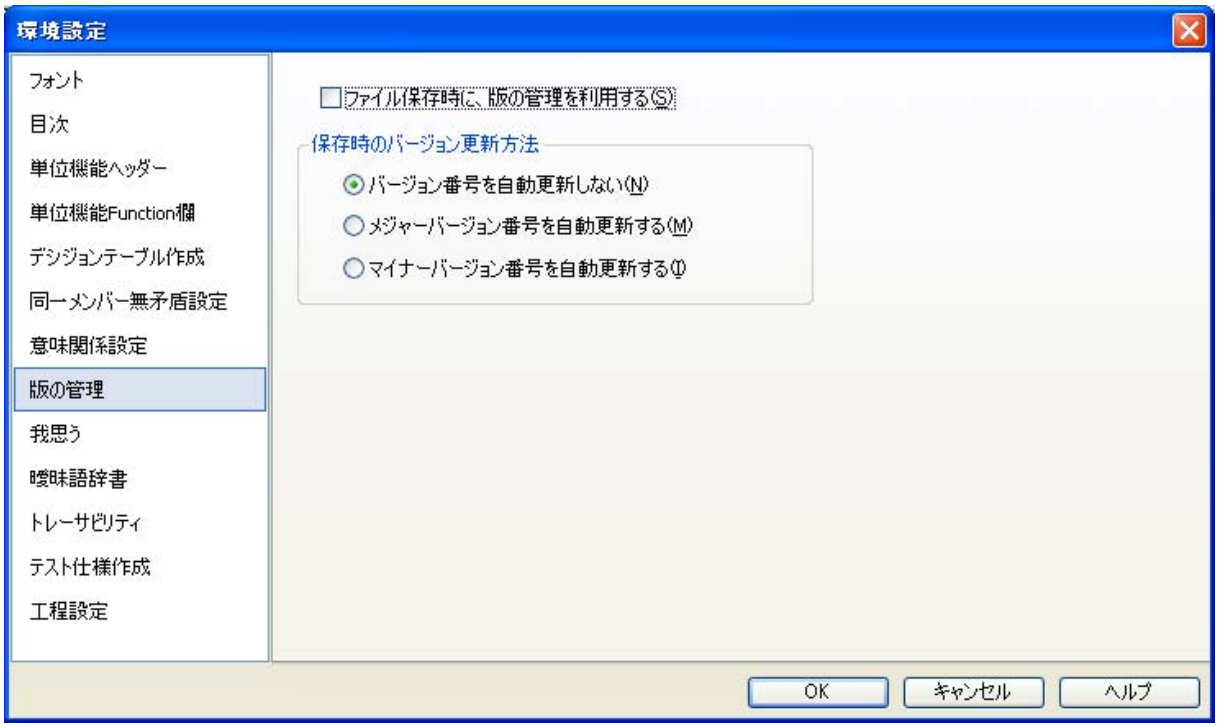
●追加ボタン
　同一メンバー無矛盾設定を追加します。
　同一メンバー無矛盾設定ダイアログを表示します。
●削除ボタン
　登録済の同一メンバー無矛盾設定を削除します。
　同メンバー無矛盾設定一覧から選択した同一メンバー無矛盾設定が削除されます。
●変更ボタン
　登録済の同一メンバー無矛盾設定を変更します。
　同一メンバー無矛盾設定一覧から、対象データを変更します。
●OK ボタン
　変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　　：環境設定（意味関係）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[意味関係設定]
■機能概要　　：意味関係を登録、編集、削除します。
■各項目説明：



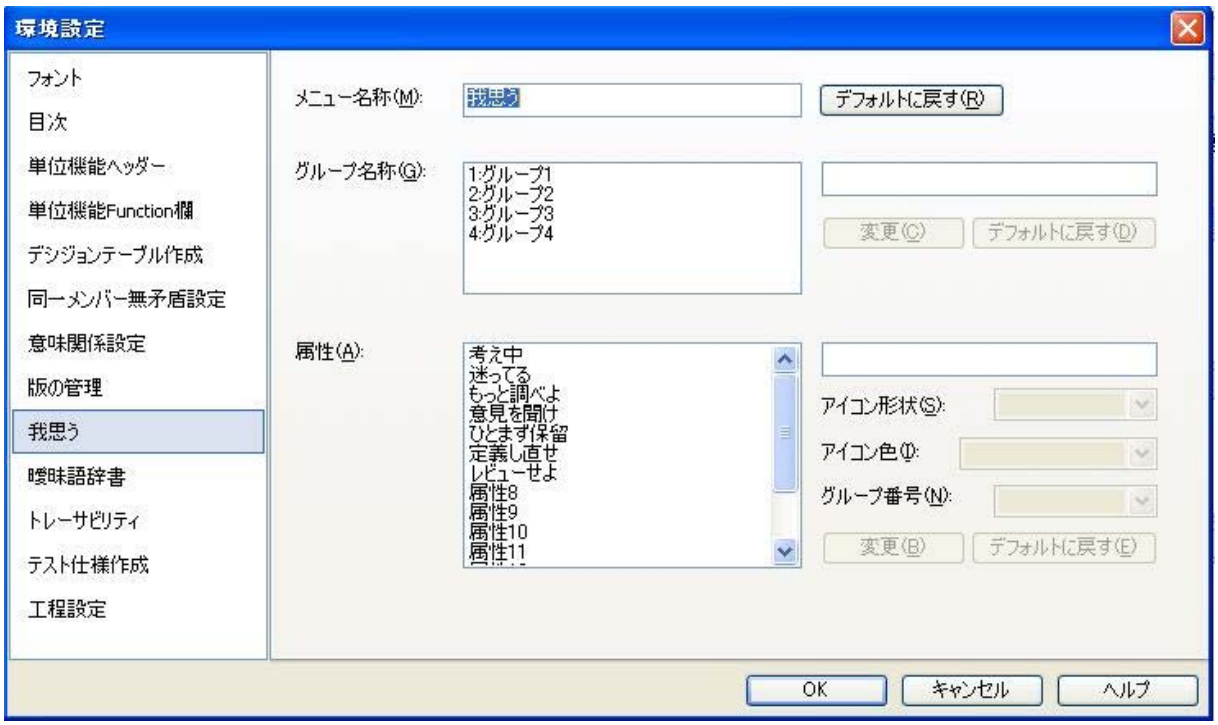
●追加ボタン
　意味関係設定を追加します。
　意味関係設定ダイアログを表示します。
●削除ボタン
　登録済の単位意味関係設定を削除します。
　意味関係設定一覧から選択した意味関係設定が削除されます。
●変更ボタン
　登録済の意味関係設定を変更します。
　意味関係一覧から対象データを意味関係を変更します。
●OK ボタン
　変更内容を反映して、ダイアログ ボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を反映せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（版の管理）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[版の管理]
■機能概要　　：版の管理の動作環境を設定します。
■各項目説明：



●ファイル保存時に、版の管理を使用する
[ファイル]-[名前を付けて保存]または[ファイル]-[上書き保存]のファイル保存時に、版の管理機能を使用する場合に、選択します。
選択しない場合は、通常のファイル保存と同様の操作になります。
●保存時のバージョン更新方法
新しい版を保存する場合のバージョン番号の更新方法を指定します。
バージョン番号は、メージャーバージョン番号とマイナーバージョン番号で構成されています。
・選択１：バージョン番号を自動更新しない
新しい版を保存する場合、バージョン番号を自動更新しません。
・選択２：メージャーバージョン番号を自動更新する。
新しい版を保存する場合、メージャーバージョン番号を自動更新します。
メージャーバージョン番号は、0から９９９９の範囲で管理します。
・選択３：マイナーバージョン番号を自動更新する。
新しい版を保存する場合、マイナーバージョン番号を自動更新します。
マイナーバージョン番号は、0から９９の範囲で管理します。
●OKボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（我思う）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[我思う]
■機能概要　　：我思うの動作環境を設定します。
■各項目説明：



●メニュー名称入力ボックス
　メニュー名称を入力します。
●メニュー名称デファルトに戻すボタン
　デフォルトのメニュー名称「我思う」に戻します。
●グループ名称
　グループ名称リスト：グループ名称の一覧を表示します。
　　一覧から選択することにより、グループ名称を変更することができます。
●グループ名称入力ボックス
　グループ名称を入力します。
●グループ名称変更ボタン
　グループ名称リストで選択したグループ名称を、修正したグループ名称に変更します。
●グループ名称デファルトに戻すボタン
　デフォルトのグループ名称に戻します。
●属性
　属性リスト：属性の一覧を表示します。
　　一覧から選択することにより、属性を変更することができます。
●属性入力ボックス
　属性を入力します。
●アイコン形状
　属性リストで選択した属性のアイコン形状を選択します。
●アイコン色
　属性リストで選択した属性のアイコン色を選択します。
●グループ番号

属性リストで選択した属性のグループ番号を選択します。

●属性変更ボタン

属性の一覧リストで選択した属性の名称、アイコン形状、アイコン色、グループ番号を指定した名称、アイコン形状、アイコン色、グループ番号に変更します。

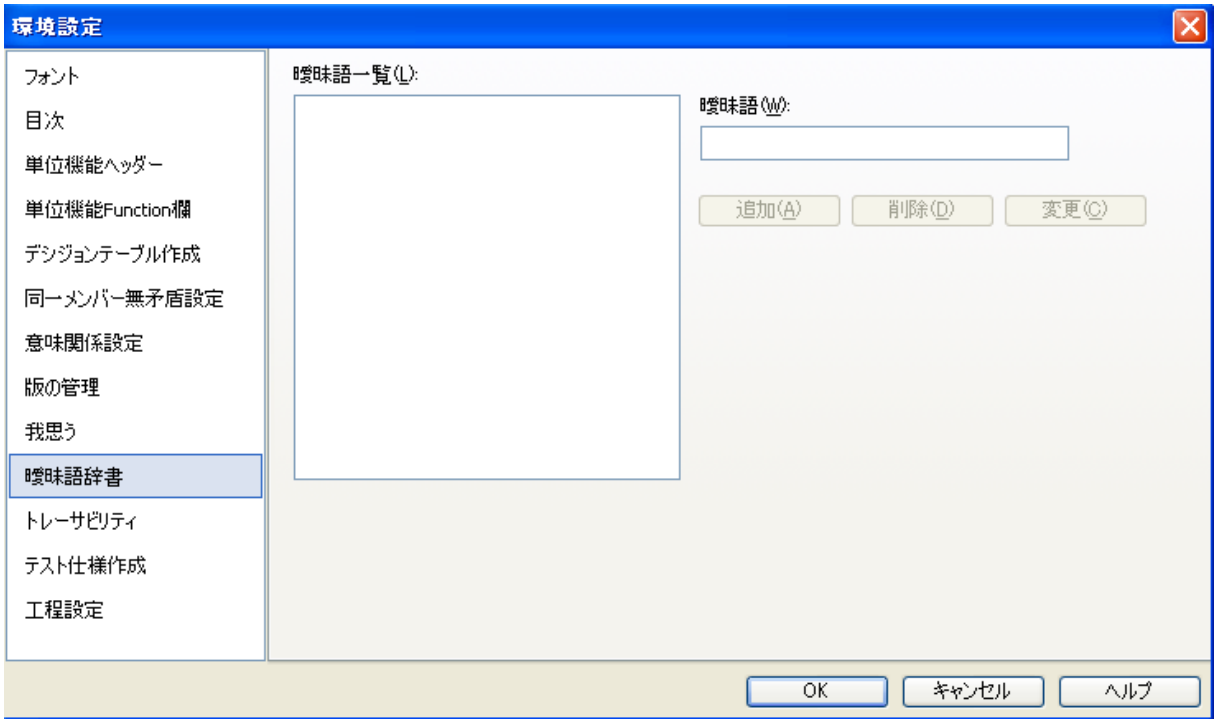
●OK ボタン

変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

●キャンセルボタン

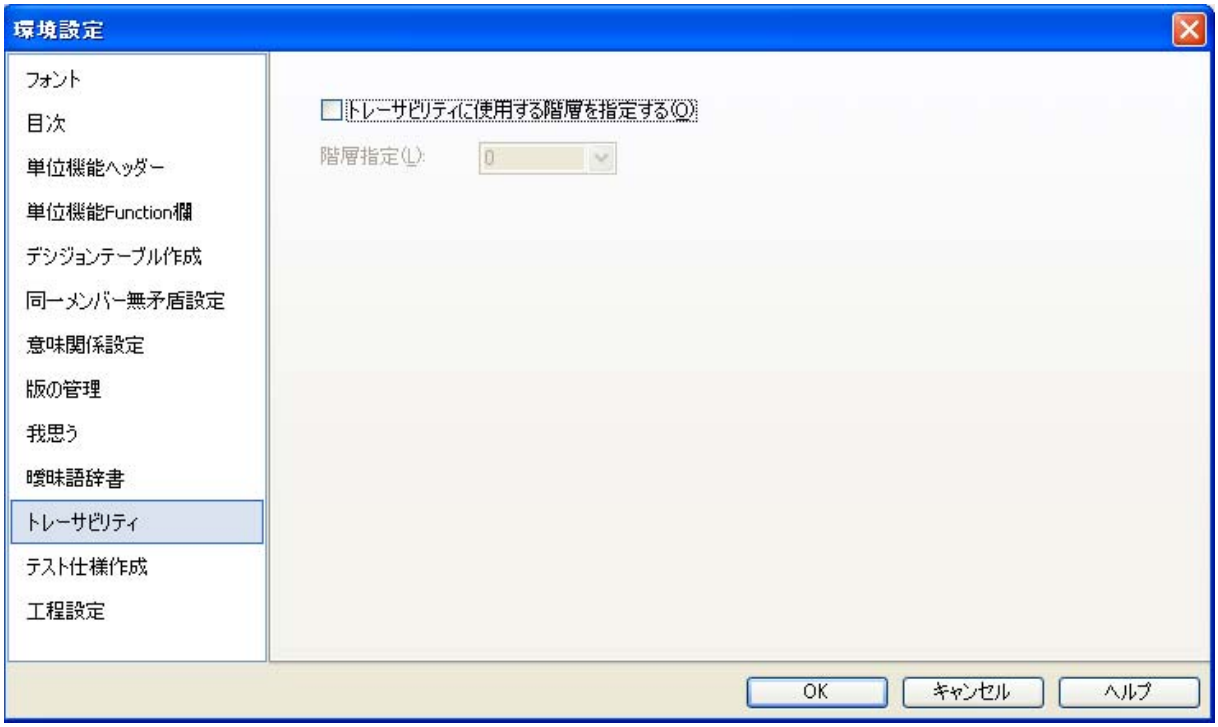
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（曖昧語辞書）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[曖昧語辞書]
■機能概要　　：曖昧語の辞書登録をします。
　　登録した曖昧語は、曖昧語検索で検索します。
■各項目説明：



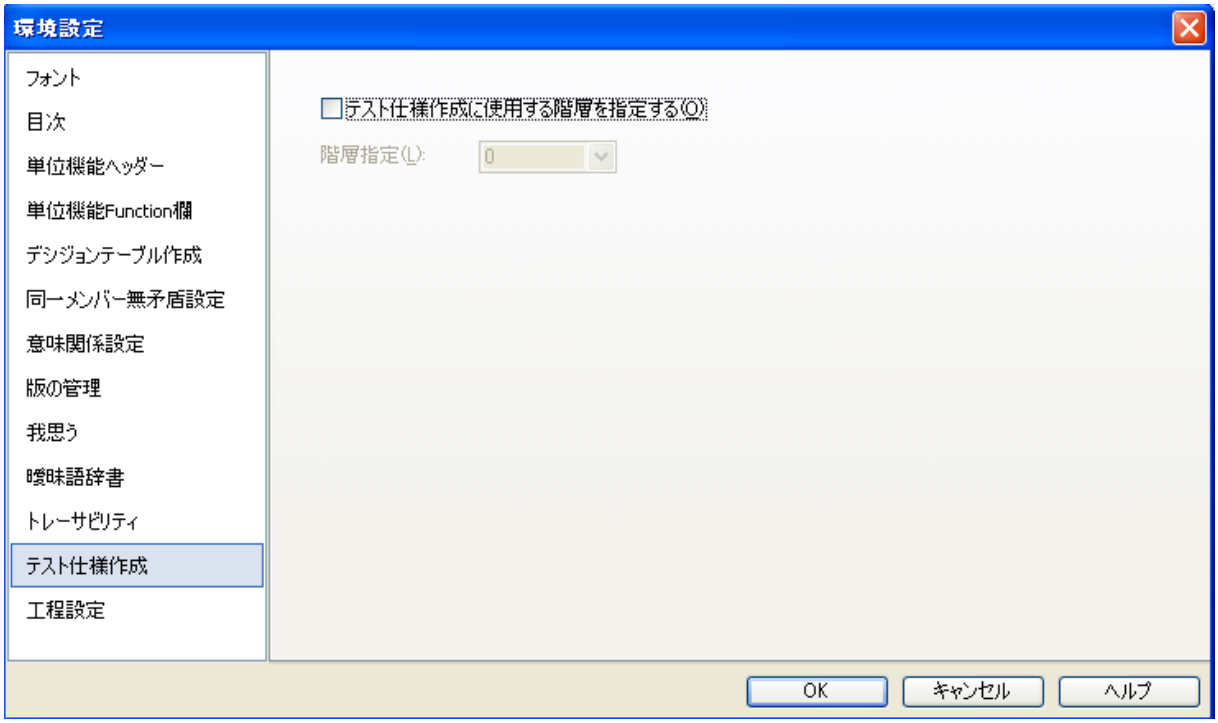
●曖昧語一覧
登録済みの曖昧語を一覧表示します。
●曖昧語
登録する曖昧語を入力します。
●追加ボタン
入力した曖昧語を、追加登録します。
最大 32 個まで、登録できます。
●削除ボタン
曖昧語一覧で選択した曖昧語を削除します。
●変更ボタン
曖昧語一覧で選択した曖昧語を変更します。
●OK ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（トレーサビリティ）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[トレーサビリティ]
■機能概要　　：トレーサビリティ機能の動作環境を設定します。
■各項目説明：



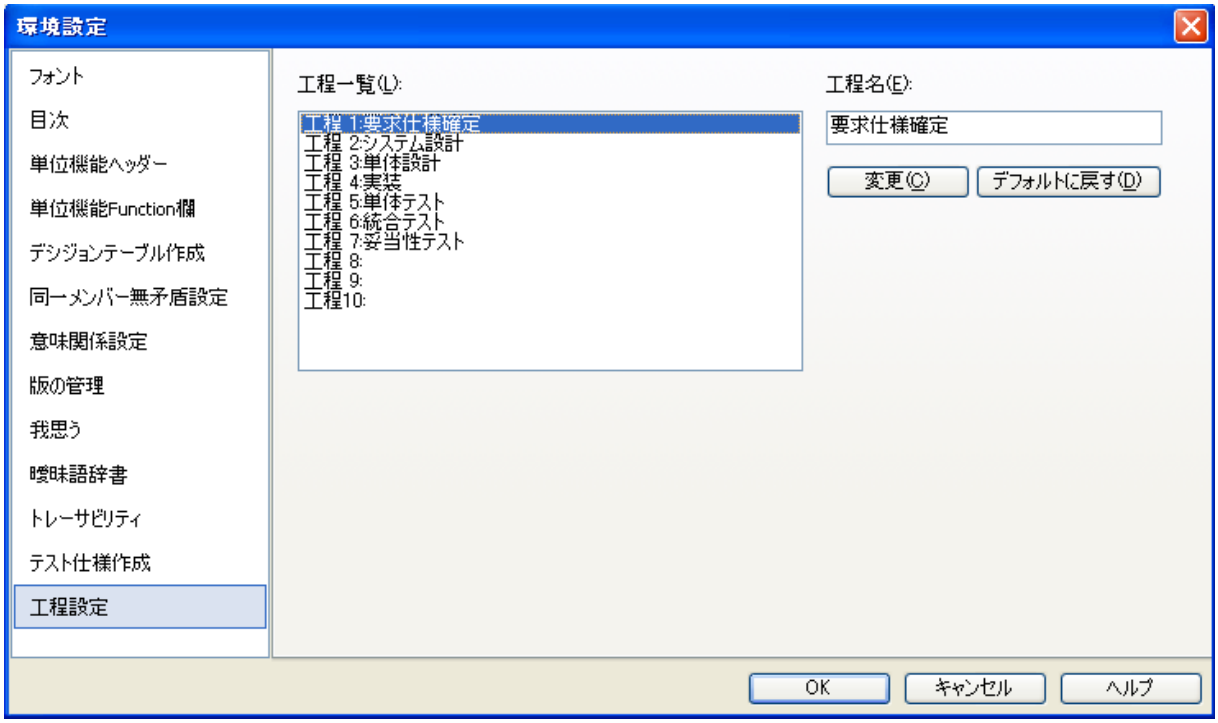
●トレーサビリティに使用する階層を指定する
トレーサビリティの機能で使用する単位機能の階層を決定する場合、選択します。
選択しない場合、すべての単位機能を使用します。
●階層指定入力
　単位機能の階層を指定します。
●OK ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（テスト仕様作成）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[テスト仕様作成]
■機能概要　　：テスト仕様作成の動作環境を設定します。
■各項目説明：



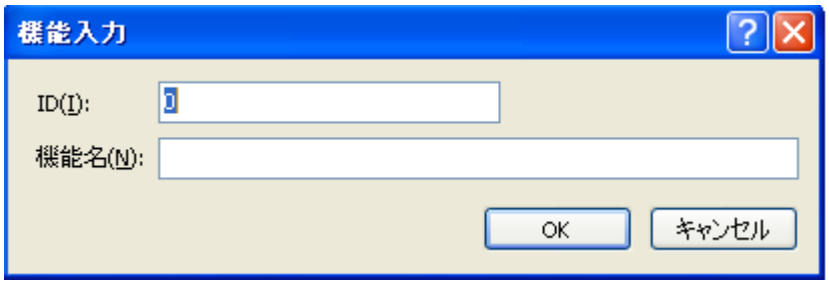
●テスト使用作成に使用する階層を指定する
テストケースの付加情報作成時、参照する単位機能の階層を決定する場合、選択します。
選択しない場合は、テストケースの期待動作（Do 構文）が記述されている単位機能の階層になります。
付加情報：原要求項目・単位機能名・単位機能 ID
●階層指定入力
　単位機能の階層を指定します。
●OK ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：環境設定（工程設定）ダイアログ
■メニュー　　：[ツール]-[環境設定]-[工程設定]
■機能概要　　：開発工程を設定します。
■各項目説明：



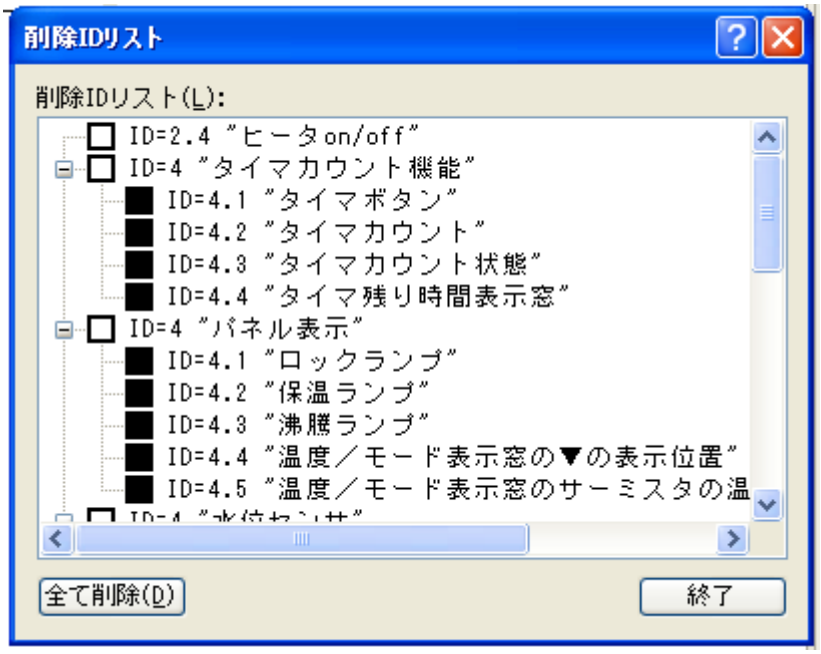
●工程一覧
開発で実施する工程の一覧を表示します。設定された工程は、SLP 文書全体で工程に関する部分に反映されます。
●工程名入力
開発で実施する工程名を入力します。
●変更ボタン
工程一覧で選択した工程を変更します。
●デフォルトに戻すボタン
工程を次のデフォルトに戻します。
工程１：要求仕様確定
工程２：システム設計
工程３：単体設計
工程４：実装
工程５：単体テスト
工程６：統合テスト
工程７：妥当性テスト
工程８：
工程９：
工程１０：
●OK ボタン
変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：機能入力ダイアログ
■階層順目次欄　単位機能ボックスをダブルクリック
　ＩＤ順目次欄　単位機能表示行をダブルクリック
■機能概要　　：階層順目次欄、ＩＤ順目次欄の単位機能の ID、単位機能名の設定をします。
■各項目説明：



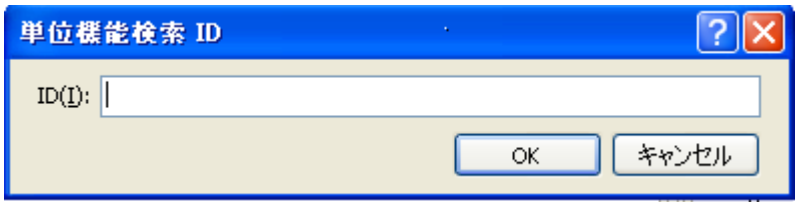
●ID 入力ボックス
　単位機能の ID を入力します。
●機能名入力ボックス
　単位機能名を入力します。
●OK ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：削除IDリストダイアログ
■階層順目次欄、　ＩＤ順目次欄コンテキストメニュー：[削除 ID]
■機能概要　　：階層順目次欄、ＩＤ順目次欄の削除 ID リストの操作をします。
各項目説明：



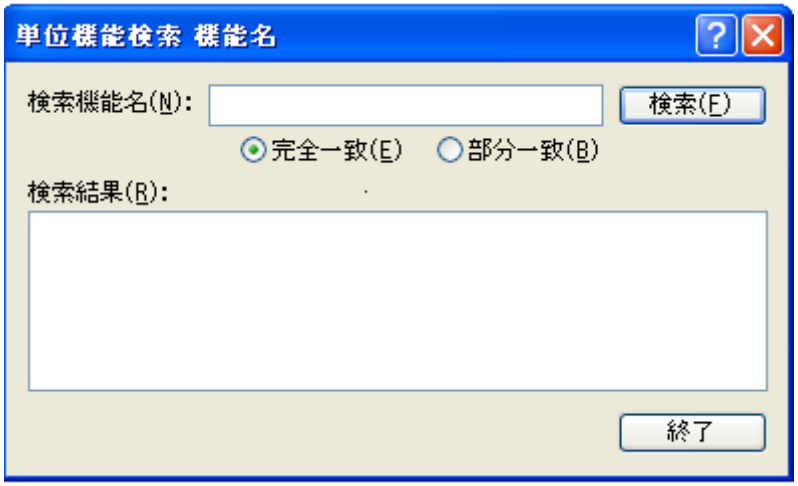
●削除 ID リスト
　削除 ID リストに登録されている単位機能の一覧を表示します。
●全て削除ボタン
　削除 ID リストから、全て単位機能を削除します。
●終了ボタン
　ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：単位機能検索 IDダイアログ
■階層順目次欄、ＩＤ順目次欄コンテキストメニュー：[単位機能検索]-[ID で検索]
■機能概要　　：検索する単位機能の ID を設定します。
■　各項目説明：



●ID 入力ボックス
　検索する単位機能の ID を入力します。
●OK ボタン
　入力された単位機能の ID を検索して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　入力された単位機能の ID を検索せずに、ダイアログボックスを閉じます。

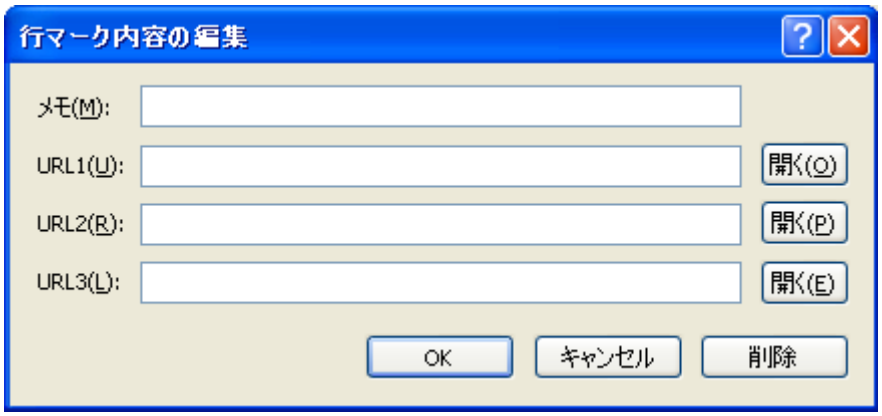
■ダイアログ名　：単位機能検索 機能名ダイアログ
■階層順目次欄、ＩＤ順目次欄コンテキストメニュー：[単位機能検索]-[機能名で検索]
■機能概要　　：単位機能の単位機能名を検索します。
■　各項目説明：



●検索機能名入力ボックス
　検索する単位機能の単位機能名を入力します。
●検索方法

検索する方法を指定します。
・選択１：完全一致
　　完全に一致する単位機能名を検索します。
・選択２：部分一致
　　部分的に一致する単位機能名を検索します。
●検索ボタン
　入力された単位機能名と指定された検索方法に従い、検索します。
●検索結果ボックス
　検索された単位機能名の一覧が表示されます。
●終了ボタン
　ダイアログボックスを閉じます。

■ダイアログ名　：行マーク内容の編集ダイアログ
■Function 欄　行マーク　コンテキストメニュー：[編集]
■機能概要　　：行マーク内容を編集します。
■　各項目説明：



●メモ入力ボックス
　行マークの属性に関するメモを入力します。
●URL１入力ボックス
　行マークの属性に関する URL を入力します。
●開くボタン
　ブラウザを起動して、URL１の内容を表示します。
●URL２入力ボックス
　行マークの属性に関する URL を入力します。
●開くボタン
　ブラウザを起動して、URL２の内容を表示します。
●URL３入力ボックス
　行マークの属性に関する URL を入力します。
●開くボタン
　ブラウザを起動して、URL３の内容を表示します。
●OK ボタン
　変更内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
●キャンセルボタン
　変更内容を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
●削除ボタン
　行マークを削除します。

１４．　サポート

以下の宛先まで、E-mail でご相談下さい。

その際、ご使用のパソコンのメーカー及び型番、Windows のバージョン、搭載メモリ量、ハードディスクの空き容量、グラフィックカード（グラフィックボード）の型番（名称等）も付せてご連絡下さい。

E-mail: slp-support@jfp.co.jp
株式会社ジェーエフピー　SLP サポート係　宛